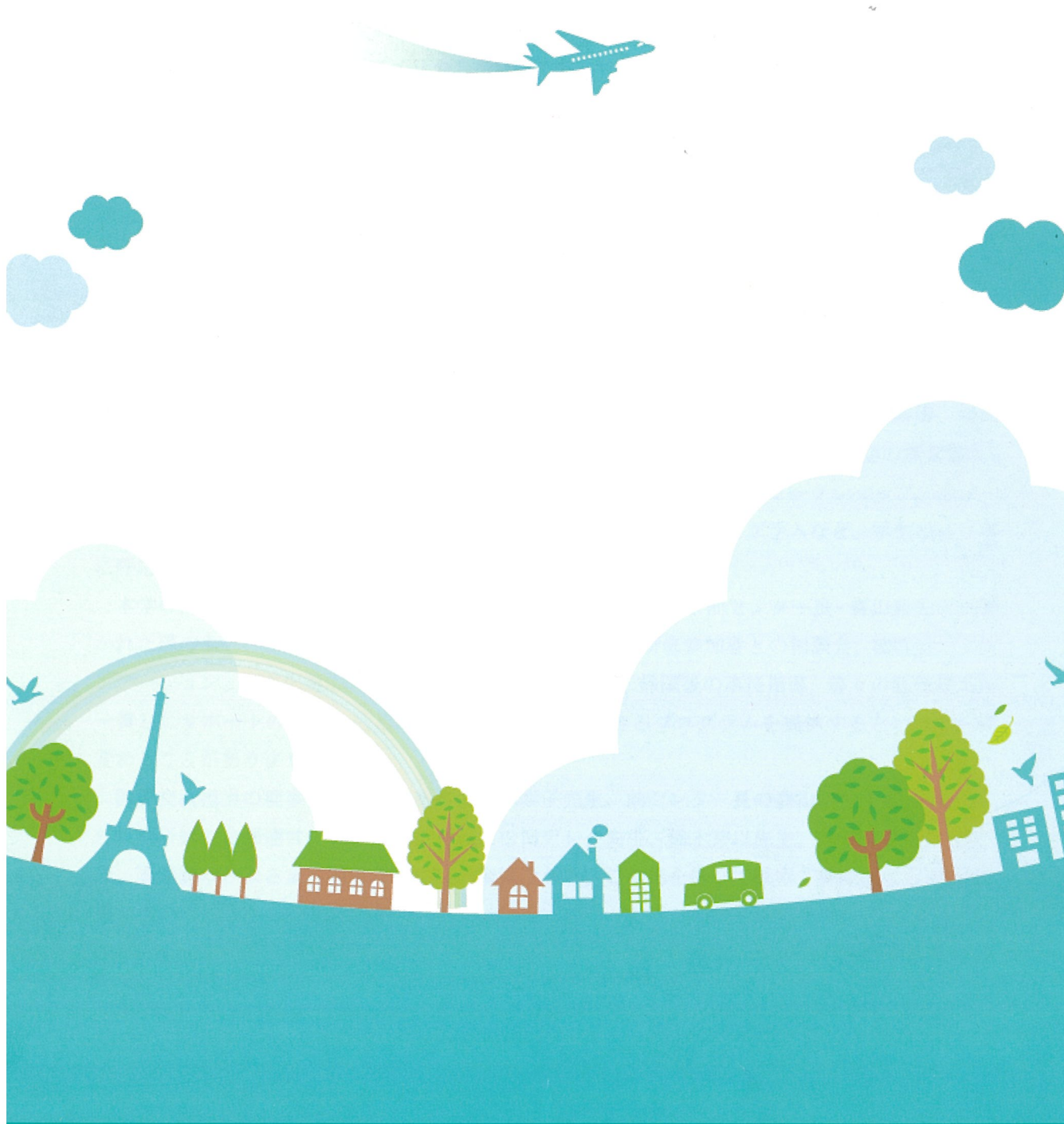


2019 年度夏季短期研修（2019 年 8 月～9 月）
海外短期研修報告書

Report on short-term study abroad programs



2019 年度夏季短期研修報告書の発刊にあたって

国際教育センター長 棚橋 訓

お茶の水女子大学の 2019 年度夏季短期研修派遣プログラムに参加して世界各地の大学で海外短期研修を修了した本学学生による帰国報告を発刊する運びとなりました。

本報告に掲載された学生たちそれぞれの文章にお目通しいただき、海外短期研修を通じて学生個々がいかに成長を遂げたのかという軌跡をご確認いただければと存じます。そして、研修参加者が充実した留学体験を得て、その体験が参加者個々の成長に少しでも資することができたのであれば、それは短期研修派遣プログラムに携わったもののひとりとして、正に望外の喜びでもあります。

2019 年度夏季海外短期研修に参加した学生は 53 名で、その留学先の内訳は、カリフォルニア大学デービス校（アメリカ合衆国）13 名、カリフォルニア大学リバーサイド校（アメリカ合衆国）4 名、南オレゴン大学（アメリカ合衆国）7 名、ロンドン大学東洋アフリカ学院（グレートブリテン及び北アイルランド連合王国）4 名、マンチェスター大学（グレートブリテン及び北アイルランド連合王国）8 名、モナシュ大学（オーストラリア連邦）2 名、マギル大学（カナダ）3 名、梨花女子大学校（大韓民国）1 名、台北医学大学（中華民国）1 名、ユトレヒト大学（ネーデルラント王国）1 名、バリャドリッド大学（スペイン王国）1 名、キャンパス・フランスによる留学 2 名、と多岐に亘ります。

2004 年に英語語学研修プログラムに限定してスタートした本学の海外短期研修ですが、現在では、多様な英語研修（実践的英語力を磨くプログラム、アカデミック英語を磨くプログラム、科学者・技術者のような専門家に求められる英語のコミュニケーション・スキルを磨くプログラム等々）、英語以外の言語の語学研修、各派遣大学に設置されている正規専門科目の聴講、現代世界の諸課題（多文化共生、グローバル・イシューの探求、環境問題、持続可能な社会の探求等々）をめぐる特別講義の聴講、さらには、各種のアクティブ・ラーニング（ワークショップ、フィールドワーク、ディスカッション、ディベート等々）を核に据えたプログラムなど、学生のニーズに呼応して、多様化するとともに新たな展開を模索し続けています。

本学の海外短期研修プログラムが多様化し進化を続ける一方、前センター長・森山新先生が築かれた礎のもと、各プログラムの事前の内容精査、前年度研修参加者との相談会、渡航前オリエンテーション、異文化適応・危機管理に関する事前研修、帰国後の事後指導、等々の肌理細かな一貫したサポートの実施を通じて、研修の質を保証できるプログラムを提供するという方針は変わることがありません。

国際交流担当の理事・副学長である佐々木泰子先生、前センター長の森山新先生はじめ、海外短期研修の企画運営にご尽力くださった松田ダレク先生、鈴木芽以先生、国際本部員の先生方、国際課のみなさま、関係各位には、末筆ながら、この場を借りて改めて深謝申し上げる次第です。

2020 年 2 月吉日

目次

マンチェスター大学（イギリス）	1
ロンドン大学 東洋・アフリカ研究学院（イギリス）	19
カリフォルニア大学デービス校（アメリカ）	29
カリフォルニア大学リバーサイド（アメリカ）	55
南オレゴン大学（アメリカ）	65
マギル大学（カナダ）	81
モナシュ大学（オーストラリア）	89
梨花女子大学校（韓国）	95
バリャドリッド大学（スペイン）	99
グルノーブル大学（フランス）	103

MANCHESTER
1824

The University of Manchester



マンチェスター大学（イギリス）

研修期間：2019年8月12日～9月6日（4週間）

滞在：大学寮

研修内容：英語研修、イギリス文化学習

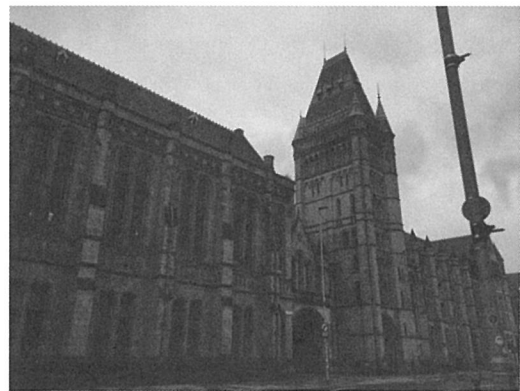
マンチェスター大学研修を終えて

理学部 化学科

1820314 2年 羽鳥仁美

授業内容

初日にクラス分けテスト(ライティングとスピーキング)が行われ、私は日本人と中国人で構成されたクラスに入りました。1クラスは10人程度でしたが、同じクラスの中国人学生のほとんどが1週間後に帰国してしまったので、第2週目からはほぼ日本人のみのクラスになりました。月曜日から木曜日の授業は9時30分から90分×3コマで、休憩が30分、お昼休みが1時間ありました。ゲーム形式で文法やイディオムを学んだり簡単なプレゼンテーションをしたりしました。また、動画を用いたリスニング練習や、マンチェスターにゆかりのある画家の映画を見てその内容をまとめるなど、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングをバランスよく学べました。私は自分から発言することが得意ではなかったのですが、先生が1人1人に声をかけてくださったので発言しやすく、だんだんと自分から発言できるようになっていきました。金曜日は9時30分に大学に集合し、マンチェスター中心部の美術館や博物館を見学しました。



一番印象に残っている授業は、市内中心部の図書館で、来館されている一般の方に対してインタビューをしたことです。はじめは自分の英語が一般の人に伝わるのかどうかとても不安でしたが、どの方も快くインタビューを受け、親切に答えてくださり、用意していた質問以外のことも聞くことができたことがとても嬉しく、自信にもなりました。

生活全般

宿泊先は大学の寮で、大学から徒歩で約15分のところにありました。近くにスーパーやコインランドリー、カフェなどがあり、とても便利でした。部屋は1人部屋で、トイレ、キッチン、シャワーは共用でした。寮には洗濯機と乾燥機が1台ずつあったのですが、利用するのにカードを買わなければならなかったり、故障で使えなくなることがあったので、自分でできるものは手洗したり、コインランドリーを活用するなどの工夫が必要でした。部屋にはベッド、机、クローゼット、洗面台がありとてもきれいでした。

寮の近くに安いスーパーがあったので食事は自炊することが多かったです。食材やキッチン用品は友人と割り勘して使っていました。

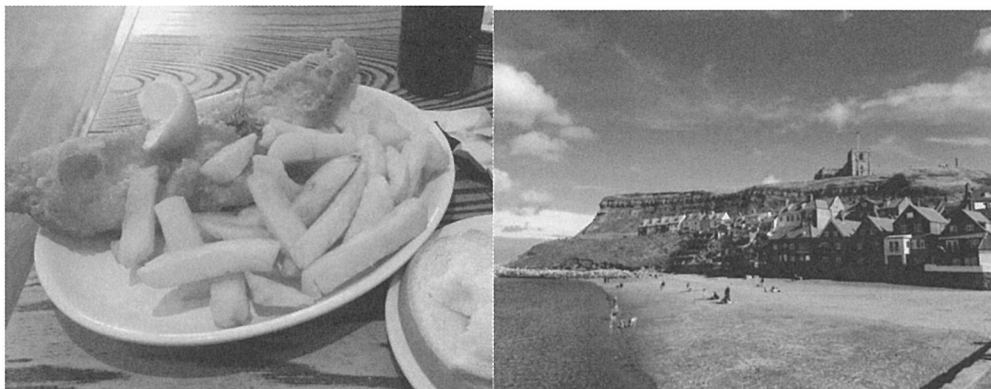
気候は日本でいうと秋くらい涼しく、半袖の服に長袖の上着だと少し寒いと感じるくらいで

した。また、天気がとても変わりやすいので外出には折り畳み傘が必須でした。

課題はあまり多くなく自由時間が多かったので、放課後に市内中心部のショッピングセンターや博物館に行くことができました。また、寮から歩いて20分くらいのところにダンススタジオがあり、飛び入りでレッスンに参加できたことがとても面白かったです。

週末の過ごし方

週末は International society という団体が企画してくれた 1day trip に参加して大学からバスでヨークやウィットビーに行ったり、自分で電車のチケットを買ってリバプールやエジンバラに行ったりしました。また、イギリスでは8月下旬に3連休があったので、友人と1泊2日でロンドンにも行きました。様々な都市に行かずと憧れていたイギリスの街並みを見ることができて本当に嬉しかったです。一人で旅行に行くときは道を聞いたり、写真を撮ってもらったりするなど、なるべく英語を使うように心がけました。特に印象に残っているのはウィットビーです。イギリスに来るまでウィットビーがどのようなところなのか全く知らなかったのですが、海がとてもきれいで、今まで自分が持っていたイギリスのイメージとは違う街並みが広がっていてとても素敵でした。また、キャプテンクックの博物館に行った時に博物館の方が展示品を一つ一つ丁寧に説明してくださったことが思い出に残っています。



感想

今回の研修に参加して、英会話力の向上だけでなく、同じクラスの中国人学生と仲良くなれたこと、同じ大学の友達ができたと、生活力が身についたことがとても嬉しかったです。中国人学生とは1週間ほどしか一緒に過ごせませんでしたでしたが、私たちにたくさん話しかけてくれたり、昼食を一緒に食べに行ったりとたくさん交流することができました。また、普段の大学生活では同じ学科や学年の人としか知り合うことができませんが、今回の研修で様々な学科、学年の人と友達になることができました。

留学前は1ヶ月も日本語が通じない場所で過ごせるだろうかと不安でしたが、友人や両親、国際教育センターの方々などの助けで本当に良い経験になり、充実した日々を過ごすことができました。また、英語を勉強するための強いモチベーションを得ることができました。帰国後も英語を話す習慣を欠かさず、この経験を無駄にしないように勉強していこうと思います。

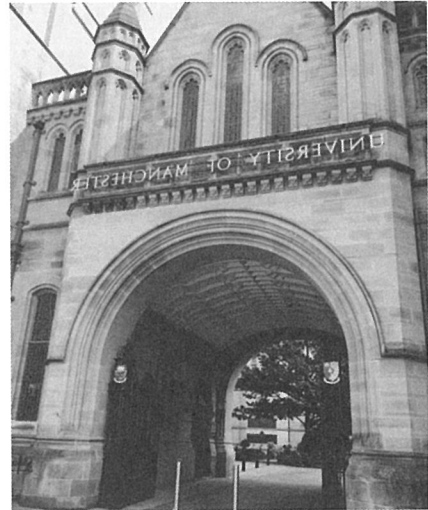
マンチェスター大学短期研修を終えて

文教育学部 言語文化学科

1810286 吉田早織

授業内容

初日にテストと面接を受け、クラス分けが行われました。私のクラスは最初の週が中国人 10 人、日本人 4 人、イタリア人 1 人で、2 週目に中国人留学生が帰国し日本人 2 人が加わりました。授業は 1 コマ 90 分で、通常授業が週 10 コマ、イギリスの文化を学ぶ Target Module という授業が週 4 コマというカリキュラムでした。3 人の先生が授業を担当してくれましたが、どの先生の英語も聞きやすく、優しくて英語を話しやすい環境でした。授業はペアワークが多く、自分の意見を話すことを求められました。先生が景品を用意してくれてチーム対抗でゲームをした時はとても盛り上がりました。Target Module の授業は毎週金曜日に美術館や博物館などに出掛け、そこで学んだことをスライドを使って発表するというものでした。どんな発表でも先生が必ず褒めてくださったので自信になりました。どの授業も宿題はほとんど出されませんでした。



生活全般

大学から歩いて 15 分程のところにある寮に滞在しました。基本的に朝食はシリアルやフルーツで、昼食は簡単なサンドウィッチを作って持って行きました。夕食は友達と食材を買って自炊したり、外に食べに行ったりしました。大学から寮までの間に 5 軒くらいスーパーがあるのでとても便利でした。ただ、日本よりも営業時間が短いので気をつけた方がいいです。自炊するにあたって、料理道具やカトラリー、お皿、コップなど基本的なものは寮にありました。イギリスは外食代が高いので、できる範囲で自炊して食費を節約しました。

洗濯は、寮に洗濯機と乾燥機が 1 台ずつありましたが、2 週目ぐらいに壊れてしまいなかなか修理してもらえず、結局ほとんど使えませんでした。そこで、部屋で手洗いしたり、寮の近くにあるコインランドリーに行って洗濯したりしました。洗濯代は高めなので友達とまとめてするといいと思います。

マンチェスターではほぼ毎日雨が降るので折り畳み傘は必須です。また、肌寒い日も多く私は毎日長袖を着ていました。

お金は、現金4万円分とクレジットカードを2枚持っていきました。現金はバスに乗るとき、友人と割り勘するときを使うぐらいだったのでもっと少なくてもよかったです。ほとんどのお店がクレジットカードに対応していました。



休日の過ごし方

金曜日の午後、土曜日、日曜日は授業が無いので自由に過ごすことができました。

International Society という団体主催のバスツアーに2回まで無料で参加することができ、私はヨークとウィットビーに行きました。目的地に着いてからは自由行動なので、自分の行きたい場所に行くことができよかったです。どちらもすごく素敵な街でした。また、友人と一

緒に電車やホテルを予約して、ロンドン旅行もしました。電車のチケットは当日買うととても高いので、あらかじめネットで買うことをお勧めします。1泊2日だったのでかなり予定は詰め詰めでしたが、とても充実した旅行になり行ってよかったですと思いました。

最後に

留学は初めての経験で行く前は不安もありましたが、非常に充実した日々を過ごすことができこの研修に参加して本当によかったです。授業はもちろん、それ以外の場面でも多くの発見と学びがありました。この研修で得たことをこれからの学習に生かしていきたいです。今回の留学を支えてくださった全ての方々に感謝申し上げます。



マンチェスター大学研修を終えて

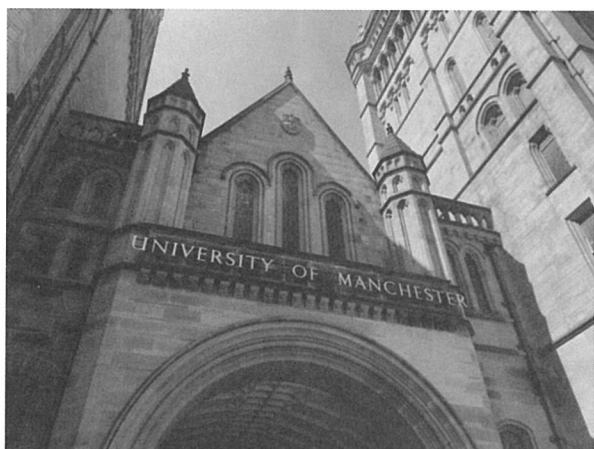
文教育学部 言語文化学科

1810241 高橋 里奈

授業内容

初日にクラス分けのテストがありました。与えられた二つのテーマの中から一つを選んで論述するライティングのテストを行ったあとで、1対1のスピーキングのテストがありました。スピーキングのテストは先生がいくつか質問をし、それに答えるという会話形式のものでした。

次の日からテストによって振り分けられたクラスでの授業が始まりました。私のクラスは日本人10人、サウジアラビア人1人のクラスでしたが、お茶大生は私1人でした。日本人



が多いクラスでしたが、みんな積極的に英語を話している印象でした。授業は1コマ90分で、月曜日から木曜日までが3コマ、金曜日が2コマでした。教科書を使った授業や発表をする授業のほか、ターゲットモジュールと呼ばれる授業などを受けました。金曜日はターゲットモジュールの授業で実際に学校の外に出かけました。現地の人にインタビューする授業などもあり、最初は少し抵抗がりましたが、とても実践的でした。

放課後、休日について

大学での授業は月曜日から木曜日が15時半まで、金曜日がお昼頃までであったため、放課後をとっても有意義に使うことができました。マンチェスターの博物館や美術館は入館料が無料のところが多かったので時間があるときにはぜひ行ってみるといいと思います。

前述の通り、私のクラスは日本人ばかりだったのですが、一度中国人と合同の授業があったため、そこで仲良くなった中国人と遊んだりもしました。また、他大学の友達と出かけたリ、食事に行ったりすることもありました。

また、大学の International Society が用意してくれたイベントに参加したり、ツアーで出かけたりしました。いくつかのイベントは中止になってしまったのですが、カクテルパーティーやチョコレートのイベント、アフタヌーンティーのイベントがありました。休日には日帰り旅行に出かけるプランもあり、いくつかの選択肢の中から2箇所まで無料で行くことができました。私はヨークとウィットビーに行きました。バスが目的地についてからは自由行動でした。そのため、思っている以上に時間があるので、バスに乗っている時間などを

利用して、事前に行きたい場所や食べたいもの、買いたいものなどを調べておいたほうが良いと思いました。

バンクホリデーというイギリスの祝日を利用して、ロンドンに一泊二日で旅行に行きました。友達と交通手段を調べたりホテルを予約したりして行きました。特に観光地に行くときは、すられないように腰に巻くベルト型貴重品入れを利用するなど対策を取っていました。この時の週末は3連休になるため、ここで旅行に行っている人が多かったです。直前になればなるほど高くなってしまいうのでなるべく早めに計画を立てたほうが良いと思います。



生活全般

マンチェスター大学の寮に滞在しました。一人部屋で、部屋にはベッド、机、椅子、クローゼット、洗面台があり、快適に過ごすことができました。シャワー、トイレ、キッチンフロアで共同でしたが、同じフロアにはほとんどお茶大生しかいなかったため、時間など相談してうまく使っていました。他のフロアでは他大生が生活していたため、騒音などにはお互い気をつける必要がありました。部屋に置いていたお金を盗まれてしまったと言っている人もいたので、たとえ短時間でも部屋を離れるときは鍵をかけることが大切だと思いました。

寮は大学から歩いて15分ほどの場所にあつたため、徒歩で通学していました。寮の近くはスーパーや飲食店なども充実しており、とても便利でした。ほとんどのお店がレジ袋を有料にしているため、エコバックのようなものを持ち歩いていたほうが良いと思います。外食しない日の食事は自炊をしていましたが、食材の節約にもなるので友達と一緒に作ることをお勧めします。私は友達2人と同じ金額ずつ出し合って共同のお財布に入れて、それで買い物をしていました。割り勘をする手間も省けるし、食材を余らせてしまうことも防げるのでとてもよかったです。

最後に

大学生のうちに一度は留学をしてみたいという夢をついに叶えることができました。行きの飛行機が大幅に遅延したり、そのせいで大急ぎで乗り継ぎしなくてはならなかったり、挙句の果てにロストバゲッジまでしてしまったり、トラブル続きの始まりではありましたが、それも含めてイギリスで過ごした4週間は非常に貴重なものでした。

また、この度は本学奨学金奨学生に採用してくださり、ありがとうございました。今回の研修を通して、英語学習に対するモチベーションも非常に高まりました。この気持ちを忘れずにこれからも頑張ります。

マンチェスター大学研修を終えて

人間文化創成科学研究科 理学専攻数学コース

1940606 森島 佑美

授業内容

初日の Writing と Speaking のテストでクラスが決まり、基本的にはずっと同じクラス。レベルが上のクラスの方が明らかに英語に対する上昇志向が強く、授業も積極的・活発的なので、初日のテストが研修の充実度を左右すると言っても過言ではない。

私のクラスは最初の 2 週間はロシア人と同じクラス（日本 7 人ロシア 5 人）で、最後の 2 週間はロシア人が帰国してしまったため日本人のみのクラスだった。日本人は、お茶大に加え、上智大と東京理科大も一緒であった。

ロシア人は先生からの問いかけに瞬時に反応するので、最初は自分の意見がまとまらないうちにロシア人が次々発言するのに圧倒された。英語での議論に積極的に参加することや分からないことは授業中にすぐ質問することなど、授業を受けるにあたって大切な姿勢をたくさん学んだ。自分もロシア人の勢いに飲まれないようにたくさん発言したいと思うようになり、より集中して先生の話聞き、自分の意見をまとめながら授業に臨むように心がけた。

授業では、教室外でのアクティビティも多かった。最も印象的だったのは、「Extinction Rebellion」という気候変動に対して政府に行動を呼びかける団体のデモを見に行き、インタビューを行ったことだ。後々調べてみると、ヨーロッパでは気候変動に対する関心が非常に高まっているようで、その現場を実際に目撃できたのは貴重だったと感じている。

課外活動など

日本人と話すのももちろん楽しいのだが、あまり日本人同士で仲良くしすぎると現地で英語に触れる機会が少なくなってしまうので、意識して単独行動をとることも多かった。

授業が一緒のロシア人と仲良くなり、一緒にマンチェスター観光をしたり、パブに行ったりした。それ以外にも、International Society が主催している放課後 15-17 時の Wednesday Social で、様々な国から来た留学生と交流することができる。私は毎週できるだけ参加し、趣味や研究・各国の文化の違いなどについて、お茶をしながら団欒した。

また、オープンクラスの大人バレエ教室が大学から近い位置にあったため、週 2・3 回のペー



クラスのみならず



Wednesday Social のメンバーと

スで通っていた。先生は非常に優しく、授業前後に話しかけてくれ、何回か通っていると名前を覚えてくれた。大学は夏季休暇中なので、現地の人と接する機会が少なかったため、現地の人と話せる貴重な機会にもなった。

観光もいろいろなところに行った。大学主催のデイトリップでヨーク・ウィットビー・湖水地方に行き、ひとり旅でリバプール・リーズ、母と待ち合わせしてロンドンにも行った。電車やバスなどの公共交通機関が発達しているので、単独行動が取りやすく自分の行きたい場所に行きやすい。せっかくイギリスまで来たのだから、行きたいところは事前にリサーチして計画を立てておくのが良いと思う。



バレエ教室の先生と

寮生活

寮は大学まで徒歩 15 分程度。バスもあったが、大通りをまっすぐ歩くだけなので治安も良く毎日みんな歩いていた。寮の建物は全員日本人で、お茶大生は福岡女子大の学生とともに 1 階でキッチン・シャワー・トイレを共有で使用していた。セキュリティは 2 段階の鍵で対策されていたが、不審者が他大学の学生の部屋に侵入した事件もあり、自室の施錠は必須であった。

お茶大生は自炊をしている人が多かったが、私は自炊に慣れていなかったことと、自炊の時間を他のことをする時間に充てたかったのでほとんど行わなかった。スーパーの冷凍食品や冷蔵の完成品（パスタやラザニアなど）、パン、果物などは十分安く種類も豊富である。イギリスは物価が高いとよく言われるが、食べ物については外食を除けばそこまで高くないと感じた。

終わりに

私は、リーディング大学院で自分の英語力の無さを実感したことと、研修後に学外の国際交流事業に参加することが決まっていたこともあり、この研修でできるだけ英語に触れる機会を増やして苦手意識を克服したいと考えていた。そこで、授業で積極的に発言することはもちろん、放課後や土日でもできるだけ英語に触れる機会を求めて自発的に行動するように努めていた。

結果、英語が上達したかはわからないが、文法を気にせずに緊張感なく話せるようになり、苦手なりにも英語でとにかく話してみようという積極性が出て来たように思う。研修前は英語を避けようとする気持ちがはたらく事があったが、英語に対する向き合い方が変わったように感じている。その後の国際交流事業でも、英語でのディスカッションの際に積極的に議論に参加し、自ら挙手して 7 カ国の青年派遣団員の前で意見を述べることもできた。これはこの研修を経験せずにはできなかったことだと思う。

これからも英語を話す機会を減らさないよう、今学期英語スピーキングの授業を複数取るようにした。この研修での学びを契機として、英語の学習に今後も邁進したいし、ディスカッションや皆の前での発言・発表なども上達できるように努力したいと思う。

マンチェスター大学研修を終えて

文教育学部 人文科学科 2年

1810127 菅原 亜希子

1. 学習について

私は、マンチェスター大学の English Summer Program に参加しました。最初にクラス分けテストがあり、自分のレベルにあったクラスで 1 ヶ月間スピーキングを中心に学習します。正直私は自分がどの程度のクラスで学んだのか未だにわかっていないのですが、とりあえず中国人の学生が比較的多いクラスでした。多分もっと上のクラスにはロシア人たちがいたと思います。中国人の学生たちは私たちの何十倍も英語ができます。でも、ここで落ち込む必要はありません。彼らと毎日何かしら喋っていただいたいわかるようになりますし、絶対会話をやめないことが大事だと思いました。それと、先生にも積極的に話しかけてとにかくなんでもいいから喋ることに注力しました。文法や発音はその度に直していただいて覚えられるので、一番効果的な方法だったと思います。あとは、ターゲットモジュールというイギリスやマンチェスターの文化について実際街をまわりながらする授業が週に3コマありました。これは、美術館や街の色々なところをまわれるので積極的に参加してみると楽しいと思います。残念だった点は、中国人学生が最初の一週間で帰ってしまい日本人学生だけになってしまったことと、先生たちも色々大変な時期だったらしくクラスが勝手に合体して、ただの日本人学生の集団の授業になってしまった週があったことです。日本人同士でも意識して英語を話す努力は少なからず必要になりました。

2. 生活そのものについて

マンチェスターについてすぐにお茶大生全員の荷物が所謂ロストバゲージ状態になりました。防寒具も全部そこに入っていたので寒すぎて初日は全く眠れませんでした。マンチェスターは日本の 11 月くらいの気温なのに加え、雨が降るので寒かったです。手荷物に 1 泊分は入れておくべきでした。次の日無事荷物は寮まで届きましたが、気が気じゃなかったです。寮の部屋は綺麗でとても快適でした。シャワーやトイレも特に汚いということはないです。1 番の問題は洗濯機で、汚れ落ちも良くないしすぐ壊れました。最後の 2 週間くらいはほぼ壊れていて結局寮の近くにあるコインランドリーを使っていました。キッチンも、私は自炊を頑張っていました。最後の方になると疲れてそれどころじゃなくなったので外で買うことと自炊をうまく併用する方がいいと思います。友達とスパイスを買ってきてそこからカレーを作ったのはいい思い出です。クッキーを焼いている人もいました。近くにスーパーとワンポンドショップがあったので

日用品はそこで友達と買って共用にしていました。あと、最終週に泥棒が他大生の部屋に入ったという事件があったので戸締りは必須です。

3. その他の時間について

土日は完全に休みだったので、ある団体が企画している日帰りのフリートリップに行くか、自分で旅行に行きました。私はフリートリップでヨーク、ウィットビーにいき、自力でリヴァプール、友達と一泊二日でウィンダムミア、二泊三日でロンドンに行きました。休んでいる暇がないくらい毎週末旅行していました。ウィンダムミアでは、終電だったにも関わらず、電車が運転手の不足という謎の理由でキャンセルになり、タクシーで乗り換えの駅まで連れて行ってもらうという経験をしました。それ以降のリヴァプール行きの電車もキャンセルになりましたが、もはや何も驚かず落ち着いて対処できるようになりました。列車やホテルは早めに予約するといいです。忙しく休む暇のない週末だったけれどたくさん人やものをみる貴重で素晴らしい機会でした。

4. まとめ

マンチェスターでの1ヶ月は、今までの人生で一番濃い時間になりました。大変なことや困ったことは本当にたくさんあったのですが、英語という面だけではなく、自分一人で何かを決め、自分の思い通りに行動することの楽しさと達成感を感じることができました。また語学の上達は自分次第であるということも痛感しました。私はこの研修をきっかけに何より英語やその他の語学に対するモチベーションが上がり、そして自分の専門分野に対する興味関心が確固たるものになりました。また、現地では一緒に参加したお茶大生の友達に本当にお世話になりました。ありがとうございます。また、研修前、事前登録で苦勞した私に様々なアドバイスをくださった国際教育センターの鈴木先生、本当にありがとうございました。

マンチェスター大学研修を終えて

文教育学部 芸術・表現行動学科 舞踊コース

1910513 1年 島田由紀穂

・授業内容

授業は月曜から金曜まであり、1コマ90分で、1日に3コマ分ありました。クラスは初日に行われたテストによって決まります。お茶大だけでなく、同じ日程で上智や理科大の生徒も来ていました。また、クラスによってはロシア人や中国人など、他国からの生徒とも一緒に授業を行うところもありました。私のいたクラスでは、中国人の生徒がいました。授業の内容はクラスによってまちまちのようでしたが、私のクラスでは教科書を使用して文法を中心に勉強をしていた印象でした。それ以外にも、近くの美術館で鑑賞してきて、絵についてプレゼンをすることもありました。楽しかったし、スピーキングの練習にもなってよかったと思います。これとは別にターゲットモジュールという、マンチェスター市内の施設や建造物の見学に行き、マンチェスターの歴史を学ぶ異文化学習もありました。

・課外活動

放課後はかなりの時間があります。私は街を散策したり、近くの劇場でミュージカルを見に行ったり、バレエやコンテンポラリーダンスのオープンクラスを受けにいったりしていました。普段は日本語で受けているダンスのレッスンを英語で受けるのは新鮮で面白かったです。



週末には大学主催のバスツアーに参加しました。2か所までは無料で、それ以上は参加費を払わなければならないのですが、私はヨーク、ストラトフォード、ウィットビーの3か所に申し込みました。また、自分ひとりでオックスフォードに一泊2日で観光に行ったり、リヴァプールに日帰りで訪れました。ひとりでの旅は不安ばかりで、話している英語がわからず、聞き返してしまうことが多かったのですが、やさしく接してくれる人も多く、楽しんで帰ってこれることができました。思い出深いのがオックスフォードに向かう電車のなかで知り合った女性のかたとお話ししたこと。以前はタイで英語教師をしていて、自分が短期留学にきていると伝えると感心して色々話しかけてくれました。自分

のたどたどしい受け答えにも最後まで付き合ってくれて楽しいひと時でした。このような体験はなかなかできない貴重な体験だと感じました。

訪ねた場所それぞれでイギリスの歴史や文化に触れることができ、楽しかったです。どこも素敵でしたが、特にウィットビーとオックスフォードはまた来たいと思えるほど感動しました。

・生活全般

学校から徒歩で15分ほどの寮に滞在しました。部屋は洗面台、机、クローゼットが付いており、トイレ、シャワー、キッチン、洗濯機は共用でした。しかし、洗濯機が故障して帰国までコインランドリーに行かなければならなかったり、シャワーの調子が悪かったり、日本に比べて不便を感じる点も多かったです。また、お茶大生ではなかったのですが、泥棒の被害もありました。他大学の人の金品が盗まれたという話や、知らない外国人男性が部屋に入ってきたという話を聞いたので、トイレに行く一瞬でも鍵はかけておくことを推奨します。

スーパーが通学路上にあったので、ほぼ毎日自炊していました。時々先輩と一緒に夕飯を作ることもありました。冷凍食品を買う人もいましたし、お店も近くに点在していたので、料理が苦手でも問題はない環境だと思います。ただ、冷凍食品やお菓子などの既製品の味付けがひどいと思うものがあったので、気を付けてください。

・最後に

海外研修には軽い気持ちで参加しましたが、予想していたよりも多くの刺激を受けました。この海外研修でしか学べないことはたくさんありました。それは語学力の向上だけではなく、自分の英語のスキルが飛躍的に向上したかと言われるとそれは違います。むしろ自分の未熟さを痛感して、そのうえでいまの私にできる最大限のことは何なのか、そういった自分のことを知ることができたのが一番の経験だと感じました。今までの私は外国に対して漠然とした憧れしか持っていなかったけれど、実際に身をもって「外」の世界を知ることがどんなに大変でやりがいのあることなのかがわかったような気がしました。このプログラムに参加して本当に良かったです。この経験をこれから活かしていこうと考えています。



マンチェスター大学短期研修を終えて

文教育学部 言語文化学科

1810253 富安 玲果

【学校生活】 授業のクラスは、初日に行われたライティングとスピーキングのテストに基づいてレベル別に分けられました。私はお茶大・上智・理科大の日本人6人とともに、すでに1週間の研修を終えたロシア人5人がいるクラスに配属されました。各クラスに先生が3人つき、会話・文法・文化と担当が分かれていました。どの先生もとても優しくフレンドリーで、楽しい授業をしてくださいました。会話の授業は、先生にテーマを提示されてディスカッションを行ったり、ゲームをしたりしました。ドーナツをかけたミリオネア風クイズゲームは特に楽しかったです。とにかく英語で話す機会が多く、スピーキング力が鍛えられました。文法の授業では、英語版の同音異義語を学んだり、単語の定義に焦点を当てて学んだり、日本での英語の授業とは違う観点から学べて面白かったです。文化の授業では、毎週金曜の校外授業（美術館・博物館訪問、街探検など）に向けて事前知識を身につけたり、振り返りとしてパワポを用いたプレゼンを行ったりしました。プレゼン準備は大変でしたが、先生は全員のことを過剰に褒めてくださって、本当に良かったです。宿題は毎日出るわけではなく、負担には感じませんでした。最初は先生とロシア人が話す英語を理解できなかつたり、自分の意見を上手く英語で表現できなかつたりと、悔しい思いもしました。しかし、日を追うごとに耳も口も英語に慣れていき、授業を楽しんで受けることができました。ロシア人とは、放課後に一緒にお出かけしたり、夜ご飯を食べに行ったり、寮でロシア料理を手作りで振る舞ってもらうまでに仲良くなりました。学校生活での先生とロシア人との出会いはとても素敵なものでした。研修に参加してよかったと思える要因の一つです。



【寮生活】 私たちは Hulme Hall という大学寮で過ごしました。部屋は一人部屋で、ベッド・机・クローゼット・洗面台があり、快適でした。廊下での話し声は少し聞こえましたが、隣の部屋の生活音は全くといっていいほど聞こえませんでした。食事に関して、寮からの提供はなく、時間に余裕があるときはキッチンで自炊して食費を節約し、旅行帰りなど疲れている時はインスタント食品で済ませ、時々外食に行く、という感じでした。自炊の際は、友達2人と協力して、3人でお金を出し合い、材料を買い、一緒に料理するという形を取りました。これは食費の節約になりました。スーパーは寮から歩いて5分足ら

ずのところであり便利でした。水回りに関して、お風呂はシャワールームが各フロアに数個あり、シャンプーなど必要なものは自分ですべて持ち込んで使用しました。お湯が出なくなるトラブルが2回ありましたが、1日で直してくれました。トイレはシャワールームと同じエリアにあり、特にトラブルなく使えました。洗濯機と乾燥機は寮の各棟に1つずつある形でしたが、留学1週目あたりで洗濯機が壊れ、直すことはありませんでした。みんな近所のコインランドリーを利用していました。干す場所はないので、日本から100均で売っている物干しロープを持って行って自分の部屋に場所を作るのがいいと思います。キッチン各フロアに1~2カ所あり、最低限の調理器具と食器がありました。個人的にキッチンに無くて不便だと感じたのは、菜ばし・ざる・ボウルです。お茶大生は自炊を頑張る人が多く、キッチンが溜まり場になっていて楽しかったです。



【休日】 土日は基本出かけていました。私は何も予定がない日が必要なタイプなのでそういう日もありましたが、ほとんどの人が土日は寮を離れていました。私は、大学主催の日帰り旅行でヨークとウェールズ、友達と旅行を計画して一泊二日でロンドン、それとはまた別に大学主催のツアーでロンドンのハリポッタースタジオに行きました。大学主催のものは無料でバス送迎付きなので、自分で行くより断然お得でした。個人的なお気に入りにはウェールズです。コンウィ城の高い塔からの景色は絶景でした。ロンドンには、マンチェスターから特急電車 Virgin Trains で2~3時間で行けます。日帰りも可能ですが、ロンドンは見所がかなり多いので、一泊二日が丁度よく楽しいと思います。休日のお出かけは良い思い出がたくさんできました。



【最後に】 私は留学に行く前はあまり楽しみではなかったです。このマンチェスター留学が人生初の海外渡航だったし、食べ物の好き嫌が多いので食に苦勞するだろうとか、実家暮らしなので寮生活に苦勞するだろうとか、不安要素だらけでした。でも、本当に楽しい経験になりました。行く前にどれだけ不安でも、行けば楽しいです。留学に行くこと決めた方は、ぜひ貴重な経験をたくさん積んで、素敵な思い出を作ってきてください。今回の留学を支えてくださったすべての方々に感謝します。ありがとうございました。

マンチェスター大学研修を終えて

文教育学部 言語文化学科

1810215 下保明日香

授業

初日にクラス分けの授業が行われました。Writing と Speaking のテストでした。大学の先生曰く、Speaking の成績を重視するとのことでしたが、最後まで自分のスコアは見ることはできませんでした。次の日から授業が始まり、私はロシア人 8 人と日本人 2 人というクラスで学びました。日本人が少数派という環境で勉強することは初めてだったので刺激的でした。

授業は週 5 日でした。月曜日から木曜日は、90 分×3 コマ（ただし水曜日の午後は Target Module）で、授業は朝の 9 時半から 3 時半まででした。先生は 2 人いて、午前と午後で違う先生から学ぶことができました。主な授業内容はクラスによって若干異なりましたが、私のクラスは語彙と会話中心で、毎回の授業でひとつのテーマに沿った授業を受けました。アメリカ英語とイギリス英語の発音や語彙の違いなどを学び実際に発音してみたり、マンチェスター方言について学んだりする授業もあり、楽しかったです。先生の話すスピードは人によりかなり差があり、私の先生のうち、片方の話すスピードはゆっくりだがスペイン出身のため癖が強く、もう 1 人の先生の英語は癖などを感じることはないものの、スピードはやや速めでした。最初は英語を聞き取るだけでかなりの体力を消耗し、発言することができませんでした。2 週目にもなると慣れてきました。先生たちは大学の先生というわけではなく、他の地域から教えにきている人だったと思います。

金曜日は Target Module といって、学外の施設でイギリスの文化について学ぶ授業でした。クラスにもよりますが、私は毎回 Target Module の後に行った場所に関するプレゼンテーションを準備するという課題もありました。プレゼンテーションは土日の間に作らなければならなかったのが大変でしたが、ペアワークだったため、ロシア人のクラスメイトと協力することができ、良い経験になったと思います。普段学校などで人の前で 5 分近く英語のみを話すことをしていないのでかなり緊張しましたが、達成感があり楽しかったです。

国際交流と多くの刺激

先ほども述べたように私のクラスには私を含め日本人が 2 人しかいませんでした。グループワークをする時も基本的に自分以外はロシア人だったため、かなりの頻度で他のメンバーがロシア語で会話をしていることもあり、疎外感を感じることも多かったです。また、ロシア人は時間にかなりルーズ



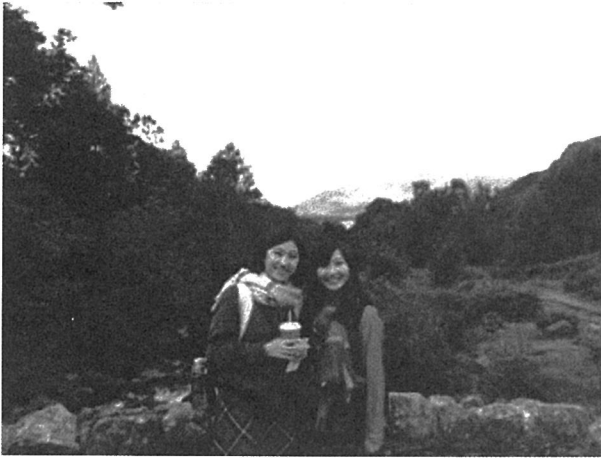
で時間通りに来る人はおらず、全員が揃うという日は初日以外ありませんでした。しかし、彼らは授業に無関心というわけではなく、授業に来れば私たち日本人より積極的に発言をし、政治や芸術、人種問題、環境問題などの様々な事柄に関心を持っていました。私にも、日本人は人種問題・LGBT に対してどのような見方をしているのかなど、普段私たちが友人とするような話とはかなり違った話題について初日から話しかけてきました。私はその時に、自分がどれだけ世界のことを知らないのかを痛感しました。歴史の授業で日本は決して単一民族とはいふことができないということは学んで知っていたのに、どこかで日本人は1つの民族だという意識が私にはありました。故に人種について聞かれた時に何も考えていることがなかったのです。ロシア人のクラスメイトは旧ソビエト連邦という母国の歴史があるため、人種問題に関する意識をしっかりと持っていました。

私は、自分に足りないもののひとつとして教養が挙げられると今回の研修を通じて思いました。これからは、自分の専攻の授業だけでなく、国際情勢や社会問題について学ぶ授業も受けたり、自分から調べたりすることで教養を深めていくことが大事だと気づくことができました。自分に足りないものに気づかせてくれたロシア人のクラスメイトには感謝しています。また会いたいです。

もうひとつ私がこの研修に参加してよかったと思っていることがあります。それは発音がきれいな人と直接たくさん話すことができたことです。Target Module で他のクラスの中国人の留学生と話す機会がありました。ロシア人もそうなのですが、彼らの発音はとてもきれいでした。日本人は英語の発音が下手という話をよく聞きますが、他の国の留学生と話してみてもそれを実感しました。日本語がややゆったりとしたスピードで話されるものであるというのも理由の一つではあると思いますが、何かと他の国の留学生や先生に自分の考えなどを伝えるのに時間がかかっていたように感じます。私はクラスメイトのほとんどがロシア人だったため、それをより強く感じました。できる限り自分の話し方や発音を先生や他のクラスメイトに近づける努力をしました。ロシア人のクラスメイトや帰りのトラムと一緒に乗った現地のおばあちゃんに発音を褒められたことはとても嬉しかったです。褒められるともっと他の人と話してみたいという気持ちになり、自分のモチベーションを高めることにもつながったと思います。研修先での生活は毎日が刺激的でした。

休日の過ごし方

休日は土日で、学校が日帰りバス旅行のコースをいくつか用意してくれていました。2つまでは無料でそれ以上参加する場合は、自費でした。しかし、バスで連れて行ってもらえるため自分で電車を手配する必要がなかったのと、自分で計画するより安かった(1コース高くても30ポンドくらい)ので、私は5つの旅行に参加しました。マンチェスターから出てより多くの自然やイギリスの文化に触れることができたので私はこの旅行に参加してよかったと思います。



一番楽しかったのは最初の週に自分で計画して、ホテルも取って、旅行会社がやっているウィンダミアのツアーに友達と2人で参加したことです。人生で初めてゲストハウスに泊まったのですが、オーナーもとても親切で、朝食も美味しく、とても快適な滞在でした。ツアーは現地の会社がやっていたので、バスの中にはたくさんの外国人がおり、バスガイドも全て英語でした。参加者同士で

写真を撮りあったりすることで英語を話す機会もうまれ、英語を聞き取ることもできるようになってきたので楽しかったです。できるだけ多くの場所に行き、そこで出会う人との会話を楽しむことは体力的には少ししんどいですが、一度しかないチャンスだと思って自分から多くの経験をしようという意識で行動することができたと思います。

延泊について

今回の参加者の中で延泊をしたのは私だけだったと思うので延泊の思い出について少し書きたいと思います。研修が終わった後私は3泊（ロンドン2泊、マンチェスター1泊）延泊をしました。延泊をしたと思った理由は単純で、ロンドンをもっと時間をかけて観光したいと思ったからです。延泊の時には、ライオンキングのミュージカルを観に行ったり、ハリポッターのスタジオに行ったりしました。ホテルはBooking.comで取り、ミュージカルなどのチケットは日本にいる時に日本の旅行会社のものを取っておきました。自分1人で3泊4日を異国の地で過ごすのは初めてで不安でしたが、スリなどに関しても最低限気をつけていれば大丈夫で、むしろ、1人だからこそわからないことを全て英語で聞いて解決することができたので英語を話すことに関しては少し自信がつけました。延泊での経験は自分のためになったと思います。1人で重たいスーツケースを運びながら移動していると色々な人が心配してくれて、電車に乗る時に荷物を持ち上げてくれたり、話しかけてきてくれたりしました。少し孤独を感じる中で現地の人の優しさを感じることができてよかったと思います。日本人がいるとどうしても固まってしまうのでこのような環境に身を置くこともいい経験になりました。3泊4日は英語のみで暮らすことができて楽しかったです。

最後に

この研修を通して少し主体性が身についたと思います。それと同時に自分に足りないものも多く見つかりました。この経験は自分にとって忘れられないものになりました。参加して本当に良かったです。この研修を支えてくださった両親と国際教育センターの方、JTBの方には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



ロンドン大学 東洋・アフリカ研究学院 (イギリス)

研修期間：2019年8月19日～9月6日（3週間）

滞在：大学寮

研修内容：国際関係学、メディア、英語ライティング・リーディング
(コース選択制)

ロンドン大学 SOAS 短期研修を終えて

文教育学部 言語文化学科 1年

1910226 香曾我部 藍

授業について

今回、私は国際関係学コースを選択しました。このコースは戦争の正当化、環境問題、移民問題などを扱います。私のクラスには9人の日本人と1人のスペイン人がいました。

授業は Preview→Lecture→Review→Discussion→Seminar の順に進んでいきます。これに加えて、1週間に1回、Case Study という実際の問題について話し合う授業がありました。Lecture 以外の授業は、学生から先生への質問によって成り立っていました。私は普段日本で授業を受けていても、質問が思い浮かぶことがあまりなかったので、質問を考えながら先生の話聞くようにしていました。また、授業の予習は必須です。授業の前夜に、初めに配られる教科書を読み、分からないところをある程度調べていく必要があります。

授業で最も大変だったのは、最終日にあったプレゼンテーションです。私のクラスでは2、3人でグループを作り、世界の倫理的な問題について調べて発表しました。授業時間内にも、プレゼンテーションの内容を考えたり、Power Point を作る時間はありませんでしたが、それだけでは足りず、最後の1週間はほぼ毎日放課後に集まって作りました。プレゼンテーションの作成を通して、Writing の能力が向上したように思います。

In What Circumstances Is Surrogacy Ethical?

In what circumstances can we justify surrogacy?

We have the right to have a baby, but at the same time, we have to protect children's rights and women's rights.

So

In order to make surrogacy ethical, our suggestion is that

We need to make surrogacy less commercial.
→ eg) surrogate mother must be an adoptive mother's relative

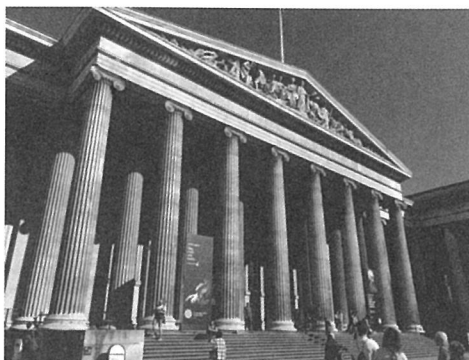
課外活動について

SOAS ではパーティーや観光ツアーなどが行われていました。また、クラスでは国会議事堂を訪れました。ちょうど EU 離脱問題に関するデモが行われおり、この問題を身近に感じました。また、図書館も利用できたのでいろいろな本を借りて読みました。最新の論文を読むことができたので、日本でも英語の論文を読むようにしようと思いました。



休日の過ごし方について

授業の予習復習でかなり忙しい日々ではありましたが、土日にはロンドン市内の観光に行くことができました。大英博物館を回ったり、カーニバルを見たり、オペラ座の怪人を観たりしました。学生の中にはフランスへ行った人もいました。パブに行くのもいいです。また、ロンドンのガイドブックを待って来ている人が結構おり、日本で買ってこればよかったと思いました。これを買って、出国前に休日の計画を立てておくといいかもしれません。



寮生活について

研修中は寮に滞在しました。寮はシャワー、Wi-Fi 付きの1人部屋で、同じフラットの7人共同でキッチンを使用しました。食器、鍋、ケトルなどは寮に言うことができず。洗濯機は使用料金がかかりますが、寮についていました。同じフラットの人と互いに持ち寄ったものを共有したり、食材を分け合ったり、洗濯物を一緒に洗ったりし、節約を心がけていました。同じフラットの人とは一緒にご飯を食べたりするのですごく仲良くなれます。

最後に

私は今回の研修で大きな挫折を味わいました。周りは日本人が多かったものの、みんな英語が上手で、自分の意見をきちんと伝えられていました。私はそれに圧倒され、消極的になってしまいました。しかし、質問だけでもいいから自分のできる範囲で頑張ろうと思い授業に参加しました。この挫折は私に留学について、自分について考えさせるきっかけになりました。帰国から数週間経ったいまでも挫折からは立ち直れていませんが、最終日に感じた『またロンドンに来たい』という感情だけは絶対に忘れないようにしたいと思います。



ロンドン大学 SOAS 研修を終えて

生活科学部 人間生活学科 生活文化学講座

1530407 大平 七瀬

○授業内容

私の受けたコースは Intermediate Reading and Writing で、英文法の基礎を学びました。SOAS ではいくつかの選択肢から 1 つのコースを選ぶのですが、他のコースは英語で何かのテーマについて学ぶのに対し、このコースは英語自体を学ぶコースだったので英語力に自信がない私はこれを選びました。基本的に月曜から金曜の 10 時-12 時にライティング、13 時-15 時にリーディングの授業がありました。クラスメイトは 10 人で出身国はトルコ、マレーシア、インドネシア、中国、韓国が各 1 人、日本人が 5 人でした。他コースと比べても一番日本人の割合が低かったです。SOAS の留学生受け入れのサマープログラムは 3 週間で 1 ブロックとし 3 回開かれていて、私達が参加した 8/19-9/6 のブロックはどうしても日本の大学の夏休みとちょうど被るために日本人が一番多くなるようです。1 つ前のブロックはフランス・スペイン人が多かったそうです。昨年までの留学体験記ではクラスに日本人がほとんどだったという話が多かったのですが、やはり無理もないのだなと思いました。

授業内容は、ライティングでは専用のテキストを 1 冊使ってアカデミックライティングについて学びました。例えば普段の会話にはよく使えるけれど論文を書く際には適さない単語、表現については日本であまり学んだことがなく、大変勉強になりました。その他、文章の組み立て方についてのメソッドは日本語でのレポートや卒業論文の執筆にも役に立ちそうです。リーディングの授業では先生が毎日 1 つのエッセイとそれに関する問題を用意してくれました。そのうち数回は一日分の新聞を 1 人ずつに配ってくれ、それを読み解き問題の答えを探すというもので、さまざまなニュース記事を読むことができて面白かったです。読んだエッセイはヴィーガン(菜食主義者)に関するものや睡眠法に関するもの、公共の乗り物の乗り方のマナーの投書など、興味深く勉強になるテーマが多かったです。私のコースは課題や予習の必要があまりなく、課題が出た時も数十分で終わるものだったので、授業中にしっかりと取り組むことを意識し勉強ができました。これらの授業を通して、英語力向上に繋がったというよりも、自分の社会問題への意識の低さを実感することとなりました。よく日本人はシャイであり発言しないと言われます。確かに授業中にも他の国の人のほうがよく発言しているように感じましたが、そもそも日本人は知識不足により議論についていけない場合も多いのではないかと感じました。もちろんすべての日本人がそうというわけではありませんが、少なくともクラスの日本人はそのようでした。例えば授業で地球温暖化についての議論をした際、最初は話についていけていても、その後議論が活発になっていくと日本人のクラスメイトは皆黙ってしまい、私も他の人が何を言っているのか全くわかりませんでした。実際に私は日本に帰ってきてから新聞のどの面もしっかりと読むようになったので、小さい変化ではありますがよかったです。

○大学生活について

大学は寮から徒歩 30 分程で、電車でも行けませんが毎日歩いて通っていました。昼食は大学のカフェテリアで取ることが多かったですが、毎日大学の校門近くで無料でカレーが振る舞われていたのでそれを頂くこともありました。一見怪しそうに見えますが特に問題はなく美味しかったです。SOAS は東洋アフリカ研究学院という名称であるため、図書館にも日本の書籍が多くありました。図書館やフリースペースのような場所も利用可能で、留学生でも勉強できる環境が整っていると思いました。

○課外活動・旅行など

土日は完全休みで、平日も 15 時に授業が終わるため、できるだけ毎日様々なところに出かけました。ロンドンの夏の日没は 20 時頃で、それより遅くの外出は危ないと言われていたためそれまでに寮に帰れるようにしていました。大学からの徒歩圏内に基本無料で入れる大英博物館、大英図書館があり、そこはすぐに見学に行きました。また様々なお店が集まるオックスフォードストリートも大学から近く、買い物にも出やすかったです。ロンドンに来て最初の 1 週間はずっとクラスやお茶大の友達と出かけていましたが、ロンドンの地理を少しだけ理解した 2 週目からは、ほとんど 1 人で自由に出かけていました。油断は絶対にしないよう気をつけて、日没までに帰るようにしていました。スリなどの大きなトラブルは特にありませんでした。私は服飾文化を勉強していて、ロンドンのヴィクトリア&アルバート博物館や、ロンドンからバスで 3 時間のバースという都市にあるファッション博物館での服飾品の展示には感動しました。出かけるときに役立つアプリは、Citymapper というロンドン内の交通ルートを検索できるアプリです。現在地から目的地までのルートが地下鉄・バスを使った場合など複数検索できます。ロンドンでは地下鉄よりもバスの方が安く、ルートも豊富だったためバスを使うことのほうが多かったです。

○生活全般について

まず、ロンドンについての初日に空港から寮に向かう電車の中で私のスーツケースの上に知らない人に勝手に荷物をのせられ、寮についたら係の人から何の説明もなく鍵を渡され部屋まで案内され、それで終わりでした。初日からロンドンの文化に驚愕しました。自分から何かを聞かないと情報は得られない場所なのだ、と理解し寮の人には洗濯機はどこにあるのか、Wi-Fi はどう繋ぐのか、さっき渡されたカードキーはどこで使うのか、等を友達と聞きにいきました。寮はトイレ・シャワー付きの 1 人部屋で、キッチン・電子レンジ・冷蔵庫等は 7 人で共同でした。掃除当番や会議などは特になく、寮では誰とも交流することなく 1 人で落ち着いて過ごせました。自炊をしなかったため、食事も自室で取っていました。食事はパンが特に美味しかったです。時間がたってもふわふわで、値段も安かったためほぼ毎日食べていました。私はずっと実家暮らしで初めて 1 人で何日も過ごしたのですが、1 人の時間は自分を見つめ直すことができ、いい経験になりました。



ロンドン大学 SOAS 研修を終えて

文教育学部 言語文化学科 英語圏言語文化コース

1510239 武井 沙樹

1 大学での授業に関して

私は、英語で他の科目を学ぶコースの中で、“Introduction to the Media”を選択しました。クラスメイト7人中6人が日本人、残り1人も日本語堪能な韓国人でした。このコースは、lecture review, lecture, lecture preview, tutorialの順で授業が進んでいきます。review と preview では、英語担当の先生が、lecture で出てくる重要単語や lecture の内容のおさらいを教えてくださいます。tutorial では、lecture を通じて自分の意見を、学生が自由にディスカッションします。私はメディア学を学ぶのは初めてでしたが、それでも授業についていくことができました。特に、メディアに対する批判的な視点を学べました。授業やディスカッションでは、積極的に発言するよう心掛けました。多少英語が拙くても、自分の言いたいことを伝えると、先生が酌み取ってくださるので、励みになりました。この授業は、英語力自体を向上させるというよりは、英語をどんどん使っていく場という印象でした。

また、このコースでは、講義と並行して、グループで5分のドキュメンタリー動画を製作します。私たちのグループは「気候変動とメディアの関係」をテーマにしました。まず、動画の内容を細かく決め、街の人たちに突撃インタビューをしました。地元の方だけでなく、幅広い国籍・年齢の方に話を聞きました。また、講義担当の先生が環境保護団体を紹介してくださり、その団体の会議やイベントの場でインタビューすることができました。その後、専用のソフトで動画を編集しました。技術担当の先生が、ソフトの使い方を丁寧に教えてくださいました。主に編集をしたのが最終週で、提出に間に合うか不安でしたが、グループの仲間と協力し、楽しく作業を行うことができました。テーマが堅かったので見ることが飽きないように、また、講義で学んだ「客観性」をもったドキュメンタリーになるよう、構成や映像効果を工夫しました。結果的に、納得のいく動画ができ、先生方や他グループのクラスメイトに高評価をいただきました。

2 課外活動に関して

ロンドンは、タワーブリッジやロンドン・アイなど観光名所が多く、中でも、博物館・美術館は多くが入場無料でした。放課後や週末を利用し、3週間で沢山の場所に行きました。特に、大英博物館や V&A 博物館は、貴重な展示が膨大にあり、本当にこれらを無料で見ていいのかと思



授業での BBC 訪問にて

うほど感動しました。他にも、おもちゃの博物館、ロンドンダンジョン（ロンドンの歴史が学べるお化け屋敷）など、自分の興味に合わせて色々観光しました。

また、ミュージカルも見に行きました。私は「オペラ座の怪人」を見ました。既に DVD で話は知っていましたが、歌声や舞台装置の迫力に圧倒されました。また、お茶大の授業で習った、シェイクスピアの時代の劇場が再現された場所で、「夏の夜の夢」を見ました。博物館もそうですが、実物や生の空気感を味わえるのが、ロンドンの良い点だと思いました。



さらに、SOAS 学内にもおもしろい場所がありました。Brunei Gallery では、私たちが滞在したとき、日本の蒔絵とアフリカの音楽に関するものが展示されていました。また、大学図書館のラインナップがお茶大と異なり、「東洋・アフリカ研究学院」の名のとおり、アジア・アフリカに関する書籍や DVD が数多くありました。アフリカ系の DVD をいくつか借りてみました。

3 生活全般に関して

ほとんどの短期留学参加者は、Dinwiddy House という寮に滞在することになります。1つのフラットで7人が生活しますが、私のフラットはほとんど日本人、しかも3人がお茶大生という環境でした。シャワーやキッチンなど、日本とは使い勝手の異なる設備もありましたが、快適に過ごすことができました。洗濯は、有料ですが、難なくできます。困ったことがあれば、寮の受付の方に言うとすぐに対応してくださいます。

ロンドンでは外食の値段が高いため、簡単な自炊をしました。しかし、食器・カトラリーはありましたが、調理器具がほぼなく、購入しフラットメイトと共用しました。とはいえ、せっかくの滞在なので、外食も楽しみました。「イギリスは料理がまずい」とよく言われますが、そういったことは全然なく、イギリスの郷土料理から、ギリシャ料理等の珍しいものまで、幅広い食を味わうことができました。特に印象に残ったのは、本場のアフタヌーンティーを楽しんだことです。さらに、学内には日替わりの学食、売店、コーヒーの屋台などがありました。また、毎週水曜の昼には無料の食事提供、木曜にはファーマーズマーケットもありました。

主な移動手段は、バスと地下鉄です。Oyster card という Suica のようなものを使用しました。また、街中では自転車で通勤する人を多く見かけ、レンタサイクルもありました。

英語を学ぶ以外にも、毎日とても貴重な経験ができました。この留学に際し、このような有意義な時間を与えていただいた皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

ロンドン大学 SOAS 短期研修を終えて

生活科学部人間生活学科

1830429 信岡春菜

1. 授業内容

今回私が参加したサマープログラムは、introduction to the media というものでした。8/17-9/6 の3週間のコースでしたが、8月の最初から参加している学生もおり、その学生たちと合流して授業を受けました。授業は10時から16時まで月から金まで毎日あり、Lecture が1~6、各講、それぞれメディアに関すること (Hollywood, Broadcasting, Documentary, Advertisement, SNS, etc) で、メディア専門の教授がLectureを行なった後、語学の先生が、Reviewとしてその授業内容を噛み砕いて教えてくれるというものでした。授業中にYoutubeやNetflixで、イギリスや日本、アメリカなど世界各国のCMやドキュメンタリー作品、リアリティーショーなどを見て、それに関する社会問題や批判、そして見解などを考え、発言を求められます。またディスカッションもあり、2~3人で話し合った後、全体の場で話し合います。英語で話す難しさだけでなく、自分の見解を考えることが何より難しかったです。また、最終課題として、5分前後のドキュメンタリーを作るというものがあります。これは、大学の本格的な機材 (カメラやマイク、編集ソフト) を用いて行い、普段の授業に加えて、専門の方によるレクチャーが、1日に3時間ほどあります。最終課題のドキュメンタリー作品を作るためには、多くの時間を割くことになります。私のチームは3人でしたが、基本みんなと一緒に行動していました。最終課題はとても大変でチームワークが必要になります。スケジュールを合わせたり、意見をまとめるのが難しそうなおチームもあったので、チームワークも肝心になると思います。最終的にできた作品は、farewell partyの前に、オーディエンスの前でプレゼンをした後、見ってもらうことになります。ドキドキですが、何事も場数が大事と意気込んで乗り切りました。また終わった後に感想を他のコースの生徒が言ってくれたり、先生が評価を言ってくれるので、やりがいがありました。また授業の一環としてBBC見学というものがあり、普通では見れないBBCの中を見学することができました。すごく貴重な経験だったと思います。

2. 課外活動

ドキュメンタリー作品のトピックが環境問題に関することだったので、先生が教えてくれた extinction rebellion というロンドンの環境保護団体の会合に行ったり、ロンドンの東部のほうであった環境保護のフェスティバルに参加し、関係者やミュージシャン、参加者にインタビューをしました。自分達だけで、インタビューや取材の交渉をするのは、少し勇気が要りましたが、きちんと身元と目的を説明すると快く承諾してくれました。また、観光スポットでインタビューをすることもあり、これがとても大変でした。ロンドン

には、多くの観光客が訪れており、人は多いのですが、インタビューは、「興味がない」「時間がない」と断られることが多かったです。しかし、「それが普通だ」という先生のあらかじめのアドバイスを思い出し、なんとか根気よくインタビューをしました。結果として、観光客4人、地元の人6人、専門家3人、ミュージシャン2人にインタビューすることができ、とても充実した内容のドキュメンタリーができあがりました。最初の方は人の冷たさに本当に心が折れそうになったのですが、だんだんコツを掴んでいき、交渉力やインタビュー力が上がったと思います。また、インタビューをする時は画にもこだわることができるだけ綺麗な背景や有名なスポットをバックにするように注意しました。

3. 生活全般

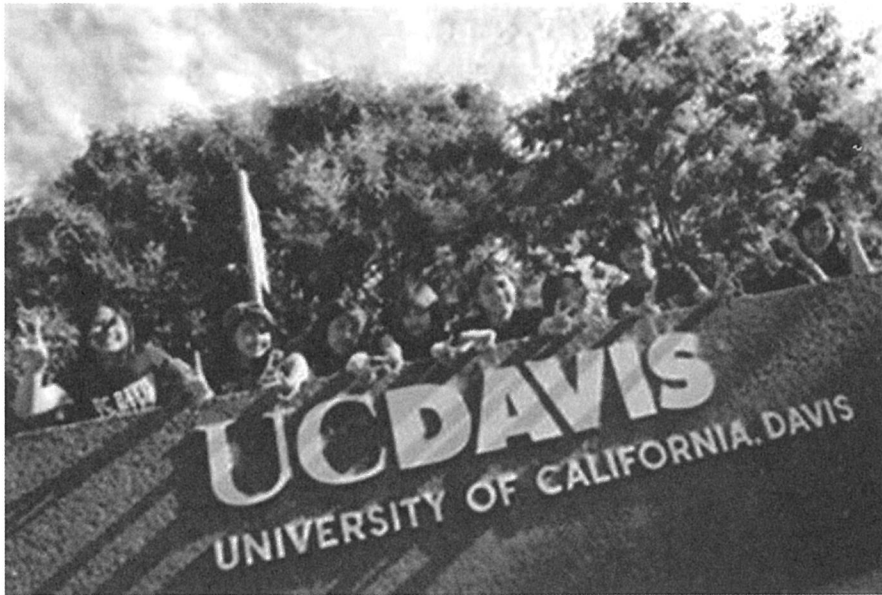
平日は、授業と課外活動で1日潰れることが多かったです。土日は基本フリーでした。せっかくイギリスに行くならヨーロッパを周遊したかったので、土日を使いパリとベルギーへ日帰りですべて旅をしました。まだイギリスがブレグジットを実行していなかったので、出国審査などに時間はかかりませんでした。ユーロスターと飛行機でどちらが安いかをサイトで比較してチケットをアプリで現地取得しました。料金は、パリ行き往復ユーロスターが往復約3万円、ベルギー行き飛行機が往復18000円ほどでした。週末は基本丸二日、自由時間なので、あらかじめ、1ヶ月ほど前にチケットを予約しておけば、もっと安く行けたと思います。また、治安の面からもパリへ一人で行くのはかなり不安だったので、前日に外務省のHPやネットで情報を収集し、貴重品類は服の中に隠し、ミニリュックを常に自分の前で抱きかかえて歩くようにしていました。特に最も危険区域の一つと言われているパリ北駅（ユーロスターの着地駅）では、短時間の滞在、怖い顔をして歩く、なるべく目を合わせない、金銭類を出さない、など細心の注意を払いました。また、エッフェル塔の写真スポットでは、詐欺やスリが横行しており、日本人や中国人がターゲットにされやすいと外務省のHPに書いてあったので、話しかけられても、「From US」や「No thank you」と答え、撃退していました。他にも大英博物館やテムズ川クルージング、ロンドンアイ、ミュージカル鑑賞などロンドン観光を時間があればひたすらしていました。移動は、バスや電車も使うときはありましたが、基本徒歩でした。スマホの歩数計を確認すると毎日、2万歩前後歩いていました。食べ物は寮のキッチンでなんでも作れるのですが、私は調理器具を持って行ってなかったので、レンジに頼りっぱなしでした。最後の方は本当に辛くて、日本食店やお寿司屋さんに行っていました。日本食（レトルトの米や味噌汁）を多めにもってくことをお勧めします。



← (インタビュー)

(エッフェル塔の前で) →





カリフォルニア大学デービス校 (アメリカ)

研修期間：2019年8月9日～9月6日（4週間）

滞在：ホームステイ

研修内容：英語研修、アメリカ文化学習、ジェンダー学習

カルフォルニア大学デービス校での研修を終えて

文教育学部 芸術・表現行動学科

1910553 塩満あすか

(1) 授業内容

UC Davis での1か月間は、1日4コマの授業を受けました。成績順に6つのクラスに分けられ、1クラスあたり大体16人くらいでした。また、上位2クラスは発展的な内容の授業も組まれていました。

私は、①Pronunciation②Research project③Communication & Culture④Idiomの授業を受けました。すべての授業で、積極的に自分から英語を話すよう求められました。授業の中で、英語を話す習慣を身に着けようという狙いがあったようです。どの授業でも、多くの刺激を得ることができました。特に刺激を受けたのは、②Research projectです。これは、自分たちがアメリカの文化に対して抱いていた疑問を解決するために、現地の人にインタビューをして、プレゼンとポスター作成を行なうという授業でした。もちろんすべて英語です。英語がほとんど話せない私にとって、英語で知らない外国人10人にインタビューするというのは、不安と恐怖でいっぱいでした。しかし、現地学生の多くはとてもフレンドリーで、私の拙い英語での話をよく聞いてくれました。それが、私の、英語を話すことに対する抵抗感を幾分か軽減してくれました。

1か月間の授業はとても短いうえに、やることもたくさんあったので、普通の大学生活より忙しかったです。しかし、とても充実した授業を受けることができました。

(2) カルチャーショック

海外留学において、多くの人が気になることとして、カルチャーショックが挙げられると思います。実際、私もいくつかカルチャーショックを受けました。

まず、食事です。これは、ホームステイ先の家の食事と大学の学食の両方で感じました。家では、毎日テーブルに入りきれないくらいの量の食事が出されました。

「ディナーの時にはiPhoneを持ってきてはいけない」というルールがあったので写真はありますが、本当にたくさんの料理がテーブルにのっていました。さらに、毎日必ず肉が出されたことにもとても驚きました。帰国後1週間以上、肉を食べられなかったくらいにまでなりました…(笑)それから、大学ではCoHoという学食のようなものがあって、デービスの学生の多くがここを利用していたと思います。そこには、寿司やフォー、トルティージャなどのいろんな国の料理がたくさんありました。ホームステイだったのでランチ代も含まれていましたが、毎日サンドイッチで1週間経たないうちに飽きてしまい、よくこの学食を利用しました。しかし、

日本と比べて代金が高く、一食に 1000 円使ってしまうこともあったので、ショックでした。

次に、バスです。私はデービスから車で 15 分ほどのウッドランドという町から毎日バスを利用して通っていました。なんと、バスは 1 時間に 1 本しかないのにも関わらず、毎日必ずと言っていいほど 30 分以上遅れるのです。日本ではありえないでしょう。遅延の原因は渋滞などではなく、運転手が客と会話しながら運転していたり、おやつを食べていたり…という何ともアメリカらしいものでした。日本のサービスが良すぎることをよく実感しました。

そして、町の人々のやさしさです。私は渡航前、「アメリカは危険だ…。みんな銃を持っていて、変なことをすると撃たれる…」というイメージを持っていました。しかし、デービスでは全くそういう印象はありませんでした。町はおおらかで優しく、フレンドリーな人で溢れていました。黒人の方もたくさんいましたが、みなさん優しく、私は自転車をバスに乗せてもらうのを助けてもらいました。「アメリカは危ない。」というのはすべての町には当てはまらないというのを感じました。

(3) これから

私は帰国後、「たった 1 か月の留学でなにが変わったのか、意味があったのか。」と、いろいろな人に言われました。正直、英会話力はほとんど向上していません。これで英語の試験の得点が上がった訳でもありません。しかし、この経験は、いかに今までの英語の勉強法が間違っていたかと、海外って英語ってこんなに面白いのかということ私に教えてくれました。そして、「英語を話せるようになりたい！」と強く思うようになりました。自分の将来の夢はまだぼやけてはいますが、少なくとも外国の方と意見を交わす機会のある企業に勤めてみたいと思います。そのための英語の勉強に努めていきます。1 年生の夏に留学することができたのは、本当に幸せなことです。ありがとうございました。



① 最終日、デービスのカフェにて

② 朝の大学。多くの学生が自転車通学

カリフォルニア大学デービス校研修を終えて

生活科学部 食物栄養学科

1930107 岡山奈央

1. 授業内容

毎日4種類の授業を受けた。1時間目は、Listening & Pronunciationという授業だった。この授業では、アクセントやイントネーション、リンキングなどの練習を通して英語の発音の仕方を学び、ディクテーションやディスカッションを通してリスニング能力とスピーキング能力を鍛えた。最初の15分間は、グループに分かれて、その日のお題について話し合い、その後、先生の作った冊子を使って、日本人に発音しづらい音の練習をしたり、動画を見てリスニングの練習をしたりした。週に1, 2回、自分の声を録音して先生に発音を確かめてもらう宿題があった。

2時間目は、Introduction to Entrepreneurshipという授業だった。この授業は、起業家精神や常識を覆すような発明の原動力について学んだ。毎週1つの企業について映像を見たり文章を読んだりして、その開発者が事業に成功した鍵となるものを知った。最後の授業では、グループで作上げたオリジナルの事業についてポスターセッションをした。将来の仕事の選択について柔軟に考えることにつながった。

3時間目は、Hot Topicsという授業だった。この授業では、最近の話題になっている出来事に関する記事を読んだりビデオを見たりして、その内容についてディスカッションをすることで、批判的な思考力を鍛えた。毎日記事とビデオを2つくらいずつ見てくる宿題があり、知らない単語が多くてとても時間がかかった。また、週に1回、その週のテーマに関して文章を書いたり、友達と意見交換する様子をビデオに録る宿題もあった。他の人の文章やビデオを見ることで視野を広げることができた。

4時間目は、Intercultural Research Projectという授業だった。この授業では、アメリカの文化と科学技術に関連した興味のあるトピックを選び、それについて現地の人へインタビューをして深く調査した。私は、ネット上のプライバシーに対するアメリカの若者の意識を調査するために、UCDの学生10人にインタビューした。最後に、その結果をパワーポイントにまとめ、発表した。

2. 課外活動など

週末は友達と、サンフランシスコやロサンゼルス、サクラメントなどに出かけた。ロサンゼルスでは、ハリウッドやサンタバーバラ、ビバリーヒルズ、ディズニーランドなどに行った。また、学校のプログラムでサクラメントに地元の野球チームの試合を見に行ったり、サンフランシスコに科学ミュージアムの見学に行った。サクラメントの野球場では、機械操室を見学することができた。

3. 生活全般

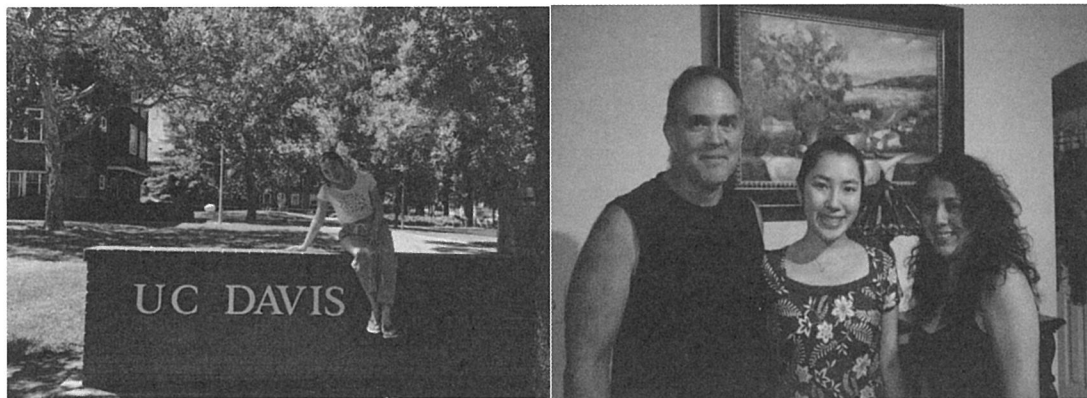
朝は、8時30分から授業が始まるので6時30分には起きて7時45分発のバスに乗って大学に向かった。12時30分に4限が終わった後、メモリアルユニオンで友達と一緒に弁当を食べて、帰りのバスの時間まで宿題をやった。帰宅したら用意されているご飯を食べ、自分の部屋で宿題の続きをやった。

毎週火曜日の夜には、『会話アワー』というサークルに参加した。これは、日本人と日本語を勉強するUCDの学生や卒業生と一緒に会話をして楽しむことを目的としたものだった。そこで出会う人たちは、皆とても日本語が上手で驚き、私も英語の勉強をもっと頑張ろうと思った。

4. ホストファミリーについて

私のホストは、父、母、娘2人の4人家族でペットは犬が3匹いた。ファザーは、趣味がお料理だったため、ほとんど毎日夜ご飯を作ってくれた。マザーがペルー人ということもあり、ペルー料理が多かった。とてもおいしいご飯だったが、朝も夜も家族と一緒に食事をするのができなかったのが残念だった。また、ファザーは、夜帰りが遅くなったり週末にバスがないときは、いつも車で迎えに来てくれた。マザーは仕事で朝早くに出かけていき、夕方早くに帰宅するので、あまり会う機会がなかった。私と同年のシスターは、大学に行かずに仕事をしていて、ボーイフレンドもいたためほとんど話せなかった。もう一人のシスターは、とてもシャイで部屋に閉じこもっていたためほとんど見かけなかった。

週末は、どこにも連れて行ってくれなかったため、自分で友達と出かけた。



UC Davis 夏季短期研修を終えて

理学部数学科

1920107 上島じゅ菜

充実していた日々の生活

私の朝は、一人で起きて朝食と学校に持っていくサンドウィッチを作ることから始まる。そして自転車で15分、UC Davis に到着する。雨が降らず、からっとした Davis の朝は、夏とはいえ少し肌寒く、自転車通学するにはとてもいい気候で気持ちよかった。午前中は大学で授業を受け、昼食を食べたらたくさんの課題を図書室でこなす。家に帰ってから1時間家の周辺をランニングし、シャワーを浴びてホストファミリーと夕食を食べる。夕食の後はホストシスターやルームメイトと一緒に話したり、遊んだりした。家に帰ってからの夕食の時間は特に好きだった。仕事で忙しいホストファザーとコミュニケーションを取れるのは夕食の時だけだったが、様々な話をしてくれたり、休日の予定や学校での出来事などについて話を聞いてくれたりした。8歳のホストシスターは、最初は人見知りをしていましたが、一週間を過ぎると私が聞き取りやすいようにゆっくり喋ってくれたり、プールやおままごと遊びに誘ってくれたりした。とても楽しく、充実した時間を過ごすことができた。



休日での貴重な経験

私は、この春から大学でオリエンテーリングというスポーツを始めた。運動が苦手だが、これだけ好きで打ち込めるスポーツに出会えて良かったと思っており、一ヶ月ではあるがオリエンテーリングをできないのは残念だなと思っていた。そこで、留学前からアメリカでもオリエンテーリングをできないだろうかと思いたち、カリフォルニア州の大会や練習会を調べてみた。オリエンテーリングとは、森や公園などで地図に書かれたチェックポイントをコンパスを持って順番に回っていくナビゲーションスポーツである。だが、マイナーなスポーツであるから大会数も少なく、森などの郊外で開催されるために自力で行くのは不可能なものばかりだった。そこで、やっと見つけたのはBAOCというカリフォルニアのBay Area



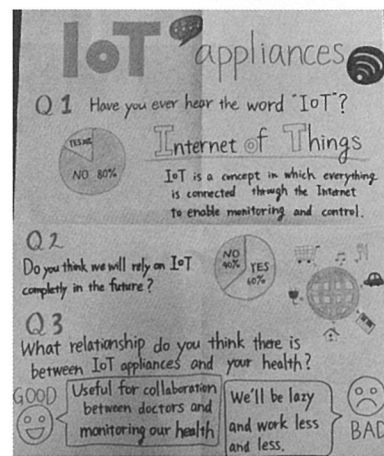
周辺で活動するオリエンテーリングクラブの主催する練習会二つだった。一つは、8月11日に行われたDiablo Valley Collegeという大学での練習会、もう一つは8月25日に開催されたBedwell Bayfront Parkという丘での練習会である。しかし、駅から歩いていくには遠い距離であったので、BAOCのメーリスでコンタクトを取り、メンバーの一人であるGeorgeが私を車で拾ってくれることになった。

初対面でありまた英語に不安を抱えていた私は、助手席にいる間中とても緊張していた。George が私に「アメリカと日本で違うことってある？」と聞いた時、私はチップの習慣について言いたかったが tips という発音がダメだったのか、なかなか通じなかった。車内にいる約1時間、発音の重要さと私のコミュニケーション能力の低さを痛感した。会場に着くと、BAOC の人たちが歓迎してくれ、また日本とは少し違ったオリエンテーリングを満喫できた。George は私にサンドウィッチをくれたし、ジュニアの世界選手権にアメリカ代表として出場していた Julia とも少しだが話すことができた。どれも日本ではできない貴重な経験であるとともに、もっとたくさんの海外のオリエンティアと話せるように英語もオリエンテーリングももっと頑張ろうとモチベーションがものすごく上がった良い経験となった。



UC Davis での授業

UC Davis では4つの英語の授業を受けた。特に印象に残っている授業は Intercultural Research Project という、自分でテーマを決めてそれについて調べて発表するプログラムだった。Science and Technology に関連するトピックを選ぶ必要があったので、興味を持っており最近話題になりつつある IoT 家電について調べることにした。まず IoT について書かれている記事を読み、関連ありそうな TED を見た。そして、授業内で留学に関係ない一般の人10人にインタビューをするという課題がでたが、この課題が留学中で一番大変だった。まず、学食にいる学生たちに声をかけたがすべての人がインタビューを快く受けてくれたわけではなく、2人に1人は忙しいからと断られた。だが、インタビューを受けてくれた人のなかには熱心に自分の意見を話してくれ、インタビューとは関係ない日常的な会話をしてくれた人もいた。すべてを聞き取れたわけではなかったが、UC Davis で学ぶ私と同じくらいの学生とコミュニケーションを取れたのはとても嬉しかった。



留学に行ってから最初の一週間は、慣れない環境や大量の宿題、言語や文化の違いによる壁に戸惑い、早く日本に帰りたと思ったときもあったが、その後の3週間は本当にあつという間で、日本ではできない体験もたくさんすることができてとても楽しかった。英語に対する意識も留学前とは変わったので、苦手な英語もこれから地道に頑張ろうと思う。英語が上達したら、お世話になったホストファミリーやオリエンティアたちと再会して今回よりもっとコミュニケーションをとりたい。

カリフォルニア大学デービス校夏季研修を終えて

理学部 情報科学科 1年

石田 瑞季

(授業内容)

授業は毎日 8:30 から 12:30 までの 4 時間ありました。内容は” Listening and Pronunciation”, ” Entrepreneurship”, ” Hot topics”, “Intercultural Research Project” の 4 つです。私は今回「理系プログラム」に参加しましたが、授業ではそこまで理系の予備知識が要求されることはありませんでした。

授業を受けて、日本の授業の方式との差異に驚きました。日本では通常、授業は教師が話すことを学生がただ聞いている、という状況が多く見受けられます。しかしアメリカでは学生が能動的に、自分の意見を持つことが求められました。そのような環境であったので、授業の内容は必然的にディスカッションが多く、生徒がその日のテーマに沿って授業を牽引したり、週末課題として自分の意見をまとめて Reflection Video を撮ることもありました。どれも日本ではほとんど経験したことのなかったことだったので最初はとても戸惑ったり、自分の意見を共有するのをためらってしまう場面がありました。ただ、私の中で今回の留学の目標が「人前で自分の意見を英語で積極的に述べること」だったので、なるべく 1 つの授業で 1 回は全体の前で発言するようにしました。

私が一番印象に残っている授業は” Intercultural Research Project” です。これは各自テーマを設定し、それぞれの出身国とアメリカでの考え方の違いについて調べて発見したことをクラスで発表するというものです。この授業では調査のために 10 人程度にインタビューを行わなければならない、これを通してスピーキング力、リスニング力、そして多くの方に回答をお願いするための精神力が身についたと思います。

(生活)

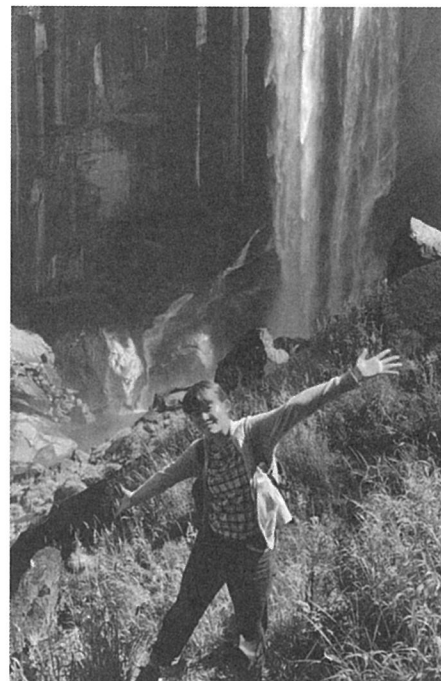
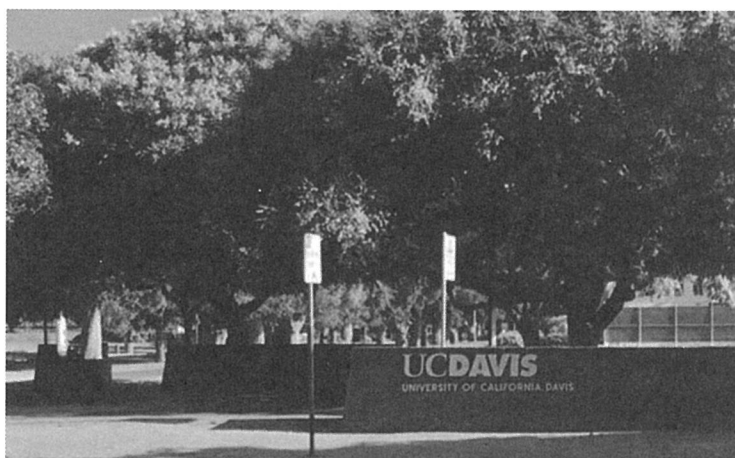
今回の留学ではホームステイを体験しました。私を含め、大学のあるデービスの隣町のウッドランドという街にホームステイ先がある人が多かったです。ウッドランドはのどかな田舎町という印象で治安も良く感じました。ホームステイをすることで日常的に使う用語を会話を通して学んだり、自分は何が欲しいのか、何をしてもらいたいのかななどを相手に伝える良い経験が出来ました。ホームステイ先の家族はとても優しい、良い方々で 1 ヶ月間楽しく過ごせました。私の滞在先の家庭では食事は朝と昼は自分で準備し、夜はホストマザーが作ってくださるという形式をとっていました。私のホストマザーは大学の事務員として働いている方だったので、朝は一緒に車で向かい、帰りは構内から出ているバスに乗ってショッピングセンターまで行き、そこから車で迎えに来てもらっていました。

(課外活動)

平日は授業が午前中に終わるので午後はキャンパス周辺のお店に行ったり、構内を回ったりしました。予想していた以上に広大な敷地に様々なオブジェなどがあって見所がたくさんありました。休日は大学の近くの映画館に行って映画を見たり、ある週末にはツアーに申し込んでヨセミテ国立公園やロサンゼルスに旅行に行きました。2箇所とも景色が素晴らしく、一生のうちにもう一度訪れたいと思うほどでした。

(研修を通して)

今回の研修を通して英語でコミュニケーションをとることへの躊躇が和らいだ気がします。もちろん1ヶ月で全てを瞬時に聞き取れるようにはなりませんし、言いたいことがうまく伝えられず苦悩する場面もたくさんありましたが、無理して難しい単語を使わなくても自信を持って話せばきちんとわかってもらえることが改めてわかりました。とても充実した、貴重な1ヶ月間でした。



カリフォルニア大学デービス校での研修を終えて

文教育学部 人文科学科
学籍番号 1610155 村上友梨

授業内容

初日にクラス分けのテストが行われ、7クラスに分かれます。テストは全てマーク形式で、内容はリスニングとリーディングでした。

授業内容はアメリカ文化やイディオム、日常英会話が中心で、プレゼンテーションの準備が少し大変でしたが、どの先生もゲームを取り入れるなど工夫して下さいたため楽しく学習することができました。現地の大学生が授業に来て会話の練習をして下さる機会が何度もあり、同世代の学生と意見を共有する良い経験にすることができたと感じています。

また、授業の1つにリサーチプロジェクトという、それぞれがアメリカ文化に関して興味があるテーマを立てて街の人10人にインタビューし、結果をプレゼンテーションする授業があったのですが、ほとんどの方々がとても親切に答えて下さいました。おかげさまで、英語力だけでなくアメリカ文化への理解を深めることができました。

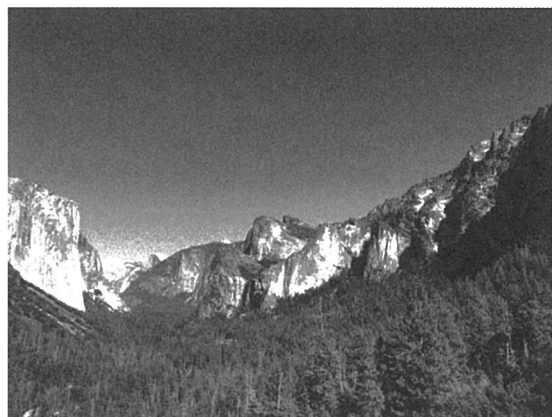


授業以外の過ごし方

金曜日も授業がなかったので、毎週3連休でした。

ロサンゼルスもしくはヨセミテ国立公園に行く任意参加のツアーがあり、ヨセミテへのツアーに申し込みました。参加者は全員留学生だったため、ガイドの方もゆっくりと説明をして下さり大まかに内容を理解することができました。

また、大学の近くにダウンタウンがあり、そこで映画を観たり買い物をしたりしました。日本の食材が買える店も2店あり、そこで調味料などを購入して和食を作ったのですが、ホストファミリーに喜んで頂けて良かったです。ただ、アメリカで調味料を買うと高くて量も多く余ってしまうので、少量の瓶に入った醤油



などを持参しても良かったと思っています。

生活について

気温は、朝晩はかなり涼しく寒いと感じるほどなのですが昼は最高気温が40度を超える日もありました。そのため半袖の服の上から薄手の羽織ものを着用していました。湿度が低く日本の夏よりは快適なのですが、日差しが強いため目が痛くなり、サングラスと帽子を購入しました。



また、私がお世話になったホストファミリーは60代のご夫婦でした。雨があまり降らず水不足のため、洗濯は週に1回、シャワーは20分以内というルールでした。

食事はファストフードのようなものが多いと思っていましたが、実際は野菜中心でした。夕食は作ってもらい、朝食と昼食はホストマザーに手伝って頂きながらサンドイッチなどを作っていました。周りのお茶大生も朝食と昼食は自分で作っている人が多かったように思います。

その他にも買い物や散歩、ジムに誘って下さり、充実した日々を過ごすことができました。とても感謝しています。

感想

学生の中に、一度海外での生活を経験してみたいと思い参加しました。行く前は不安でしたが、行ってみると毎日が新鮮で楽しく、もっと英語を話せるようになりたいと思うようになりました。英語に対するモチベーションが大きく上がったので、これからも継続して学習していこうと思います。

最後になりますが、本学奨学金で貴重な経験を支援して下さい、ありがとうございました。

カリフォルニア大学デービス校短期研修を終えて

生活科学部 心理学科

1930717 竹村美那

授業内容

文系の授業は午後であり、アメリカの社会や文化を始め、日常的な表現、ネイティブの発音などを学びました。プレゼンテーションの授業では、自分で好きなテーマを決めて質問を作り、現地に住んでいる10人にインタビューをして、まとめて発表をしました。文系プログラムはお茶大を含め日本の他3大学と別途で移民女性の授業を受けました。様々なアクティビティ、アメリカ在住の日本人女性やデービスの生徒によるパネルディスカッションなどもあり、とても充実した内容でした。移民女性の授業がある日は1日中授業なので、午後の授業の課題との両立が大変でしたが、濃い日々を過ごすことができました。全体として日本人学生の割合がほとんどだったので、授業以外では英語ではなく日本語で話してしまうことが多かったのが少し残念でしたが、私のクラスには日本以外に4カ国から参加していたので、アメリカ以外の文化も知ることができました。

課外活動

週末を使って大学主催の旅行に参加したり、自分たちで計画して観光に行ったりしました。大学主催の旅行ではヨセミテ国立公園に、自分たちではサンフランシスコ、サクラメント、レイクタホに行きました。長い時間をかけてアメリカに行ったので、勉強だけでなくたくさん観光もすべきだと思いました。ただし当然ですが旅行代は別途でかかるので、かなりお金はかかってしまいます。他にも映画を見に行ったり、毎週水曜日と土曜日に開かれるファーマーズマーケットに行ったり、ダウンタウンで食事をしたりして楽しみました。

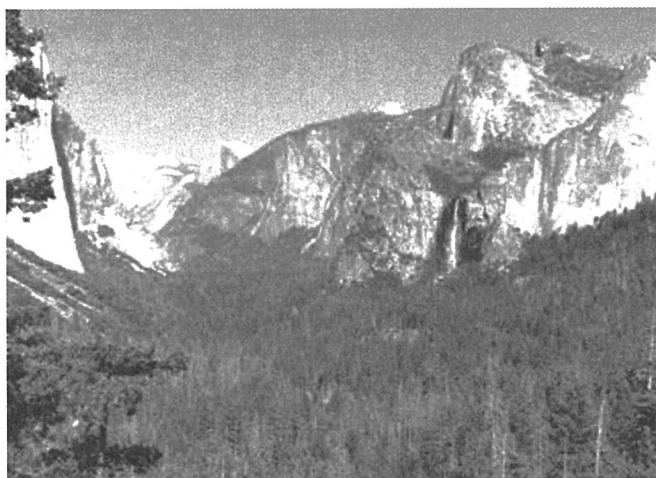


写真 1: ヨセミテ国立公園

生活全般

私はホームステイをしました。事前には知らなかったのですが、私の他にもう一人日本人学生がいて、苦楽を共にしながら過ごすことができました。私のホームステイ先にはほとんどホストマザーしかいませんでしたが、本当に親切なマザーで、家に帰ると今日あったことをや授業で学んだことを聞いてくれたり、お互いの話などもたくさんしました。他にもオススメのお店やアクティビティを紹介してくれたり、一緒に買い物や散歩に行ったりもしました。ホストマザーのおかげで授業以外にもたくさん英語を話せました。家から学校まではバスで1時間かけて通っていました。同じ境遇の日本人学生がたくさんいたので、朝、夕はバスが大混雑で大変でした。また、乗り継ぎが必要だったので、1本目が遅れると2本目がすでに出発していて、次のバスまで50分近く待つ、ということもたくさんありました。カリフォルニアは昼は気温が高く、日差しが強いですが、湿気がないので比較的過ごしやすかったです。また、デービスは治安が良く、落ち着いた良い場所でした。

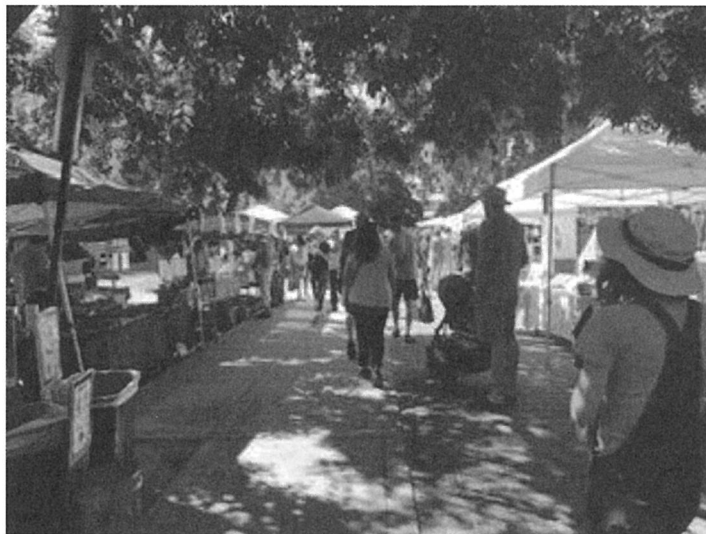


写真 2: ファーマーズマーケット

最後に

今回留学するにあたって、留学に快く送り出してくれた家族、事前講習やホームステイ、航空券の手配をしてくださった国際教育センターの先生方、その他多くの方々にお世話になりました。本当にありがとうございました。

カリフォルニア大学デービス校研修を終えて

理学部化学科 3 年

1720311 田上 湖都

8 月 8 日～9 月 8 日の 1 か月間、カリフォルニア大学デービス校 (UC Davis) での短期研修に参加してきました。以下の 3 項目 (授業内容・課外活動など・生活全般) について記述します。

【授業内容】

私は English for Science and Technology というプログラムに参加しました。初日にテストを受けてクラス分けが行われ、1 クラス 18 人程度 (ほぼ全員が日本の大学出身) で授業を受けました。4 種類の授業 (50 分) が毎日あり、その内容は科学に関する語彙を高めるものや、起業家についての授業、自分で考えたトピックについてアメリカ人にインタビューしてプロジェクトを作成するものなど様々でした。授業は全て午前中で終了しましたが、4 種類すべての授業で毎日宿題が出されたため (とても多かった!) 午後は図書館などで課題を行っていました。これらの授業を通じて、留学前と比較するとネイティブの速い英語を聞き取る能力や、伝えたいことを話したり書いたりする能力が向上したと実感しています。また週に 1 回程度、サンフランシスコの科学博物館や (図 1)、サクラメントのマイナーリーグ球場などへのフィールドトリップがあり、楽しみながらサイエンスを学ぶことができました。

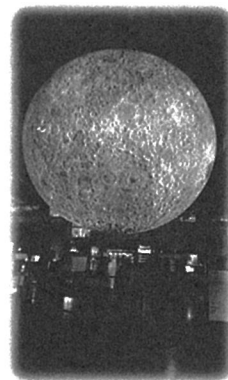


図 1 exploratorium
(San Francisco)

【課外活動など】

課外活動として主に行ったことは①他大学見学、②UC デービスでの研究室訪問、③周辺都市への観光の 3 つです。

①私はアメリカの大学院にとっても興味を持っていいため、滞在中にカリフォルニア州の有名大学へ訪問することは以前から目標としていました。実際、8・9 月は大学の夏休み期間で教授とのコンタクトをとることが難しく、研究室訪問までは叶いませんでしたが、UC バークレー (図 2) やスタンフォードなどの世界のトップ大学を訪問することができて大きな刺激を受けました。(どちらの大学も建物が宮殿のようで、ここで学べる学生はモチベーションも上がるだろうと感じました。)

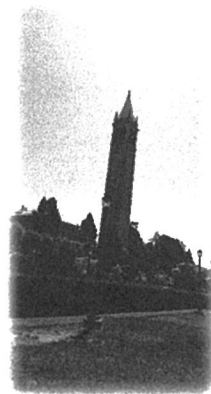


図 2 UC Berkeley

②UC デービスにも有名な化学研究室が多く存在するため、2 週目にはインストラクターにメールで研究室訪問の相談を始めました。幸いなことに、私たちの授業を担当していた先生の旦那さんが無機化学研究室の教授という奇跡的なつながりがあったため、その研究室のミーティングに参加することや、大学院生とお話することができました。やはり研究室の規模は大きく、在籍する学生はのびのびと研究に取り組んでいるようでした。

③週末には大学で仲良くなった友達とヨセミテ国立公園 (図 3) へのツアーに参加したり、サン

フランシスコ観光をしたりしました。特に、私は野球が大好きなので、サンフランシスコ・ジャイアンツの観戦ができたことはこの留学の大きな思い出の一つです。日本野球との共通点や相違点をたくさん発見できました。

ヨセミテでは裸足になって岩を上り続けたり、山を登り続けたりして滝を目の前で観察しました。壮大すぎる自然はいかにもアメリカといった感じで、とても感動しました！！（電波は皆無でした。）

また、2週目の週末と最後の休日（Labor Day）はホストファミリーと過ごしました。サクラメント地方を案内してもらったり、サクラメント・リバーキャッツ（野球）の観戦をしたりと、すべての休日を有意義に過ごすことができました。

【生活全般】

大学に手配していただいた家庭に1か月間ホームステイしました。私のステイ先は、マストマザーが日本人（30年間アメリカに滞在）、ホストファザーがアメリカ人と子供の家族でした。日本語が堪能でありながら、私のために会話にほとんど日本語を使わないところに、家族の優しさを感じました。（最終日の夜だけは日本語で会話しました！とても楽しかったです。）家は大学から少し離れたウッドランド市というところにあつたので、毎朝7時半に家を出てバス停まで送ってもらい（最寄りのバス停までも車で8分程度かかりました）、そこからバスで大学まで通いました。ホストマザーにはとても感謝しています。バス停まで毎日送り迎えしてもらい、毎日ランチも用意してもらい、また滞在した部屋が広く豪華だったので、不満な点は1つもありませんでした。ホストファザー（図4）は面白いことが大好きな方で、大学の課題で疲れて帰った夜も、ディナーのときの会話ですっかり元気になりました。

【最後に】

初めは、留学のイメージは他の国からの留学生や現地の学生と友達になれるといったものでしたが、今回の留学は少し違ったものでした。UCデービスには日本各地の大学から300人程度の留学生が派遣され、大学内も、バス停も、常に日本人で埋め尽くされるといった感じでした（笑）最初はとても驚きましたが、他大学の友達がたくさんできたことはとても嬉しかったです。みんな理系で似たような志を持っている人達だったので話も合い、毎日の課題も友達と相談することで効率よく進めることができました。

そして今回の留学を通じて、もう一度、今度はもっと長期間アメリカで学びたいと強く思えるようになりました。UCデービスでの1か月間の経験は、今後の人生の分岐点になったかもしれません。多くの出会いと素晴らしい経験が得られたUCデービスにとっても感謝しています。（図5）



図3 Yosemiteでの滝



図4 Host FatherとPizza

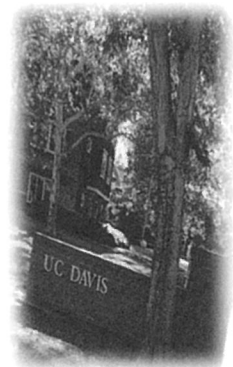


図5 UC Davis

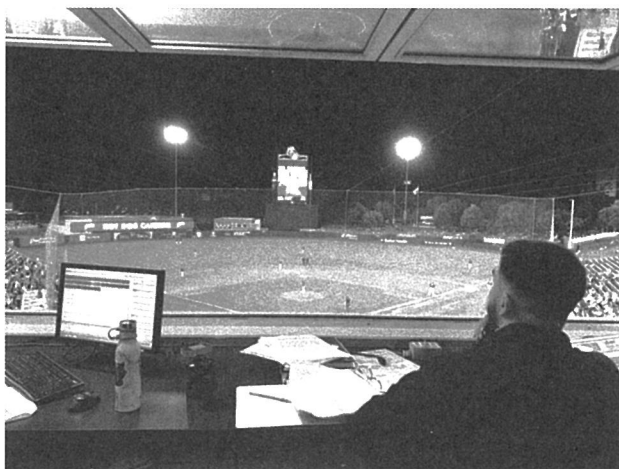
カリフォルニア大学デービス校研修を終えて

理学部情報科学科

1920537 藤元彩花

授業内容

基本的に授業での英語のスピードは速く、多々聞き取れないことがあった。授業自体は、4つのクラスに分かれており、発音、アントレプレナーシップ、サイエンスに関わるトピックについてのディスカッションをする授業、自分で選んだトピックのプレゼンテーションをする授業でした。ディスカッションの授業では週ごとのトピックに沿った動画や記事を読む宿題が毎日出ており、記事も専門性が高いものであったため単語などが難しく、毎日苦労していました。また、先生から指名されることも多々あったため、英語で意見をまとめて伝えなければいけない場面が何どもあり英語力に自信のない私は非常に苦しみました。アントレプレナーシップの授業では、ビジネスを始めるのに必要なスキルを学び、その後、ビジネスプランをグループで考えて発表しました。実際にビジネスプランを考えたときは、ただの机上の空論ではなくどの層に向けてターゲットを絞るか、またそのターゲットはどのくらいの市場規模が見込めるかなどもしっかり考慮することが求められ、一筋縄ではいきませんでした。難しかったです。プレゼンテーションの授業では、私は、アメリカ人が情報の秘匿性についてどのように思っているかについてのプレゼンをしました。プレゼンのエビデンスを作るため空きコマ等に自分たちでインタビューをしなければいけませんでした。ホストファミリーはもちろん友人のホストファミリーの同僚や現地の学生たちにインタビューをしたので、英語で人に話しかける勇気が鍛えられました。また、授業の一環でサンフランシスコで科学館に行ったり、サクラメントにある球場でサクラメントリバーキャッツの試合を見たりしました。日本にはないスタイルの席があって、日本とアメリカの野球の比較も面白かったです。



課外活動

毎週火曜日にUCDavisで行われていた会話アワーというものに参加していました。これは、日本に興味のあるUCDavisの学生と日本からの留学生との交流会のようなもので、日本語と英語どちらも飛び交っていました。授業では日本からの留学生しかおらず、現地の学生と交流する機会がなかったため、現地の学生との唯一の交流の機会でした。現地の学生は、第2外国語で日本語の授業を取っていた学生や来年からは日本の語学学校の先生として来日する予定のある学生など日本語に堪能な人が多く、英語でうまく伝えられなくとも日本語で補ってもらえたので安心してコミュニケーションをとることができました。土日には、サンフランシスコやロスアンゼルス、ヨセミテなどに行きました。サンフランシスコは、東京の混沌さに似たようなものを感じて面白かったです。しかし、街のいたるところにホームレスの人が溢れており、アメリカの大都市の影の部分も感じました。ロスアンゼルスは、ディズニーランドやハリウッドウォークオブフェイムなどを訪れました。陽射しの強さが人々を陽気な気分させ、エンターテイメントの街にしたのだと勝手に推測したりもしました。ヨセミテは、電波が届かないほどとても自然豊かなところでした。巨大な一枚岩やセコイアは今まで目にしたことのないような大きさと、日本の様に小さな島国とはスケールがあまりにも違い、ただただ息を呑むばかりでした。自然の凄まじさを感じました。

生活全般

アメリカ人は全体的に時間にルーズだと感じました。バスが1時間遅刻するなど日本では非常識とってしまう様なことが平気で起こることにどうしてもカルチャーギャップを感じてしまいました。また、学内を歩いているだけでも様々な人種の人々に会うことができアメリカが人種のるつぼと呼ばれていることを体感することができました。また、ホストマザーが政治的な活動を積極的に行っており、日本との政治への関わり方の違いを感じました。



カリフォルニア大学デービス校研修を終えて

理学部 情報科学科

1920533 馬場 涼音

<授業内容>

授業では1日4コマで発音からビジネスプランを考案する授業まで多岐にわたる内容を学んだ。以下で授業ごとに内容を振り返っていく。

1. Listening & Pronunciation

このクラスでは、リスニングと発音を中心に学んだ。リスニングでは、先生が選んだ初見の動画を見て内容を聞き取ったり、聞こえた英語を書き取るシャドーイングを行ったりした。発音では先生から渡された短いパラグラフを読むテストなどが頻繁にあった。日本人観光客とそれをもてなすアメリカ人という設定での会話を考え、先生の前で披露する機会などがあった。正直に言えば、授業内容にあまり統一感がなくこの授業によって何か成長できたかは疑問である。

2. Hot Topics

このクラスではサイエンスやテクノロジーにおいて話題になっているテーマについて英語で話しあったり、討論した。毎日先生から提示されるニュース記事や動画などをみて、自分の考えを持って授業に臨むことが宿題であった。サイエンスやテクノロジーの分野は専門用語も多く少し難しく感じる場合もあったが、興味のある分野ということもあり意欲的に取り組むことができた。大学に入ってから日本語、英語に関わらず討論したり話し合いをする機会がなかったので新鮮でおもしろい授業だった。この授業を通じて英語の文献が非常に多いと感じた。同じことを調べるにしても、英語で調べるのと日本語で調べるのでは情報量が大きく異なる。改めて英語を学ぶことの重要性に気付かされた。

3. Intercultural Research Project

この授業では、自分の興味がある分野におけるアメリカと日本の違いについて実際にアメリカ人にインタビューをするなどして調査した。私は国家がDNAデータベースを作ることに対しどう考えるかを調べた。アメリカ人にはインタビューをしたため彼らの考えを知ることができたが、日本人とはそのような話題について議論したことがなかったので、比較することが難しかった。もっと日本の文化、日本人の考えを学ぶ必要があると感じた。インタビューは現地の学生やホストマザーの同僚などに行った。突然質問しても、皆しっかりとした考えを持っており非常に驚かされた。

4. Introduction to Entrepreneurship

このクラスでは最終的にビジネスプランを立てることを目標に、それに必要な知識を英語で学んでいった。ビジネスというのは今まで全く触れたことがなかったのでビジネス用語などは少々難しく感じた。ビジネスはどちらかと言えば文系の分野だと考えていたので、サイエンスとテクノロジーのカリキュラムに組み込まれていて驚いたが、アメリカの方が

より実用的、実践的な内容を学ぶということを感じた。毎週単語テストがあったり、授業内で当てられることも多かったが全てが新鮮で興味深い授業であった。

<課外活動>

お昼頃にイベントが開催される日もあれば、英語のみを使用して会話する活動などがあった。毎週火曜日には会話 hour という英語を学ぶ日本語話者と日本語を学ぶ英語話者が交流する活動が行われていた。

私はランチタイムに行われていたカードゲームをするイベントに参加した。私のクラスは12:30 までだったこともあり、こういったイベントに参加したくても授業後にはすでに終了してしまっていることも多かった。また、周りには現地の学生よりも圧倒的に日本人留学生が多く自分から積極的に英語で話したり、日本人が少数派となるコミュニティーに参加しなければ英語力の向上は期待できないように感じたため会話 hour に参加した。そこで親しくなった学生に大学や街を案内してもらうなど良い体験ができた。

また、最終週にはロサンゼルスに二泊三日の旅行に出かけた。華やかで町全体が騒がしく、大学のあるデービスとはまた大きく雰囲気が異なる場所だった。自分が東京という大都市に住んでいるせいかロサンゼルスがそこまで発展した都市のように感じなかった。デービスで治安の悪さを感じることは無かったが、デモ行進が行われていたこともあり、ロサンゼルスは1人で歩くのには恐怖を感じた。良くも悪くも、私がイメージしていた“アメリカ”がロサンゼルスにはあった。

<生活全般>

授業は午前で終わり、週末は授業がなかったため大半の時間はホストファミリーとともに過ごした。食事を一緒に作ったり、映画を観に行ったり、買い物に行ったり、散歩に行ったり、プールに行ったり、キャンプに行ったり、まるで家族の一員であるかのように接してくれ、実に快適に楽しく過ごすことができた。ホストファミリーの友人たちともホームパーティーをしたり、食事に出かけたりと、多くの英語話者と会話をする機会があり大学での学び以上に英語力の向上の助けとなった。



家から大学まではバスが出ていたが、徒歩一時間弱ほどの距離だったので毎日歩いて通った。学校帰りに1人でスーパーやモールに歩いて行って買い物をしたり、アメリカの日常生活を楽しむことができた。

また、会話 hour で出会った学生とも一緒に出かけたり、図書館で勉強したりと仲良くなることができた。彼ともホストファミリーとも連絡を取り続けており、一ヶ月という短い期間でありながらも、このような素晴らしい出会いができた留学であった。



カリフォルニア大学デービス校研修を終えて

文教育学部 言語文化学科

1910254 富山 里桜

授業内容

私は今回、カリフォルニア大学デービス校の Communication and Culture Program に四週間参加しました。一番初めの日に英語のレベルを測りクラス分けをするためのテストが行われ、15人前後ずつ七つのクラスに分かれて、それぞれのクラスにあった内容の授業が行われました。私のクラスには日本以外の国出身の人もいて、色々な文化や習慣の違いを実際に感じる事ができたし、話し合うのは楽しかったです。授業では話すことがとても重んじられていて、グループ内で話し合ったり、発表したりすることがよくありました。先生方はとても明るく、私たちの話を理解しようとしてくれて、全員に話す機会を与えてくれたので、積極的にクラスに参加できました。それによって英語で何とか伝えようという気持ちが生まれ、スピーキングの練習にもなりました。また、個人でプレゼンテーションをしたクラスでは、ただ発表するだけでなく、その前にどのように見やすいスライドを作るか、どうしたら分かりやすい発表ができるかといったことも学びました。ほぼ毎日課題が出て平日はそれに追われる日々でしたが、英語でプレゼンテーションを作ったり長文を書いたり、確実に役に立つことがたくさん学びました。

私はこの他に、アメリカ社会での女性移民の進出という特別クラスの授業も受けました。この授業は午前中に全八回ほど行われ、日本人で現在アメリカに住んでいる方の話やデービス校にいる留学生の話の聞いたり、アメリカ国内の移民の現状、国外の女性の置かれた立場を知ったりするなど、ジェンダーや移民にまつわる様々な状況を学びました。この授業は普通のクラスに加えて行われるので大変でしたが、この授業は私の一番のお勧めです。特に、アメリカに住む日本人の話の聞く機会などはこのほかにほとんどなかったので、長年住むことによってわかる日本とアメリカの違いや、困ったことや大変だったこととその対処法など興味深い話がたくさん聞けました。またこの授業があることで、普通の授業のみを受けている人と比べて、英語を一日中聞いて話すことができ、自分のためになったと思います。

週末の過ごし方

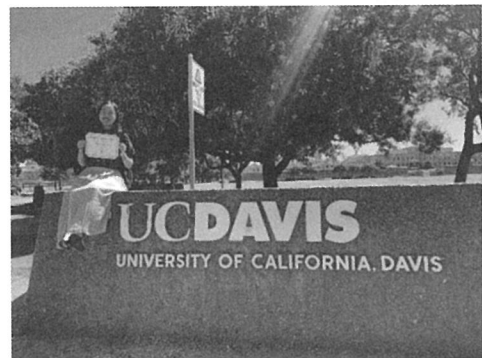
平日山のような課題と朝から夕方までの授業に追われていた代わりに、週末は思う存分楽しめました。学校は週末にヨセミテ国立公園へとロサンゼルスへの二種類のフィールドトリップを提供してくれていて、私はそのヨセミテ国立公園へのものに参加しました。巨大な滝の頂上に登ったり森の中を歩いたりして、アメリカの本当に偉大で圧倒的な自然に触れ、大満足でした。他の週末には、カリフォルニア州都のサクラメントに行って観光した

り、大きな湖を見に行ったり、大学近くのダウンタウンでお茶して映画を観たり、サンフランシスコまで出かけて観光地をめぐるしたりしました。毎週末どこかに出かけていたので、本当に充実していました。他大学の人ともたくさん交流できて、友達の輪も広がりました。ダウンタウンの美味しいアイスクリーム屋さんに通ったり、サンフランシスコの有名なクラムチャウダーを食べたり、アメリカンサイズのハンバーガーを食べたり、ファーマーズマーケットに行ったりもしました。ここに書き尽くせないくらい週末は楽しかったです。

生活全般

私のホストファミリーはラテンアメリカからの移民で、スペイン語が母語であり、出てくる料理もラテンアメリカ系のものでした。しかし積極的にコミュニケーションを取ろうとしてくれて、お互い母語でない英語で会話するのはまさにグローバル社会だと感じました、ご飯はとても美味しかったです。偶然にも、授業で習うだけでなく実際のアメリカへの移民の人と生活できたのは、とてもラッキーだったと思います。18歳のホストシスターもいて、一緒に映画を観たりジムや遊園地に行ったりして、アメリカのティーンエイジャーの生活を垣間見ることができました。朝はコーンフレーク、昼は自分で作ったサンドイッチ（学校にカフェテリアもあって、何回か食べましたが美味しかったです）、夜はホストマザーが作ってくれたご飯を主に食べていました。あまり干渉してこない家族でしたが、ご飯の時に話したり、お勧めの映画を見せてくれたりして、お互いに快適に生活できたと思います。アメリカの一番大変なところは、バスが定刻通り来ないところで、10分や20分は遅れても普通でした。私は家に帰るのに一回乗り換えなければならなかったため、一本目が遅れると乗り換えられず、次のバスまで一時間近く待たなければなりません。しかし、乗り換えるバス停にウォルマートというとても大きなスーパーがあって、友達とそこを回ったり安いクッキーを買って食べたりするのも楽しかったです。基本的にデービスや私の住んでいたウッドランドの人々は気さくで優しく、通りがけると笑顔でHelloと挨拶してくれたり、バスの中やバス停で話しかけてくれたりしました。また、治安もとてもよく、安心して生活できました。

総じて、この研修を私は本当に楽しみ、充実させ、また様々なことを学ぶことができました。参加して本当に良かったし、参加を迷っている人にはぜひお勧めしたいです。



カリフォルニア大学デービス校研修を終えて

理学部情報科学科

1920535 平野理子

(1) 授業内容

授業は午前中 8:30 から 12:30 まで、50 分の授業が 1 日 4 コマあった。毎日同じスケジュールであり、

- Listening and Pronunciation
- Entrepreneurship
- Hot Topics
- Intercultural Research Project

上記の四つの授業から構成されていた。各授業の先生は異なり、全ての先生が英語のネイティブスピーカーでいらっしやった。どの授業も質が高く、この研修に参加したからこそ体験できたと思える良い授業であった。特に印象に残っている Intercultural Research Project について紹介したいと思う。この授業ではまず第 1 週に各々アメリカに関わる研究のテーマを考え、第二週には実際に大学内で 10 人のアメリカ人に声をかけてインタビューを行い、第 3 週ではその結果を分析しパワーポイントを作り、第 4 週では一人一人発表を行った。はじめ知らない人 10 人に英語でインタビューしなくてはならないと知ったとき、これは無理だと思ってしまったが、アメリカの人々はみんな優しく答えてくださり、今ではとても素晴らしい経験ができたことに気づき感謝している。クラスは一人の中国人の女の子を除いて、全員日本人であった。中国人の女の子はとても優しく積極的に話しかけてくれて、今でも連絡をとりコミュニケーションを楽しんでいる。

(2) ホームステイ

私のホームステイ先はデービスの隣の街のウッドランドというところの田舎の住宅街にあり、安全でのどかな雰囲気であった。学校に通う方法としては大学内のバス停と、ホームステイ先から徒歩 8 分の最寄りのバス停を結ぶ、1 日朝夕合計 2 本の直行便のバスがあり、それに毎日 45 分間ほど揺られて通っていた。直行便以外にも一度乗り換える必要のある別の行き方があったが、それにはホームステイ先から徒歩 25 分のバス停まで歩く必要があり、なかなか本数も少なかったため使ったのは一度だけである。またホームステイ先の最寄りのバス停は直行便の終点で、バスは毎日のように遅れていたため、1 限に間に合ったことはなかった。1 限のクラスの先生にその旨を伝えたところ、ウッドランドに住んでいる学生のほとんどに当てはまることだそうで、優しく了承して下さったが、毎日 1 限のはじめに行われていたアクティビティーにほとんど参加することは出来なかったためとても残念な思いをした。

ホストファミリーはアメリカに20年ほど住んでいらっしゃる中国人夫妻で、お子さんはもう家を出ていらしたため、家には私とお二人夫妻、そして他大学の日本人の女の子の4人で一ヶ月をすごした。お二人の趣味は家庭菜園であり、裏庭を見させていただいても10種類以上の野菜や果物を栽培していらした。朝は自分でパンを焼きピーナツクリームや手作りのトマトジャムなどを塗って食べた。お昼は、ランチボックスを貸してくださり、焼いたパンにハムとチーズ2枚を挟んだものと、プラムを毎日持っていった。夕飯は中華風の2~3種類のおかずとご飯を用意してくださった。慌ただしい毎日の中で楽しみにしていたことの一つにホストファミリーが誘ってくださる夜の30分ほどの散歩がある。散歩中はホストファミリーとたくさんコミュニケーションをとることができ、かつ運動しながら星空を楽しむこともでき、楽しくとても良い時間であった。繁華街や学校から遠く、遊ぶのも大変であり良い立地とは言えないホームステイ先ではあったが、その分魅力も多くあり良い体験になった。しかし、ホームステイ先を申し込む時に希望したことの多くはあまり反映されていないと感じた。私はお子さんがいらっしゃるホームステイ先を希望したがお子さんは家にはおらず、逆に特に希望していなかった他の人のホームステイ先にはお子さんがいらっしゃったなんていうこともあった。ホームステイはとてもいい経験にはなるが、ホームステイ先によって違いは多くあり本当に希望通りのホームステイ先に出会うことは難しいことだと分かっていた必要があったなと感じている。

(3)、課外活動

授業終わりのお昼の時間に週に何度か軽い自主参加の課外活動が用意されていた。そこではビンゴゲームや現地の学生とお話できた。他にも17時過ぎからの課外活動がいくつかあり、是非行きたいと思ったがバスの時間があつたため、参加することは叶わなかった。週末には二回旅行に申し込んで参加し、ヨセミテ国立公園とロサンジェルスに行った。ヨセミテでは滝を見にいき深い感動を味わい、本当に行って良かったと心から思っている。週末旅行は朝6時に学校集合なのだが、私はホストファミリーに送ることはしないからUberを呼ぶように言われた。結局他の友達に頼み、その子のホストファミリーと一緒に送ってくださったが、週末旅行に申し込む前にそのことについてしっかり確認する必要があつたと思っている。

最後に何度も説明会を開き準備に協力してくださった国際留学センターのみなさま、本当にありがとうございました。



(ヨセミテでの滝)



(アメリカの街の風景)

カリフォルニア大学デービス校研修を終えて

理学部 情報科学科

1820505 岩井 遥

授業について

コースが始まる前のリスニングとリーディングのマークテストの得点でクラスがA~Gまで割り振られる。各クラスは15人程度で、クラス毎に違う時間割・教員で行われる。各1時間の理系向け授業が4つあり、朝8:30に始まり午前中で終了する。授業にもよるが大体毎日課題に取り組む事になる。特に後半の週は発表が重なったりするため忙しいと思われる。以下に各授業の概要を記載する。

1. Listening and Pronunciation

発音とリスニングについての授業。授業内では主に英文を音読して発音についてのアドバイスをもらったり、インタビューや対談などの動画を視聴してリスニングの練習をしたりした。

課題は自分の興味のある英語の動画を探して視聴してくることや、音読のスキリプトを書いてくるなどがあった。

ネイティブスピーカーにとって聞き取りやすい発音方法などといった日本にはなかなか訓練できないことに取り組めてよかった。

2. Hot Topics

生命倫理や先住民の権利といった自然科学を取り巻く問題についてディスカッションを行う授業。毎週大きなテーマがひとつ提示され、各日の授業はそれに沿った小テーマについて扱う。

翌日のテーマについての動画や記事、ラジオ音源などが指定され、それを見ることが毎日課題として出される。また、毎週その週授業で扱ったことについて2・3パラグラフ程度で自分の考えをまとめた文章あるいは三分程度同様の内容について話す動画を週1つ、各2回ずつ提出する。

加えて、全4週間の授業の内どこかでセミナーあるいはディスカッションを1人1回行う。セミナーは1人または2人でその日のテーマについて簡易的に説明するスライドとクラスで話し合ってもらいたい質問を用意し、発表後用意した質問について話し合ってもらう。ディスカッションについては4人で行い、その日のテーマに関連した議題を用意し賛成派・反対派2名ずつに分かれて三分以内で主張を述べる。

授業を通して興味深い学説や視点・考えに触れることができ、また英語で根拠とともに自分の意見を述べたり、議論をするということの練習ができた。

3. Intercultural Research Project

自分の興味のあるテーマを1つ決め、それについて10個の質問を用意して10人のアメリカ人にインタビューを行い、そのまとめを通してアメリカと日本の文化の違いを発見し発表するという授業。

課題という形では出されないが、自分で作業する時間が最も必要となる授業。最終週にはインタビューについてまとめたスライドを使って10分の発表とポスターセッションを行う。

英語での難しい話題での会話、プレゼンテーションスキルなどが鍛えられる。大変積極性を試される授業だが、量よりも質が重要。

普段はなかなか人と話し合うことのない深いテーマで話すこと自体が良い経験だと感じ、加えて文化だけにとどまらず個人の価値観が話す中でよく見えて面白かった。

4. Introduction to Entrepreneurship

著名な起業家について発表したり、グループで起業のデモンストレーションを行い、起業について学ぶ授業。発表は先述の起業家についてと、グループで考えた企業についての発表の計2回ある。

ビジネス英単語の小テストに向けて勉強することに加え、授業内での話し合いについてまとめた小レポートが出されるため、毎日1パラグラフはこの授業のために文章を書くことになる。課題が評価のほとんどを占めるため、期日と要件を守ってコツコツ課題を提出することが重要。

ビジネスや起業など初めて取り組む内容で、特にビジネス単語は辞書を引いても意味がわからないなど大変なこともあったが、毎回授業で扱う内容は飛躍せず、丁寧な説明が都度あったため新鮮に楽しんで授業を受けられた。

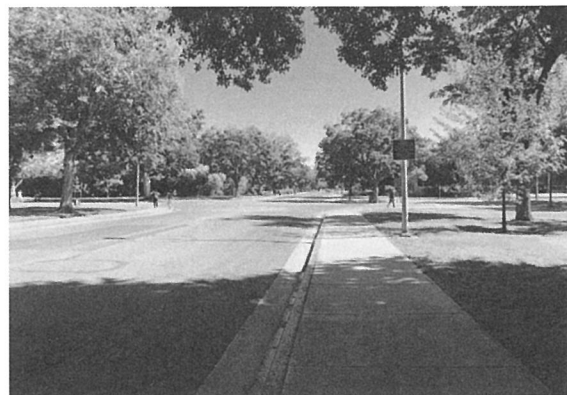
どの授業の評価も英語の練度ではなく授業に出席する・課題を期日までに出すといった参加を重視していた。また先生たちやプログラムの運営の方々が親切なので、困ったことがあったり、やりたいことがあれば、相談すると最大限協力して下さった。

課外授業について

課外授業でサンフランシスコとサクラメントに訪れた。

サンフランシスコでは Exploratorium という科学博物館とユニオンスクエアに行った。

Exploratorium は物理や数学・生物に関連した展示が沢山あり、目にも楽しかった。ユニオンスクエアは回る時間があまりなかった



のが少し残念だった。

サクラメントではリバーキャッツというマイナーリーグの野球チームの試合を観戦し、試合中のモニタ画面や音声、カメラなどの制御を行う制御室も見学した。

トリップツアーについて

希望者は週末を利用して 300 ドル程度のトリップツアーに参加できる。行き先はヨセミテ(1泊2日)とロサンゼルス(2泊3日)で、ロサンゼルスに行っている間出席できない授業も欠席扱いにはならない。集合時間が決まっていて、各自好きに回りたいところを回ることができる。

私自身はヨセミテツアーに参加し、セコイアの森やハーフドームなどを見た。滝の上まで登れるバーナル滝が壮大でとてもよかった。山道や岩などに適した靴と、多めの飲み水を持っていくと良いと思われる。

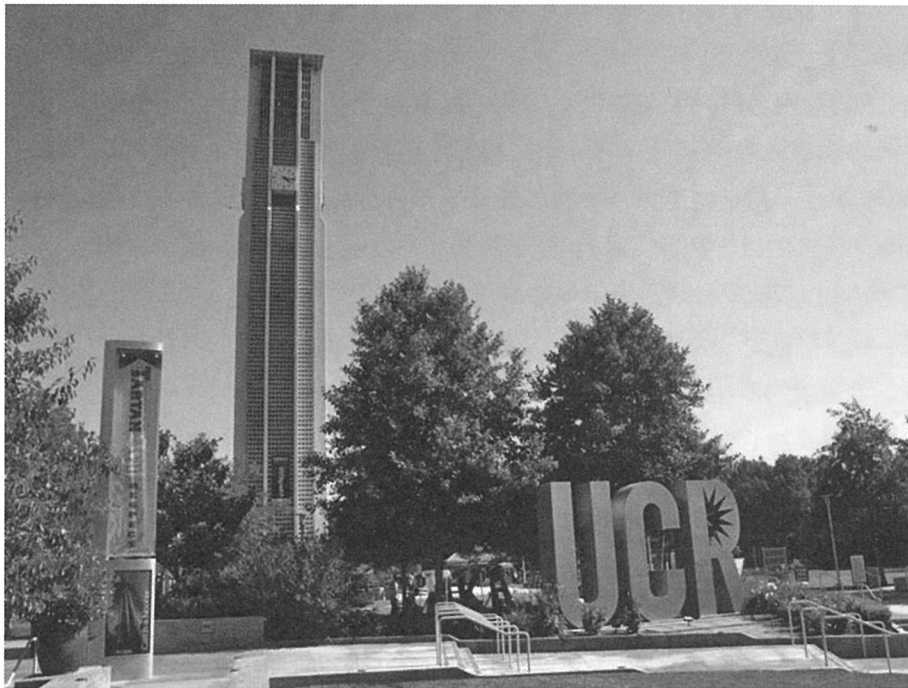


ホームステイについて

ホームステイ申し込みの際に、食事やペット・アレルギー、家族構成や英語のレベルなど多くのポイントで希望を選択できる。また、ホームステイ申し込みの時に自転車を申し込み忘れても、現地で申し込むことも可能。

私はデイビスの隣町ウッドランドでホームステイをした。ウッドランドとデイビスを結ぶバスは本数が少なく、プログラムの生徒が沢山いると乗り切れないこともしばしばあった。車社会のため、近くに歩いて行けるお店がないこともあるが、デイビス行きのバスの発着所にウォルマートがあるので、それほど不便はしなかった。ホストマザーがメキシコ系の人であったので、料理はメキシコ料理が多かった。デイビス市街にもメキシコ料理や中華料理、イタリアンもあり、学内のカフェテリアには寿司やベトナムフォーがあったので食の問題は全くなかった。また、シャンプーやリンスといったバス用品・タオル・生理用品が私のホスト先には用意されていて、またどこでも簡単に買えるので、それぞれ4・5回分もあれば大丈夫だと思われる。

申し込みの際に英語のレベルを初學者で出していた事もあり、ホストファミリーはよく私に話しかけてくれたり、単語の確認を挟んでくれたりととても親切だった。初めから完璧に話せなくても、相槌を打ったり頷いたりするところから始めれば良いのだとわかった。英語がうまくない分オープンでいる事、リアクションや感情などをアピールすること、そして伝えたいことは伝わるように言葉を尽くすことが重要だと思う。



カリフォルニア大学リバーサイド (アメリカ)

研修期間：開始日・期間選択制

滞在：ホームステイ/大学寮

研修内容：英語研修、アメリカ文化学習

カリフォルニア大学リバーサイド校研修を終えて

文教育学部 人文科学科

1年 山本礼実

・研修内容

2019年8月19日～9月13日の間、カリフォルニア大学リバーサイド校の、CCP(Culture and Communication Program)に参加しました。このプログラムは、2週間ごとのモジュールで授業内容が区切られており、私は、4週間の滞在だったので、2モジュールの授業に参加しました。

研修の具体的な内容は、午前中に3時間の授業を受け、午後は、現地の学生が中心となって開催される、様々なアクティビティに参加するというものでした。

午前中の授業は、初日に簡単な文法のテストが行われ、レベルごとに7クラスに分けられます。私のクラスには、中国、韓国、カザフスタンなど、様々な国籍の留学生がおり、また、夏休みだけの短期留学ではなく、1年や半年など、長い期間滞在している人も多くいました。授業では、TEDを見てその内容について話したり、様々な会話表現を学び、それらを用いた会話の練習をしたり、自分の体験についてのポッドキャストやエッセイを作成したりしました。クラスに参加したばかりの頃は、長期で留学している人や他国からの留学生と自分の語学力の差を感じて、あまり発言できませんでしたが、簡単な英語でも積極的に英語を喋ろうと心がけるようにしてからは、授業やクラスメイトとの交流をより楽しく感じるようになりました。宿題は毎日出て、2時間ほどで終わる量でした。

午後のアクティビティは、ディベートや会話、ワークショップだけでなく、スポーツやボードゲームなど様々なものがあり、とても楽しむことができました。

・課外活動など

放課後は、学校の近くにアイスクリームやタピオカを買いに行ったり、スーパーやスタバや映画館に行ったりしました。

週末には、学校が開催しているオプションツアーがあり、カリフォルニアディズニーランド、グリフィス天文台、サンディエゴの3つのツアーに参加しました。また、一緒にプログラムに参加したお茶大生と、自分たちで交通手段などを調べて、エンゼルスタジアムに野球を観に行ったり、ハリウッドやサンタモニカなど、ロサンゼルス観光をしたり、アウトレットに買い物に行ったりしました。自力で電車やバスを乗り継いで、観光地やお店を調べながら異国を散策することは刺激的で、とても充実した週末を過ごすことができました。



・生活全般

私は、ホームステイではなく、IV(International Village)という学校の寮に入っていました。週に2回、学校から近くのスーパーまでのバスが出ており、食料や日用品は、その特
に買っていました。洗濯は寮内のランドリーで週に2回していて、洗濯と感想合わせて、1
回4ドル弱でした。同室にはメキシコ人の学生が入っていて、寮や大学のことをいろいろ教
えてもらったり、お菓子をもらったり、毛布を貸してもらったりと、とても親切にしてもら
いました。ネイティブの学生だったので、英語を聞き取ったり伝えたりすることは大変でし
たが、お互いの国の文化や家族の話など、様々な話ができとても楽しくて為になったし、
積極的に英語を使うことができるようになりました。

・最後に

4週間という期間は、英語を習得するには短すぎましたが、たくさんの人と英語を使って
交流したことで、英語を使うことへの恐れがなくなり、文法が正しくなくても、まずは言い
たいことを伝える為に何かしら喋ってみよう、という姿勢が身につきました。今後も、英語
力のさらなる向上を目指し、大学での授業やプログラムに主体的に参加していきたいです。
また、今回の留学では、語学だけでなく、アメリカの文化について理解、様々な人たちとの
出会い、海外という慣れない環境での生活を通して得た自信など、様々なものを得ることが
でき、大変有意義な経験ができました。これらの経験を生かし、これからも様々なことに挑
戦していきたいです。

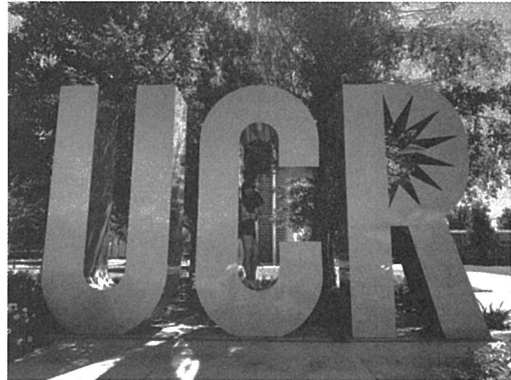


カリフォルニア大学リバーサイド校研修を終えて

文教育学部 言語文化学科
1910276 森田舞

1. 授業内容

9時から12時まで、TED Talkをもとにして作られたテキストを使い、リーディングをしたり、ペアやグループでテキストのトピックに関するディスカッションを行った。また、2週間に1度プレゼンテーションがあり、それに備えて原稿を書いたり、長めのライティングが課されたりした。TED Talkを見てリスニング力を鍛える機会も多々あった。具体的に扱った内容は、体に関する発明品や人生の決断、ドローンや自動運転などのテクノロジーについてであった。発明品やテクノロジーについてのユニットでは、専門用語にたくさん触れられた。



午後は、アクティビティと呼ばれるものやワークショップに参加した。実際にUCRで学んでいる学生の方々とゲームをしながら会話する conversation activity や、ロッククライミングやドッジボール、ダンスをする sport activity、チームワークを高める teambuilding activity などがあった。ワークショップでは、フォーマルなメールの書き方や、仕事の面接の受け方、リーダーシップとはどのようなものかなどを学んだ。

2. 生活全般



インドネシア出身の穆斯林の方のおうちにホームステイさせていただいた。10年間ほど留学生を受け入れてこられているようで、大まかな決まり事等をはじめに簡潔に説明してくれて、とても分かりやすかった。決まりといっても、自分の部屋の中では食べ物は食べない、夜出かけるときは事前にどこに行くのか何時に帰るのかなどを伝える、などの基本的なもので、自由に快適に過ごせた。もう一人、カザフ

スタンからの留学生もホームステイしており、一ヶ月一緒に暮らした。私よりも年下なのに英語が上手で、たくさん刺激を受けた。

平日の生活リズムとしては、6時起床、7時自宅出発、9時授業開始、4時半帰宅、7時晩御飯、その後自由、というものであった。ホストマザーが働いている関係で、大学には自宅から15分ほどで到着するのに、家を出るのが7時というのが、少し眠さを感じて辛く思

うこともあったが、そのおかげで規則正しい生活を送れたので良かったと思う。休日は、学校のオプションツアーに参加して、ユニバーサルスタジオハリウッドやディズニーランドに行ったり、お茶大からきたほかの三人と一緒にロサンゼルスに行ったり、angels スタジアムに大谷翔平を見に行ったりした。その他、このようなオプションツアーや友達との計画がないときは、ホストファミリーとショッピングモールに行ったり、サンタモニカビーチなどに連れて行ってもらったりした。また、イスラム教のイベントにもたくさん連れて行ってもらった。



3. 学んだこと・気づき

ただ単に英語を学んだだけでなく、英語でのプレゼンテーションの仕方や、メールの書き方、面接の受け方など、英語を使って何かをするやり方も学べた。

特に私がこの留学で学べたと思うことはイスラム教の文化についてだ。日常生活の部分でも少し書いた通り、ホストファミリーがムスリムだったため、イスラム教のイベントにたくさん連れて行ってもらえた。毎週地元のモスクに集まってお祈りしているところで、ほかのインドネシア出身のムスリムの方々とご飯を食べたり、イスラム教の犠牲祭の日に、親戚のお家を回ってインドネシア料理をいただいたり、ムスリムの娘さんの誕生日パーティーをしたり、日本には目にすることができない、観光で来ていただけでは絶対に体験することができないことを体験し、イスラム教についての知識がついた。今までイスラム教と聞くと、怖いというイメージがあったが、全くそんなことはなく、本当にいい人ばかりであった。実際、ホストファザーが「どこかで事件が起きて、犯人がムスリムであれば、すぐにテロだと騒がれる。犯人がムスリムでなければテロだと騒がれない。」とおっしゃっており、何か生きにくさを感じるような感じがした。

また、インドネシアの独立記念日のパーティーにも連れて行ってくれた。日本からの独立を祝っているパーティーに日本人の私が行っていいものなのかと、申し訳なさを感じていたが、どの人も優しく接してくれて驚いた。パーティーではインドネシアの伝統的な踊りや音楽、食べ物に触れることができ、インドネシアについて学ぶことができた。

短い期間ではありますが、この留学を通し、大きく成長できたと実感しています。サポートしてくださった方々、本当にありがとうございました。



University of California Riverside での研修を終えて

理学部 生物学科
1720402 池上菜保子

【授業内容】

UCR ではメインキャンパスとは別に留学生用の建物があり、プログラム中はそちらの建物で授業を受けました。初日にクラス分けのためのオンラインテストとオリエンテーションがあり、そのテスト結果に応じたクラスで授業を受けました。授業は 9-12 時の間 50 分ごとに 10 分の休憩をはさんで行われ、文法やアカデミックエッセイの書き方、プレゼンの仕方などを教わりました。午前中の授業は火曜から金曜の週 4 日で、宿題の量は日によって変わりますが毎日あります。2 週間を 1 module として組まれており、module を通してエッセイやプレゼンを完成させ最後の金曜日に提出しました。授業はもちろんすべて英語で行われ、聞くだけではなく少人数で話し合わなければならないこともあり、自分の意見を英語で伝える難しさを感じました。

クラスによって全体の人数や日本人の人数は変わってきますが、わたしのいたクラスは初めの module では 16 人(そのうち日本人 8 人)、次の module では全体 8 人(そのうち日本人 2 人)でした。最初の module は同じような短期プログラムで来ていた日本の他大学生と時期が被ったため、次の module で人数が減りましたが module ごとでのクラス替えというものはありませんでした。



【課外活動】

午後はアクティビティとして、普段より UCR に通う学生たちとボードゲームやスポーツなどを介して交流したり、講師の先生方からの講義を聞いたり、ディベートやプレゼンをしたりしました。午後のアクティビティは月曜から金曜まで毎日あったので月曜日だけは午後から大学に行きました。学生たちとの交流ではアメリカの文化について話したり、日本の文化が好きな現地の学生もいたので日本の話で盛り上がりたりと、授業とは違って日常的な内容の会話を楽しむことができました。

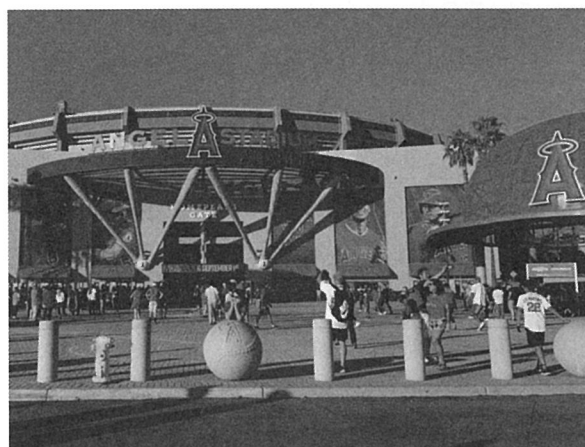
【生活全般】

UCR でのプログラムの場合、大学近くの寮に入るかホームステイかを選ぶことができた

ので、わたしはホームステイを選びました。大学への通学は毎日ホストファミリーが送り迎えをしてくれ、事前に何時にお迎えに来てほしいかを伝えれば、時間の融通も利いてくれました。

食事に関しては基本的に毎日 3 食用意してくれて、授業のある日もお昼にサンドウィッチなどを持たせてくれました。ホストファミリーと外食する日もあれば、ごはんがいないことをホストマザーに伝えて友達と外食することもできました。ステイ先にもよりますが、わたしのホストファミリーはメキシコ人だったため、家や外食でメキシコ料理を食べる機会がとても多く、メキシコ文化についていろいろと知ることができたのでこれはホームステイの良さのひとつだと思います。

週末は大学でツアーに申し込んで Disney Adventure Park や Griffith Observatory、Getty museum、San Diego などにバスで連れて行ってもらいました。そのほかにも週末は電車の 1day チケットが安いので友達と電車で Los Angeles まで出たり、大学で市内バスのフリーパスが貰えたので、それを使って Angele Stadium での野球観戦やアウトレットに行ったりと観光も楽しむことができました。



【留学を通して】

今回の短期留学を通して、とても貴重な経験ができたなと感じています。この 4 週間で自分なりにではあるけれど、listening 力が少し上がったかなと感じる一方で、まだまだ十分ではない自分の英語力にもどかしさを感じることもありました。日本にいと、英語を話す・聞くという機会を得るのはなかなか難しいですし、他の国の留学生と授業を受けることもあまりないと思います。このような環境は英語の学習において、わたしにはとてもいい刺激となりました。4 週間という期間は留学としては短いようにも思っていたのですが、思った以上に濃い時間を過ごすことができ、とても満足いく留学になりました。

カリフォルニア大学リバーサイド校短期研修を終えて

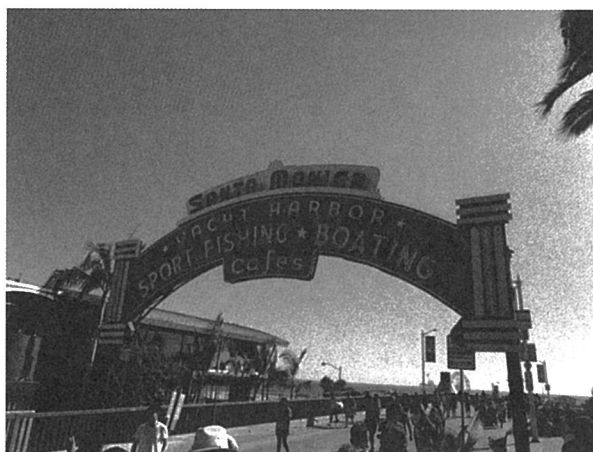
理学部 化学科 3年
1720312 田中 希実子

授業内容

授業は 9:00~12:00 (50 分×3 コマ) で、初日に受けたテストの結果によってクラスが決まりました。私のクラスは 15 人ほどで、中国、カザフスタン、サウジアラビアの留学生や、長期留学している日本人で構成されていました。2 週間ごとに最終課題があり、はじめの 2 週間はプレゼンテーション、次の 2 週間はエッセイでした。プレゼンテーションはラジオの投稿をつくるというもので、原稿作成、録音、編集をして、4 分ほどのラジオ投稿を完成させました。スピードの変化、強調、間のとり方など、聞き手を惹きつけるような技能を勉強したことが印象に残っています。エッセイでは、授業中のディスカッションでアイデアを出し合いながら自分の意見をまとめました。どちらの課題も授業中で扱うことが多かったので、宿題がものすごく多いということはありませんでした。TED の教材や文法、スピーキング課題で会話を録音することもありました。どの課題にもペアワークがあり、他の留学生はスピーキング力もリスニング力もあるので、発言できないことや聞き取れないことに落ち込むことが多かったです。しかし少しずつ慣れてくると、ペアの言っていることが聞き取れるようになってきたり、自分も少しか話せるようになってきて、成長を感じることもできました。休み時間におしゃべりをしたり、研修中で一番英語に触れている時間だったので、たくさんの刺激がありました。

課外活動

休日は大学主催のツアー (ディズニーランドやサンディエゴ) に参加したり、お茶大のメンバーと L.A. 観光をしました。アナハイム球場に大谷選手の試合を見に行くこともできました。大学からもらったフリーパスでバスを乗り継いだり、L.A. 中心部に向かう電車に乗って片道 1 時間半以上かけて移動するのが基本で、交通の便が悪いところは Uber を利用することもありました。リバーサイドは車社会なので、自分たちでどこか行こうとすると長時間かかることが多く、そこは大変でした。しかし、サンタモニカやハリウッドなどの観光地はどれも素晴らしい場所で、大学で授業を受けているだけでは感じられないものを味わうことができます。Uber や地下鉄を使うときは不安もありましたが、みんなで計画を立てて調べたり、現地の先生方に相談すればなんとかなりました。行きたい場所があるならば、せっかくの

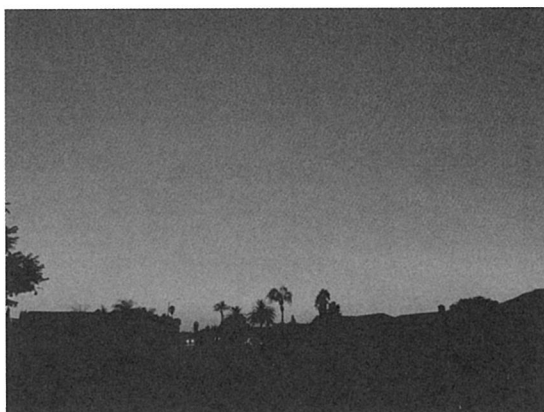


機会なので観光を楽しむこともいい経験になると思います。

生活全般

私のホームステイ先はメキシコ人の家庭でした。家庭ごとに生活のルールがあり、洗濯は週1回、シャワーはできる限り19時までで一人10分程度、22時には消灯といったようなものでした。雨が降らない地域なので、毎日洗濯をしなかったり、湯船につかる文化がなかったり、日本との違いを感じさせられることが多かったです。一番驚いたことは親戚づきあいの広さです。ママの兄妹が家にやってきてケーキを持って帰ったり、休日に突然親戚の家に行ってお飯を一緒に食べたり、孫がふらっと泊まりに来ていたり、親戚が当たり前のように家にやってきて仲良く過ごしていることがたくさんあったので、素敵な関係性だなと感じました。また、ホストファミリーが孫のベビーシッターをしていたので、毎朝子どもたちと遊べてとっても癒されました。食事に関しては、自分からいるいらぬいははっきり伝えることで量を調節してくれたので、ためらわずに伝えることが大切です。ママの作ってくれる料理がどれも本当に美味しくて、家にフルーツもたくさんあったので、食事に困ることはありませんでした。何よりメキシコ料理が大好きになりました。一緒にテレビを見たり、食事の時間に日本の文化について話したり、ホストファミリーが積極的に話しかけてくれたこともあって、会話が長くことも増えました。もちろん、うまく伝えられないことや話が理解できないこともあり、言葉の壁を感じることもありましたが、ホストファミリーが優しく聞き取ろうとしてくれたのでありがたかったです。ホームステイを通して、国の文化や人の優しさにたくさん触れることができたと思います。

4週間の研修は本当にあっという間で、一瞬で終わってしまいました。語学力に関しては、英語を話すことのためらいが少しなくなったり、前より聞き取れるようになったり、小さな変化を感じることはできました。何より、日本でどのように英語に取り組んでいけばいいのかがはっきりわかったという点が、大きな収穫だったと思います。また、留学を通して出会った人に恵まれたおかげで、充実した生活が過ごせました。一緒に参加したお茶大生、授業が一緒だった他の留学生、先生、ホストファミリー、親切に接してくれる方ばかりでとても助けられました。言語、文化が大きく異なる環境で、人間関係も0からのスタートだったので、その中で生活すること自体が自分の糧になったと思います。今までは漠然と長期留学してみたいと思っていましたが、自分の目標、課題を考えるきっかけとなりました。短期研修に参加して本当に良かったです。



↑リバーサイドは空が大きくて夕日がとても綺麗です

SO | Southern OREGON U | UNIVERSITY



南オレゴン大学（アメリカ）

研修期間：2019年8月24日～9月15日（3週間）

滞在：ホームステイ

研修内容：英語研修、アメリカ文化学習

南オレゴン大学研修を終えて

文教育学部 言語文化学科

1910265 藤井 美聡

渡航前の準備

南オレゴン大学へのサマープログラムは協定校主催であったために本校主催のプログラムよりも自分でやらなければいけないことが多くて初めは不安でしたが、生協の方や他の南オレゴン大学に派遣されるメンバーに助けをもらい乗り越えることができました。特に行きの飛行機はシアトルで乗り換えなければならず一人では自信がなかったので、お茶大生でかたまって飛行機の席をとってもらえて安心しました。準備で大切なことは分からないことや不安なことがあったときにすぐ誰かに質問したり相談して万全の状態にしておくことだと改めて分かりました。

授業

登校初日にクラス分けテストを受けて3, 4グループに分けられました。テストの内容はリスニングと文法問題のマーク、自己紹介のライティングでした。リスニングは少し聞き取るのが難しく感じましたが、このテストのために何か準備して勉強しておかなければならないというものではなかったです。授業では講義を聞いたり英語の問題を解くのではなくて先生から与えられたテーマに対する自分の意見を言ったり、プレゼンテーションやロールプレイングゲームをしました。しかし具体的に何をするかはクラスによって内容や宿題もかなり異なり驚きました。私のクラスでは何度か外部の講師の方を招いて発音の特訓を受けたりアメリカに存在する差別を受けた経験を聞いたりもしました。どれも興味深くとても面白かったです。

アクティビティ

午前に授業を受けたあとは SOU の学生スタッフ数人と一緒に様々なアクティビティへ参加しました。アメリカの大学生と直接交流できるのはこのときぐらいしかありませんでしたが彼らはたとえ英語があまり話せなくてもとても楽しく接してくれるので仲良くなりたい人は積極的に話しかけるといいと思います。アクティビティは工場見学や動物保護施設やダウンタウンへ行ったりしてオレゴンを観光しました。特に面白かったのはヘアスプレーの鑑賞です。演劇の英語はスピードが速くて聞き取るのがきついですが予習していけば十分楽しめます。鑑賞した次の日には普段は入れない舞台裏へ行き役者さんからセットや衣装の説明を聞くことができました。

生活

渡航の1週間前になってもホストファミリーの情報が何も送られてこなかったり、到着して初めて相部屋ということがわかったりして最初は少し驚きましたがとても楽しかったです。ファミリーはオレゴン大学で働くマザーと林業をするファザーと3歳の女の子で、毎年SOUにプログラムで来る日本人を受け入れているようでした。ホストファミリーは朝食と夕食を用意してくれてお風呂の時間や洗濯の回数もとくに制限はありませんでした。食事はファザーの友人が捕まえてきたエルクのミートローフやインディアン料理など日本ではなかなか食べられないアメリカの家庭料理を作ってくれておいしかったです。足りないものがあればスーパーへ連れて行ってくれると言われましたが不足するものはとくにありませんでした。家へ帰ったあとはよく私とルームメイトと3歳の女の子で遊んでいました。また相部屋での生活は初めてでしたがすぐ慣れて快適に過ごせました。

週末

週末は全部で3回ありました。1回目の週末はホストファミリーとダイヤモンドレイクにキャンプへ行きました。その間お風呂に入れなかったり、野外トイレは電気がないので日が落ちるとトイレできなかつたりしたのは大変でしたがみんなでスモアを食べたり星空を見て楽しかったです。2回目の週末はプログラムでキャンプへ行きましたがこのときはきれいなトイレやシャワーもあって快適でした。ただ結構寒かったのでセーターは必ず持っていくべきだと思います。昼は海へ行って浜辺を散歩したりハイキングに行き、夜はキャンプファイヤーをしてスモアを食べながら友達とトランプをしました。3回目の週末はポートランド旅行へ行きショッピングを楽しみました。

治安

SOUのあるアシュランドやステイ先のメドフォードはかなり治安がよく安心して生活できました。しかしポートランドはやはり都会であったためか友達と歩いているうちにうっかり危なそうな裏道へでてしまい急いで来た道に戻ったことがあります。けれど普通に注意していれば十分平気だと思います。

最後に

短期留学は初めての経験で行く前は本当に不安でいっぱいでしたが経験してみるともう帰国したくないと思うほど楽しく充実していました。プログラムを催してくださったSOUスタッフの方々、サポートしてくださったお茶大また生協の方々、ありがとうございました。

南オレゴン大学研修を終えて

生活科学部食物栄養学科

1930106 緒方理沙

学校生活

授業

初日にマークシート形式のテスト(文法とリスニング)をして3クラスに分けられました。1クラスは、南オレゴン大学の先生1人と日本人生徒13人程度でした。それぞれのクラスで授業内容は異なっていたようです。私のクラスでは、PowerPointを用いた自己紹介と日本文化の紹介、発音練習、日常会話、多様性に関する講義などを行いました。先生が頻繁に英語で質問してくださるので、聞くだけの授業ではないところがとてもよかったです。「質問はないか」と聞かれたときに誰も手を挙げなかったのを見て、先生が「日本人は控えめだ」とおっしゃっていましたが、授業への態度がアメリカの生徒とは違っていたのだろうかと思いました。また、毎日短めの日記を書く宿題があり、今日の出来事を英語で書くという体験はとても新鮮でした。授業は毎日2～3時間程度で、無い日もあったので授業だけで英語力が向上したという実感はありませんでしたが、自分の力不足を感じる良い時間でした。

授業以外

初日に水筒が配られ、給水機が大学の至る所にあるので、校内で飲み物を買ったり持って行ったりすることはありませんでした。この点では、アメリカは日本よりも環境に配慮しているように感じました。大抵授業は午前中で終わり、そこからホークという学生食堂で昼食をとり、それから様々なアクティビティに参加しました。ホークではビュッフェ形式で、アメリカンフ



ードやたくさんの野菜、果物、時々日本食のようなものを好きなだけ食べることができました。昼食の値段はプログラム費用に含まれており、お金を払うことはありませんでした。ここでは南オレゴン大学の学生の方も食事されていて、体格の違いに驚かされることが多々ありました。午後からはハイキングやボルダリング、市街で人探しゲームや工場見学などのアクティビティが用意されており、4～5人の大学のスタッフの方と日本人生徒で行動しました。また週末にはキャンプに行き、

初めてテントで眠るなど非常に楽しい時間を過ごしました。大学のスタッフの方2人は日本語が通じたので、皆日本語を話してしまっているのが残念でした。

ホームステイ

家での過ごし方

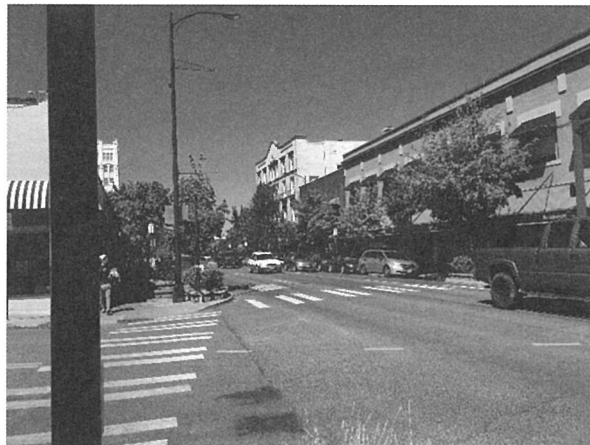
事情があり、1つの家に6人でホームステイをしました。しかし1人に1つ部屋をもらえたので快適に生活を送ることができました。非常に自然豊かなところに家があり、毎日プラネタリウムのような星空を見ることができました。平日の夜にはミュージカルに連れて行ってもらったり、週末にはショッピングや湖に連れて行ってもらいました。また、隣人やホストマザーの娘夫婦を呼んでパーティーをするなどにぎやかな日が多かったです。

食事

朝食は各自で用意し、夕食はホストマザーと一緒に作りました。ハンバーガーやホットドッグ、大豆麺の焼きそばなどが美味しかったです。ホストマザーはとても健康に気を使っている方だったので、毎日サラダや新鮮な果物を食べさせてもらっていました。野菜のパックやパンの袋などのどれも1つ1つがとても大きく、これがアメリカンサイズかと感動しました。日本では見られない野菜やチーズなど毎日が発見の連続でした。

まとめ

今回の留学では、英語力の向上とアメリカの食文化を知ることが目的としていました。実際のところ、日本語を話してしまう場面が多かったので英語力の向上はあまりできませんでしたが、発音や聞き取りなど英語力の不足を痛感するととても良い機会になりました。アメリカの食文化は高カロリー高



脂質というイメージを持っていましたが、そればかりではないということを知りました。ホストマザーが食に気を使っている方だったこともあり、健康的な食事の作り方などを学ぶことができました。今回感じたことなどを忘れず、発音や聞き取りなどの勉強を日本でも続けていきたいと思います。

南オレゴン大学研修を終えて

生活科学部人間生活学科生活文化学講座

1830435 松本のか

・授業について

南オレゴン大学のプログラムにはお茶大の他にも色々な大学から日本人の学生が参加しており、授業は 12、3 人ごとのクラスに分かれて、平日の午前中に行われました。授業内容はクラスによって違いましたが、私のクラスでは先生との対話や発音の練習、日本人学生同士でのペアワークなどがメインで、内容はそれほど難しくないものが多かったです。宿題の内容もクラスによって違い、私のクラスではほとんど出ませんでした。他のクラスと比べてこれでいいのかと初めは思いましたが、課題が少ない分自由に時間を使うことができたため、結果としては良かったかなと思っています。

授業内では、自分の英語の発音が先生に全く伝わらないのがショックでした。3 週間のプログラムで、「授業のおかげではっきり英語力が上がった！」と言うことは正直できませんが、英語を使って現地の先生と話せたことは刺激になりました。また、プレゼンの課題があり、ホストファミリーや先生に対して日本のことについて英語で話せたことが良い経験になりました。

・アクティビティについて

HAWK という大学内の食堂で昼食を食べ、(食堂はビュッフェ形式で、毎日違う料理が出ました。料理の味や現地学生の様子から手軽にアメリカの食文化を感じることができて面白かったです。) 午後からは、「アクティビティ」と呼ばれる課外活動を行いました。大学の近隣で、豊かな自然や地元産業、フレンドリーな人々に触れることができました。特に印象深かったのは、オレゴンシェイクスピアフェスティバルという劇場でミュージカルを観たことです。英語のセリフや歌を理解するのは難しかったですが、生のミュージカルを堪能できました。大学のある Ashland は小さい町でしたが、自然だけでなく文化も豊かである印象を受けました。

一方で、アクティビティは、車での長距離移動や、ハイキングなど体を動かすものが多く、体力的にはきつかったです。また、英語を使う機会がほとんどないアクティビティもあり、周りにほぼ日本人学生しかいない中で、英語を



勉強しようという意識を3週間うまく保てなかったことは反省点でした。

・生活全般について

食事など、学校外の時間はホストファミリーのもとで過ごしました。大学内ではクラスの先生や学生スタッフ以外の現地の人と関わる機会がなかったので、家でも英語やアメリカの暮らしに触れることができるのはよかったです。

私がステイした家では、1人のホストマザーのところに日本人学生が6人でステイしており、人数が多く特殊だったのですが、メンバーのお誕生日を祝ったり、近所の人を夕食に招いたりするなど、充実した生活を送ることができました。他の日本人学生から、それぞれのホストファミリーとの暮らしについて話を聞くのも楽しかったです。



・全体を通して

授業やアクティビティの中で得たものも大きかったです。それ以上に、ホストマザーとの食事や、買い物するお店の様子など、日常の中で様々なものに出会うことができたと思っています。日本の自分の故郷/今住んでいる東京とは、全く違う景色や文化に触れることができました。自分が普段いかに「日本らしい」考え方や習慣の中で生きているか、逆に気づかされることも多くありました。

3週間のプログラムの中で、ただ与えられた授業とアクティビティをこなすだけでなく、自分が何を得たいのかを考え、主体的に参加することが重要だったなと感じます。期待外れだったことや反省もありますが、研修を通し、いろいろな人と関わって、「アメリカ文化」の一言では表せない、たくさんの世界に触れることができました。この経験を、今後の英語学習はもちろん、自分の専攻の勉強など、様々なことに役立てていきたいと思っています。

関わってくださった皆さま、ありがとうございました。

南オレゴン大学研修を終えて

生活科学部 食物栄養学科

1930138 渡邊 文乃

授業

12人の日本人学生とネイティブの先生1人で、オールイングリッシュで行った。初回の授業では、ペアの片方が相手の趣味について質問し、もう片方がそれに答えて話を広げることで、英会話の練習をした。英語だけでこれほど誰かと会話をしたのは初めてで、適切な表現や単語がすぐに出てこないことが多く、流暢に話すことの難しさを実感した。一方で、文法が多少間違っているにもかかわらず、単語などが適切であれば意外と相手に伝わるのがわかり、まずは恥ずかしがらずに相手に伝えようとする意志が大切なのだと改めて感じた。また、各々が自己紹介や日本の文化についてスライドをつくり、クラスの前でプレゼンテーションを行う授業もあった。このような英語のプレゼンをするとき、以前は作った原稿をほぼ丸読みしていたけれど、今回は原稿無しでアドリブも交えてプレゼンすることができた。原稿があればスラスラと正しい文法で話すことができるかもしれない。しかし実際にクラスメイトの発表を聞いていて、途中詰まってしまうたり文法がぐちゃぐちゃになっていても、原稿を棒読みすることなく必死に伝えようとしている人の方が、聞く気が起きたし話も理解しやすいように思った。

- ・発音の授業…日本の授業ではあまり教えてくれない正しい発音の仕方を習った。R, L や、-er の発音が特に難しく、正しい発音をしないと、日本人には伝わってもネイティブの先生には伝わらないことが多かった。

- ・ダイバーシティの授業…アメリカにおける黒人差別や障害者、LGBTQ の歴史や現状について先生から話を聞き、日本や他国におけるそれらの状況と比べることで、ダイバーシティについて考えた。アメリカでは、いまだにアフリカンアメリカンが街中で差別にあっていることを知って衝撃を受けた。日本の状況をうまく先生に説明するのに苦労した。

アクティビティ

- ・スカベンジャーハントゲーム…街中でお題をクリアすることで点数を稼ぎ、グループごとに点数を競うゲーム。例えば、最も古い銀行の前でチーム全員の写真を撮ると10ポイント、見知らぬ人と腕立て伏せをしている動画を撮れば30ポイントなど。知らない外国人に英語で話しかけるのには多くの勇気が必要だった。しかし話しかけると、日本だったら不審がったり、恥ずかしがって協力してくれなさそうなことも、ほとんどの人が快く協力してくれて、アメリカ人のフレンドリーで社交的なところを感じた。アメリカだからこそできる経験ができたと思う。

- ・ジェットボート…大きなボートに乗って川を走るアトラクション。水着は着ない乗り物なのに、服が絞れるほど全身濡れになって、アメリカの大胆なところを体験することができて

面白かった。

・ミュージカル (ヘアスプレー) 鑑賞…女子高校生が人種差別と闘う話。直前にダイバーシティの授業を受けたので時代的背景などを理解した上で見ることができた。劇を見ていて、歌やダンスの迫力だけでなく、アメリカの愛情表現の大きさや、観客の反応が日本と全く異なることに衝撃を受けた。劇中でも観客は大きな声を出して笑うし、立ち上がって手を叩いたりしていた。日本ではあまり見られない光景だと思う。

③ホームステイ

まだ慣れていないはじめのうちはホストマザーの英語がうまく聞き取れないことが多く、コミュニケーションが思うようにとれないことが多かった。その上私は一人でホームステイしたので誰にも頼ることができず大変だった。しかしホストマザーと日々会話をしていくことで、聞き取れることがだんだん増えていくのを感じた。

ホストマザーとはいつも一緒にスーパーに買い物に行ってから夕飯を作ったり、犬の散歩に行ったりし、ほとんど毎日夕食後には英語の字幕付きで一緒に映画を見た。家族全員が集まったマザーの誕生日会にも参加したし、マザーの友達らと一緒にレストランに食べにも行った。休日にはショッピング、ボーリング、湖など様々なところに連れて行ってくれた。

また、私は食物栄養学科で栄養や料理に興味があるに다가、マザーも栄養学や調理に精通していたので、アメリカや日本の食生活について話し合ったり、一緒に料理できたりしたことが特に楽しかった。アメリカの家庭料理やメキシコ料理を知ったりすることができた。家では自由にテレビをみることもできたし、マザーが雑誌をくれたりしたので比較的多くの時間英語に触れることができたと思う。やはり一人でホームステイできたのが良かった。



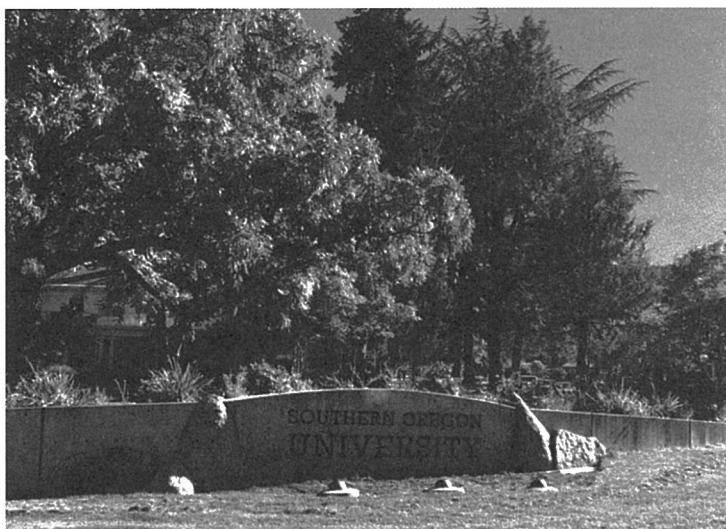
南オレゴン大学(SOU)での研修を終えて

理学部化学科 3年

1720318 福田恵美

● 授業内容

授業は3クラスに分かれて行われ、主に午後のアクティビティに合わせた内容でした。例えば、Farmer's Marketに行く前の授業は野菜や果物の発音の確認と、買い方などを学びました。それ以外の内容はそれぞれの先生に一任されていました。私たちの先生はDiversityやMartin Luther King, Jr.と自分のrole model, Indigenous people, Labor Dayといったアメリカの文化に大きく関わっていることを取り上げてくださったので、非常に大きな学びとなりました。The Ainu peopleのことについて皆でプレゼンしたり、自分の内面に踏み込んだワークを行ったりしたので、アメリカ文化のみならず、日本そして自分への理解も深まりました。



● 課外活動

今回参加したプログラムには毎日 activity が設定されており、充実した日々を過ごすことができました。

SOUがあるAshlandはOregon Shakespeare Festivalが有名で、いくつものミュージカルが上演されていました。私たちはその中のHair sprayを観に行きました。セリフは分からずとも素晴らしい歌やダンス、そして演出によってDiversityの重要性を訴えるメッセージがひしひしと伝わってきました。最高でした。

OregonそしてAshlandの美しく雄大な自然も、hikingやjet boatなどで楽しむことができました。二泊三日で行われたキャンプでは初めてテントで寝る体験をし、思ったより寝袋が快適で驚きました。その他にも大学内でRock Climingができたりするなど、盛りだく

さんな内容でした。

● ホームステイの様子



私は、マザーとシスター、もう一人の留学生、そして犬二匹と蛇一匹とともに大変楽しい時間を過ごすことができました。ホストマザーは大変陽気で、分かりやすい英語で積極的にコミュニケーションをとろうとしてくれました。英語を話すとてもいい練習になりました。ホストシスターはとても大人びていて、彼女が作ってくれたビスケットやピーチパイは留学中に食べた中で三本指に入るくらい美味しかったです。

Labor day の三連休を使って、カルフォルニアにあるマザーのお母さんの家に行きました。車で七時間かかり、新幹線のありがたみを感じました。マザーのお母さんはフィリピンと日本のハーフで、とてもチャーミングな方でした。一緒に遊園地に行ったり、サンフランシスコに行ったりしました。サンフランシスコでは、クルーズをしてアルカトラズやゴールデンブリッジを見たり、クラムチャウダーを食べたり、ケーブルカーに乗って「坂の街」を体感したりしました。父と弟へのお土産にサンフランシスコジャイアンツの帽子も買えて、大満足な旅でした。

平日の夜も、四人でアメリカのゲームをしたり、BBQをしたり、ピアノを弾いたり、カジュアルで充実した時間を過ごすことができました。ホームステイのいいところを全部味わえたように思います。

三週間は短すぎず長すぎず、ずっとフレッシュな気持ちで過ごすことができました。Ashland は人にやさしく、自然にやさしく、とてもいい街です。SOU にして本当によかったと思っています。いつか必ず、Ashland に遊びに行き、ホストファミリーに会おうと思っています。

ありがとうございました。

南オレゴン大学研修を終えて

理学部 生物学科
1820408 齋藤 杏梨

授業内容

授業は基本的に9~12時でした。到着した次の日にプレースメントテストが行われ、3つのクラスに分けられました。

テストはlistening、reading、文法のマーク問題と、自己紹介のwritingでした。それほど難しくはありませんでしたが、大学入試の知識が抜けていたため、思うようにはできませんでした。入試勉強で使っていた参考書などを少し見返して、思い出しておくと思います。

私のクラスは12人でした。自己紹介や日本の文化について10分間のプレゼンをしたり、その日の午後に参加する活動の予備知識を学んだりしました。また、ゲストティーチャーがいらして、“diversity”について学んだり、日本人にとって難しい発音の練習をしたりと、とても充実した時間を過ごしました。ペアやグループで話し合ったり、先生に1対1で質問をされたりと、話すことがメインの能動的な授業でした。ただ、時間がない中で、日記や活動報告、プレゼンの準備などの課題をこなすのが大変でした。

ホームステイ

私のホームステイ先は6人（お茶4人、信州1人、専修1人）の受け入れをしていました。はじめは、1人のホストマザーに対して6人もの日本人がいると、あまり交流できないだろうから、残念と思っていました。しかし、実際に生活してみると、とても楽しく、聞き取れなかった英語をお互い教え合うなど、協力して英語を学ぶことができました。ホストマザーは芸術家で、部屋の至る所に絵画が飾られていました。とても優しい方で、いつも私たちのために美味しいフルーツやクラッカーなどを用意してくださいました。洗濯は週に1回しかできない家もあったようですが、私の家では2日に1回できました。家が大学から近かったので毎日歩いて行きました。

食事

朝は、家にあるパンやグラノーラ、フルーツなどを食べました。

昼は、大学の学食でした。buffet形式で、野菜や肉、魚、デザートなどを好きなだけ取ることができました。はじめは少ない量でしたが、だんだん味に慣れてきてたくさん食べるようになりました。

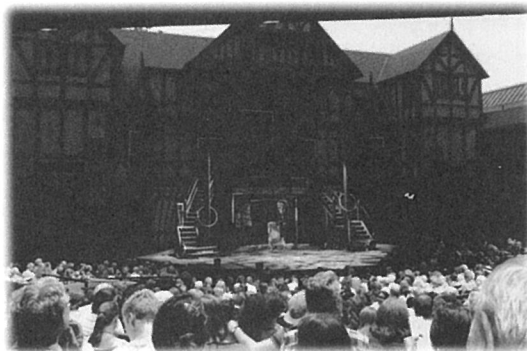


夜は、ホストマザーと私達で作りました。ホストマザーはオーガニックのものが大好きな方だったので、オーガニックサラダは毎日欠かさず食べていました。その他はポテトサラダやチキン、アジア系の麺などでした。

特にフルーツがとても美味しかったです。日本と同じフルーツでも大きさや味が異なり、面白いと思いました。

課外活動

平日の午後と土日にたくさんの活動をして、アメリカ文化を体験できました。チームでお題をこなしていく Scavenger Hunt Game や、有名なお菓子工場の Hurry and David 見学ツアー、たくさん水のかかるジェットボード、アシュランドの有名なシェイクスピア劇の鑑賞などをしました。特に印象に残っているのは、ファーマーズマーケットとキャンプです。



ファーマーズマーケットでは新鮮なフルーツや野菜、クッキーなどが売られていました。売っている人はみんなフレンドリーでした。買う前に試食もさせてもらうこともできます。

私は日本でもキャンプをしたことがなかったので心配でしたが、キャンプ場にトイレもシャワーも完備されていたのでよかったです。オレゴンの広大な自然に触れることができました。キャンプ中には、海でビーチバレーを楽しんだり、ガーデンでお花を見たり、ダウントウンで買い物したりしました。

最後に

素晴らしい方々に恵まれ、充実した3週間を過ごすことができました。初めての留学だったので、出発前は不安でいっぱいでした。しかし、実際に行ってみると、本当に楽しかったです。英語でのコミュニケーションは難しかったのですが、挑戦することが重要であることを改めて実感しました。たくさんの友人ができたことがとても嬉しかったです。また留学したいです。



南オレゴン大学研修を終えて

生活科学部 人間生活学科 発達臨床心理学講座 3年

1730471 横葉 奏

【海外短期研修に参加しようと思ったきっかけ】

今年度前期に、サンフランシスコで幼児教育にかかわる先生方の講演で聴いた、現地での幼児教育の記録や評価の実践についてのお話が興味深く感じられ、また、医療保育についての授業を履修した際には、アメリカにチャイルドライフスペシャリスト (CLS) という、医療環境にある子どもや家族を援助する専門職があるということを知った。このCLSの資格を取得できる大学の一つに、お茶大が昨年協定校として締結したミルズカレッジがある。アメリカ、特にカリフォルニアの保育の実践についてより詳しく学び、そしてCLSの資格取得を目指し、大学院に進学し、ミルズカレッジへの長期留学を考えている。そのために、現地で使われる英語に触れ、使い慣れたり、今後苦戦することなく英語の論文を読んだり書いたりできるように、今夏英語圏に留学し、英語の強化が図れるような研修に参加しようと考えた。

【当初の目標】

アカデミックなものも、日常的に使われるものも、英語を使って、自分の考えを表現したり、現地の人々や一緒に参加する友人の話に耳を傾けたりできるように、積極的に交流をする。ListeningとSpeakingが苦手なので、WritingとReadingのスキルを活かしながら、スムーズに会話ができるようにする。また、語彙を増やし、あらゆるトピックについて広く深く話し合う機会を作れるようにする。

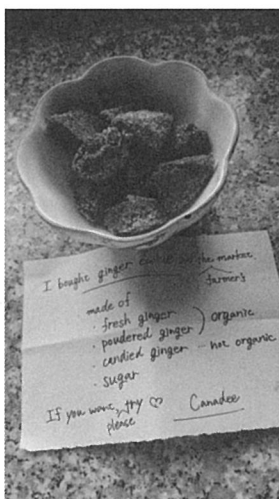
【研修の報告】

～アシュランドでのホームステイ～

Jussaraさんという女性のお家に1年生から3年生までの6人の女子学生が滞在した。私たちは3階建のゲストルームで生活しているが、Jussaraさんは敷地内の別棟の家において、登校時に裏門まで見送ってくれたり、夕食を一緒に作って食べて、話をしたり、休みの日には湖やダウンタウン、モールへ買い物に連れて行ってくださった。また、Jussaraさんは食材にこだわりを持っていて、オーガニックのものを選ぶようにしているらしい。彼女いわく、質の良くない安上がりな食事は、今は得に感じられるかもしれないが、いずれそれが溜まりに溜まって、高額な医療を受けなければならないなんてこともある、とにかく食事は真剣に考えるべきだということだ。アメリカの食生活というと、ファストフードなど体にあまり良くないもの、あるいは肉食主義やヴィーガンといった動物からは栄養を取らないといったものを想像していたが、バランスがよく、かつ

質の良いものを取り入れる、オーガニックにこだわるというのは、少し新鮮な考え方だった。

6人もの女の子が3週間一緒に過ごすとなると、海外SIMや現地の電話番号の利用ができない学生がいる中、まとまって行動しなければならなかったり、自分が予想していたのとは違う予定になって、我慢したり、不満に感じたりする場面もないわけではなかった。しかし、誕生日のルームメイトにサプライズをしたり、授業の発表やタレントショーのリハーサルをしたり、この大人数だからこそ楽しむことができた部分もあった。当初は日本人が多いということにネガティブな印象を持っていたが、それを変えていくのも私たち自身であるのだと思う。



←オーガニックを選ぶ
Jussaraさんやルームメイトにむけて、Farmer's Marketの店員さんに尋ねてきたことをメモしてシェア。

1日の主な流れ→

6:00	起床 身支度、朝食
8:30	徒歩にて登校
9:00	授業
12:00	昼食
13:00	課外活動
16:30	帰宅 洗濯、宿題、風呂
19:00	風呂
23:00	夕飯 就寝

～語学学習～

授業初日は、プレイスメントテストでクラス分けが行われた。授業では自己紹介や日本の文化についてのプレゼンテーションをしたり、担当の先生以外にも講師の先生が来て特別授業をしてくださったりした。授業内では、自分の使い慣れない単語も積極的に使ったり、伝わらないときに別の言い方を用いたり、あえてスペルを言い直したりすることで、伝わる場面があり、自力でどこまで伝える手段を探し続けるかも大切な視点なのだと思う。特別授業では、lとrの違いや、erなど日本人が発音しづらい単語の強化をするための時間や、多様性について考える時間があった。

また、家に帰ると学生同士で話す時間の方が多くなり、日本語を使ってしまうということから、自分たちの間でも英語で会話するというルールを作った。日本語が使えるということは、現地の方との会話でわからなかった部分を訳せる人がいる場合があるという点で強みがあった。

一方で、大学スタッフの学生は、日本に関心があるとか、日本に留学していたとかいう現地の学生や、日本から留学中だという学生がいたため、頼りすぎている部分もあっ

たかかもしれない。とても親切でたくさん助けてもらったが、語学強化を目標にしていたつもりが、単なる交流に終わってしまったようにも感じており、反省している。

～課外活動～

課外活動で素敵だと思った点は2つある。

第一に、現地の人々と交流できたことだ。Scavenger Hunting Game（日本の借り物競争のようなもの）にダウントウンでチャレンジした。日本は見知らぬ人と話すのは、道を尋ねるときくらいで、突然歌を歌ってとか、恋人との馴れ初めを教えてなどと言われても、間違いなく動揺してしまうだろうが、アシュランドの人々や現地の店員さんはフレンドリーにリクエストに答えてくれるばかりではなく、どこから来たのか、オススメの観光地はどこかなど積極的に話してくれたのが印象的だった。

もう一つは、普段目を向けられないものに目を向ける機会となったことだ。私自身、普段芸術鑑賞は滅多にしないのだが、庭や公園の花を見て pretty だと教えあったり、夕食後に野外劇場の舞台を観に行ったり、芸術鑑賞にかける時間がたくさんあった。なんとなく、感性が磨かれたような気がしたというのもあるが、これこそセンス・オブ・ワンダーではないだろうかと思った。Jussara さんは私たちの出発の前日に彼女の作った曲をピアノで演奏してくれて、息子の Philippi さんも独特な楽器を夕食の前に弾いて聴かせてくれたのに、心を動かされた。

【次の目標と現在の英語学習の取り組み】

大学院進学や就職活動のために、まずは TOEIC 800 点台を目指して、語彙を増やし、Listening で話の流れ、あるいはテーマだけでもつかめるようにする。学習方法としては、自分の専門領域に関する英語論文を週に1本ずつ読む、字幕付きの洋画や英語のニュースを視聴するといった自主学習の他、今回の研修参加メンバーで、昼休み中に英語で近況報告やミニディスカッション等を行い、学んできていることをアウトプットできる場を作ることで、Speaking スキルの維持をしている。





McGill



マギル大学（カナダ）

研修期間：2019年8月5日～8月23日（3週間）

滞在：大学寮

研修内容：英語研修、カナダ文化学習

マギル大学研修を終えて

文教育学部 芸術・表現行動学科 舞踊教育学コース

1810514 吉岡 真央



<留学まで>

留学をするにあたって、自分で責任を持ってやるべきことがかなりあったように思います。事前にオンラインでクラス分けのテストや、費用の支払いの際のマギル大学へのアカウント登録、往復の航空券の手配などを自分でやらなければならなかったので大変勉強になりました。一緒に行った子たちとは出国前から連絡を取れるようにしていただき、国際教育センターの方も親身になって色々対応してくださるので、周りの人の協力もあって無事出国まで漕ぎ着けました。不安でいっぱいでしたが、現地に着くと、マギル大学の目印を持ったレジデンスモニターというお世話係の人が空港で笑顔で出迎えてくれました。

<授業>

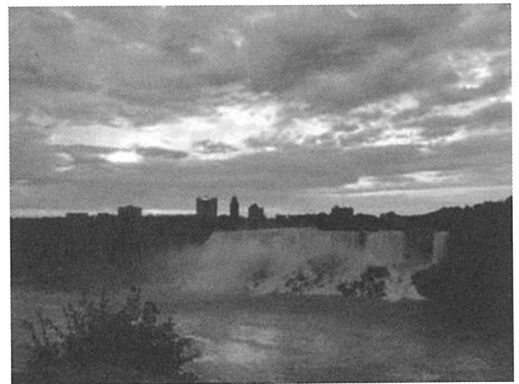
事前に行われたオンラインテストによって振り分けられたクラスで授業を受けます。午前中はカナダに関する知識を主にリスニングとスピーキングによって深めました。カナダの料理や動物、名所、硬貨などテーマは様々でした。先生は優しく、私たちの意見に耳を傾けてくれます。クラスは全員日本人でしたが、みんなが積極的に英語で発言できるようになっていったように感じます。また、授業で学習したことをもとにパワーポイントを作ってプレゼンをする時間もありました。課題が出ることもありますが、わからないときはモニターさんが手伝ってくれるので十分理解することができました。午後は学校の外に出て、アクティビティを行いました。大学のOB・OGや在学生であるクラスモニターが各クラスに3人いて、1人のモニターにつき6~7人ほどの生徒がついて1グループとなり、一緒にいろんなところへ出かけ、課題を行ったり、授業で習った内容を実際に自分の目で確認したりしました。午後の活動は、ネイティブスピーカーに対する生徒数が少ないので、英語でたくさん会話をするチャンスだと思います。また、週に1回、午後に発音の授業があります。日本人特有のジャパニーズイングリッシュの発音がコンプレックスであった私にとって、先生が教えてくださる一つ一つの発音が新たな発見でした。テキストを使って舌の位置や形、発音記号を理解しながら、ネイティブの発音を学べるのでとても勉強になりました。クラスモニターも近くにおいて、発音練習の手助けをしてくれます。

<生活全般>

留学期間中は大学から徒歩15分くらいのところにある寮（EVO）で生活を送りました。二人部屋ですが、プライバシーは守られる間取りですし、何より快適でした。ただ照明が枕元とドアのところしかなく少し暗いため、課題をするときは下のロビーに降りていました。洗濯はチャージ式のランドリーカードを一人一枚配られますが、友達と協力して洗濯するのがいいかと思います。洗濯ネットがあると便利です。食事は、朝晩を寮で食べられますが、スキップすることもできるので、たまには友達とどこかへ食べに行くのも楽しいです。寮も大学もWi-Fiは充実しています。街中でもFree Wi-Fiが繋がる場所がありますが、いざという時連絡できた方がいいので借りていくことをおすすめします。服装ですが、朝晩は結構気温が下がるため、羽織るものや長袖を持っていった方がいいと思います。最終日にはお別れパーティーがあるので、フォーマルなパーティードレスのようなものが必要です。お世話になった人たちに日本からお土産を持って行って渡すこともできます。

<課外活動>

1人のレジデンスモニターにつき12~13人の生徒でレジデンスグループというものが生まれ、夕食後のアクティビティを一緒に行います。私たちを楽しませようと、いろんなことを企画してくれたりいろんなところへ連れて行ってくれます。モントリオールの見どころを教えてくださいるので、存分に街を楽しめました。モニターと話す時はもちろん、日本人同士でも英語で会話をする環境が当たり前になっていたことは良かったと思います。



<最後に>

今回の留学で、これまでの考え方や英語に対する姿勢は確実に変わりました。以前は、英語で話すことに抵抗があったり失敗を恐れていましたが、向こうに行ってからそれ以上に、もっと英語で話したい、ネイティブスピーカーと楽しくコミュニケーションをとりたいという気持ちの方がどんどん大きくなっていきました。また、心配事や失敗を前向きに捉えてくれるカナディアンのあたたかさ、ポジティブな面が私にとってはとても魅力的で、帰国した今も私を支えてくれていると感じます。多様な文化や考えに触れられたこの3週間は一生忘れることはないと思います。最後に、今回の留学に際しお世話になった国際教育センターの方々、奨学金支援機構の皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。

マギル大学研修を終えて

文教育学部 言語文化学科

1810271 前田 ひなの

【授業】

事前に日本でクラス分けのテストを受けてから行きます。テストは辞書を使わずに与えられたテーマについて 400 語程度のエッセイを書くというものでした。私は3クラスあるうち真ん中のクラスで、各クラス16人前後でした。全体の生徒数は50人弱で、3人の中国の学生以外はみんな日本人でした。先生は簡単な単語でゆっくり話してくれたので授業はわかりやすかったです。授業ではカナダの食べ物や動物、通貨や言語など、カナダに関することを学びました。基本的にはリスニングをしてメモをとり、クラスメートと答えをシェアして内容を完璧に理解し、最初はメモを見ながら、だんだんメモを見ないようにし最後は空でリスニングの内容をスピーキングできるようにする、というものでした。すべてペアで行い、ペアは毎回違う人と組むように言われていたので、クラスメートとはすぐに仲良くなれました。先生はスピーキングを重視されていて、授業中はリスニングをしているとき以外ほとんど話していた気がします。プレゼンの準備に追われたこともありましたが、基本課題は軽いものばかりで、そこまで負担にはなりません。ただ授業内容や課題の量はクラスにより違いがあるようでした。

午前中の授業は9:30~12:00で、昼休みを挟み13:30~16:30は様々なアクティビティをしました。これがこのプログラムの魅力の1つと言って過言ではないと思います。クラスをさらに3つのグループに分け、各グループにクラスモニターと呼ばれるモニターさんがついてくださり、様々な場所に行きました。ノートルダム大聖堂やマーケット、CBC、オールドポートでのボートツアーなど、モンリオールの観光地や名所を巡り、貴重な体験をさせていただきました。午前中の授業で習ったところに実際に行ったり、授業で習ったものを実際に食べたりと、習ったことを身をもって実感できました。ずっと椅子に座って授業を受ける方が留学らしいとは思いますが、このように教室を出て活動した方が、現地の文化にもより深く触れられると思うので、私は毎日午後のアクティビティがとても楽しみでした。週に1回だけ、アクティビティの代わりに発音の授業がありました。先生が英語の発音を簡単なことから丁寧に教えてくださいました。口の開け具合、舌の位置などに着目したり、lとr、sとthの発音の違いを極めたりしました。

【休日】

最初の土曜日はみんなでオタワに行きました。マーケットに行ってお買い物したり、歴史博物館に行ったりしました。レジデンスモニターさんと一緒に行くので、困ったことがあればすぐに助けてもらえました。日曜日はフリーでした。私は仲のいい友達とモンリオールを観光しました。授業で習ったけど午後のアクティビティで行かないところに行ったり、モンリオールで有名なものを食べたり、地下のショッピングセンターでお買い物したり、とても充実した時間を過ごすことができました。2週目は金曜日から2泊3日でトロントに行きました。これはオプション

ルで、他に日帰りでケベックに行く、寮に残るという選択肢がありました。4分の3ぐらいの人がトロントに行ったように思います。トロントではナイアガラの滝をみたり、ショッピングをしたり、CNタワーに登ったりしました。一番印象に残っているのはナイアガラの滝のボートツアーです。ボートに乗って滝の目の前まで行くというものでした。レインコートを着ていましたがそんなの無意味なほどの水しぶき（もはや台風）で、みんなで騒ぎまくった忘れられない思い出となりました。

【生活全般】

全体的にほとんど不満を感じる事のない生活でした。寮に住んでいましたがマギル大学の寮ではなく、一般の方もいらっしゃいました。長期滞在向けのホテルといった感じです。部屋は2人部屋でしたが、ベッドは壁で仕切られていたのでプライベート空間もあります。たくさん収納できるクローゼット、広い洗面台など想像を上回る快適さでした。唯一の難点は部屋が暗いことです。夜になると部屋が暗く勉強するには暗すぎたので、ロビーや何人かで使える個室を利用していたりしました。ご飯は朝と夜は寮で出て、昼は近くのレストランにレジデンスモニターさんと行きました。ご飯は自由にスキップできるので、メニューに飽きてきたら外食している友達もいました。Wi-Fiは寮も大学内も完備されていて、全く困りませんでした。外に出かけるときにあったほうが便利だとは思いますが、カフェの無料Wi-Fiを使ったりもできます。マギル大学のあるモントリオールでは英語とフランス語が公用語で、看板などもフランス語の下に小さく英語が書かれているという感じでした。最低バイリンガル、トリリンガル以上も普通と聞き、日本とあまりにも違う実態に驚きました。お年寄りの方はフランス語しか話せなくて、会話に苦労したこともあります。それもいい思い出です。夜ご飯の後に映画に行ったり、ボウリングしたり、カフェに行ったり、日本食パーティーをしたりもしました。

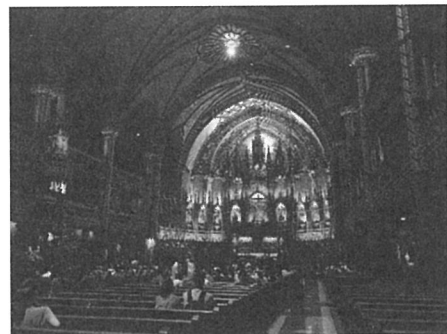
【最後に】

3週間は本当に本当にあつという間でした。最終日のお別れ会ではみんな号泣でした（笑）一緒に過ごした時間は短いけど、かけがえのない、忘れられない人たちに会えたなと思っています。どこの大学に留学をするか迷っている学生さんには心の底からマギル大学をおすすめします！



参加した人みんなが口を揃えて楽しかった、行ってよかったと言っています。不安もありましたが、向こうの空港に着いてしまえばあとはモニターさん、現地の方のおかげで楽しい毎日が待っています！

また、今回の研修にあたりお茶の水女子大学から奨学金を支給していただきました。ありがとうございました。



マギル大学短期研修を終えて

理学部数学科 2 年

1820101 足立晴日

はじめに

私が、本プログラムに参加しようと考えた理由は、今まで学んできた英語がどこまで通じるのかを体感し今後の学習に活かせるようにしたいという思いがあったからである。それと同時に視野を広げ将来に活かせるようにしたいと考えたからである。そして、積極性と協調性を身につけ、自立できるようにすることを、今回の英語能力向上以外の目標とした。

授業内容

平日 9:30~12:00 に授業があった。

第1週は、Canadian food について学んだ。具体的には、Montréal bagel, smoked meat などについてである。

第2週は、Canadian animal について学んだ。私は、具体的に、beaver, raccoons について深く学んだ。この週には、二人一組になり、各々が決めた Canadian animal についてプレゼンテーションをする時間があった。私は、この時、raccoons について調べ発表した。

第3週は、Canadian money について学んだ。また、日本とカナダを比較し、相違点を考えるという事をした。

平日 12:00~13:30 は、昼食の時間だった。そこでは、カナダで私たち学生の面倒を見てくれる monitor と英語で会話をした。

平日 13:30~15:30、週1回 pronunciation clinic という授業があった。この授業では、発音を良くするためにどのような事に意識するべきかについて今までとは異なる観点から学んだ。

課外活動

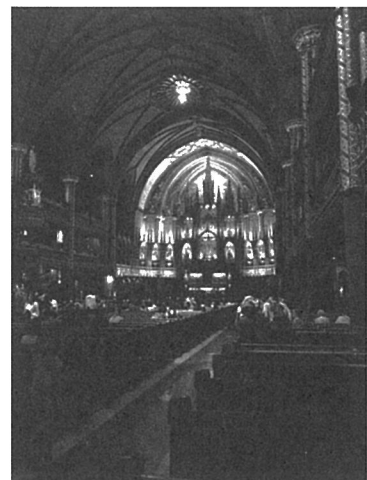
pronunciation clinic がない、週4回の平日 13:30~15:30 は、アクティビティがあった。このアクティビティでは、午前中の授業で学んだ事を活かし、実際にはどのようにしているのかを見ることを目的としていた。

また、土曜日、日曜日には、異なる課外活動があった。

第1週土曜日には、バスでオタワまで行った。そして、そこでモントリオールとは異なる街や文化について見聞きし、学んだ。

第2週土曜日、日曜日にはバスでトロントまで行った。そこで、ナイアガラの滝やトロントの街を見た。

上記の日以外は終日自由時間ということもあり、カナダでできた友達とモントリオール散策をし、Tam Tam という伝統のある festival をみた。



異なる街を歩き、そして見ていく中で文化や歴史の違いを学ぶことができたと同時に、風土の違いを感じることもできた。

生活全般

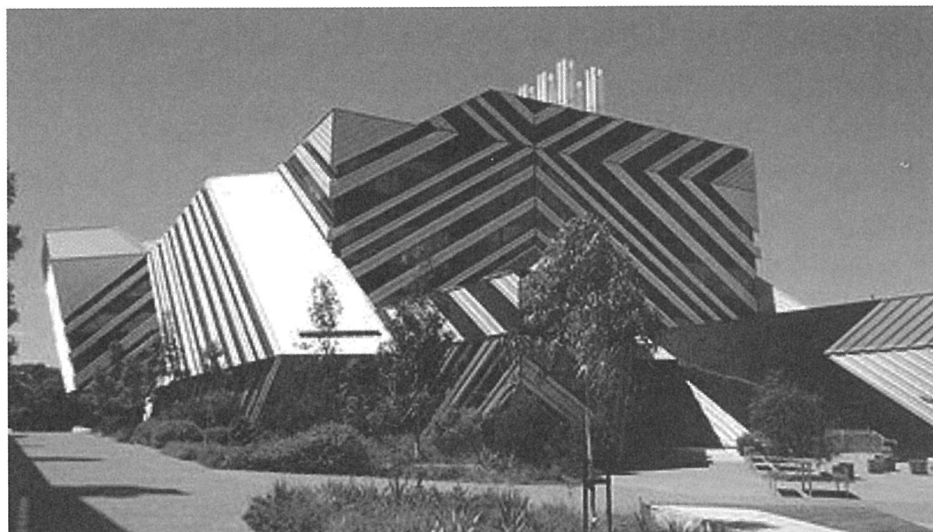
EVO と呼ばれる学生寮で3週間生活した。また、部屋は2人一部屋であったため、ルームメイトとその日にした事についてゆっくり話すことができた。何より、学生寮という事もあり、時間管理は個人に任されていた。Supper 後にある自由時間では、友達と集まり、課題を行う日もあれば、夜のモンリオールを散策する日、遊ぶ日など多様な日々を送った。そのような多様な生活を送る中で、私は協調性や自主性を身に付けることができた。

終わりに

私は、今回のマギル大学短期研修を得て、英語能力を向上させること以外にも多くのことを得ることができた。授業を通して英語能力を向上させただけでなく、カナダの文化を学び、コミュニケーション能力を向上させることもできた。また、プレゼンテーションを通し、英語で伝えることの大変さと要点を分かりやすく話すことの重要性を学んだ。課外活動を通して学ぶことが多くあった。その中のひとつが積極的であることの大切さについてである。課外活動の際には、monitor が積極的に私たちに話しかけてくれた。しかし、そこで受け身になってしまっただけでは学ぶことが少なくなってしまう。そのため、1つでも多く学ぶために積極的に自分から話しかけに行くことがとても大切だと学んだ。また、寮生活を通して、自己管理することの大切さや、協調性などを学び身に付けることができた。

私は、上記には書ききれないほど多くのことをカナダで学び、また、多くの友達を作ることができた。私は、この一ヶ月で学んだことを今後活かしていけるように精進していきたいと考えている。





モナシュ大学（オーストラリア）

研修期間：2019年8月5日 or 13日～8月30日（4週間/3週間）

滞在：ホームステイ

研修内容：英語でのキャリア学習、現地企業訪問等

モナシュ大学 GPP 帰国報告書

人間文化創成科学研究科 理学専攻
横山彩音

モナシュ大学 GPP について

研修を行ったモナシュ大学はオーストラリア最大の大学で、メルボルン内にキャンパスをいくつも備えています。今回は city にある 2 箇所のキャンパスに通いましたが、とても都会的でお店や有名なアーケードも多く、毎日楽しく通うことができました。

GPP は Global Professionals Program の略で、グローバルにキャリアを築きたい海外の学生のためのプログラムです。語学研修ではないため、英語についてのレクチャーはほとんどなく、参加者の英語レベルも非常に高いものでした。そのため、将来グローバルに働くことを視野に入れている人や、語学研修だけでは物足りないという人にはとても良いプログラムでした。日本の大学からの参加者は 3 週間か 4 週間の 2 種類の期間があり、私は研究との兼ね合いから 3 週間の方を選びました。3 週間の GPP は、1 週間ごとに 'Company, Culture, and Career' 'Professional Skills' , 'Guided Project' から構成されています。最初の週には Personal Branding や Company Culture など、自分や他文化を理解するセッションがあり、後半にはクラスごとにメルボルン市内にある企業を訪問し、スタッフの方のお話を伺ったりオフィスツアーをしていただいたりして、現地の企業について知ることができました。私のクラスは Bupa というヘルスケアカンパニーを訪問しました。従業員を大切に生産性を上げる取り組みや顧客に対するアプローチが日本企業のイメージとは異なっており、とても勉強になったと同時に海外の企業で働きたいという気持ちが強くなりました。2 週目は実際に働くにあたり、Small Talk やチームワークなど、より実践的なスキルについて学びました。現場で仕事をするイメージをしながら自分の能力や価値観を見直すのはとても興味深いことでした。更に、この週には日本人学生向けに在メルボルン日本総領事のトークセッションや三井物産への訪問、モナシュ大学の学生とのキャリアについてのディスカッションがありました。最終週は、日本の製品やサービスをオーストラリアに導入して投資してもらおうという設定でチームプレゼンテーションを行いました。その過程で海外でも通じるプレゼンスキルを学ぶことができ、大変有意義でした。普段アカデミックな研究ばかりしている中で、GPP はキャリア選択や自分の価値観について考える貴重な機会になりました。

生活について

今回のプログラムでは、3 週間ホームステイをしました。私はインドにルーツを持つ家族にお世話になりました。ご両親と娘さんが 1 人、ジャーマンシェパード 1 匹のご家族で、他に長期留学をしている女の子と、ご家族の友人の方がステイしていました。娘さんが高校生

だったので、宿題を見たり、恋愛の話をしたりして楽しく過ごすことができました。食事は3食用意してもらい、最初は異国の味や量に戸惑うこともありましたが、交渉しつつ慣れていきました。

一番大変だったのが交通機関でした。ホームステイ先からキャンパスまでは電車とバスを乗り継いで1時間程度ですが、時間通りに来ないことや遅れることが当然のようにありました。電車が遅れると途中駅を飛ばして終点まで行ってしまったり、乗り換えが悪く寒空の下50分もバスを待ったこともありました。また、週末には工事のため路線が一部運休になるなど、日本では考えられないような不便さを体験しました。メルボルン交通機関の交通機関ではSuicaのようなmyki cardが必須ですが、到着初日にホストファザーが購入を手伝ってくれ、安心して通学できました。

メルボルンは非常に治安が良く、クラスでもスリ等の被害にあった人はいませんでした。人々もとても親切で友好的に接してくれ、日本とほとんど変わらないような気分で生活することができました。

授業外の過ごし方について

研修を受けながら論文を書いていたためアクティブに授業外で何かしたということはないのですが、メルボルン市内のいろいろな場所に遊びに行くことができました。毎週水曜日には大学近くの市場でNight Marketが開催され、今年から冬開催になったWhite Nightという大きなイベントも見に行きました。同じクラスになった中国人の子と遊びに行ったり、現地に知人がいたため映画やミュージカル観劇もしてきました。知人のご家族のお家にお邪魔して、持っていった茶道セットでお茶を振る舞い、たくさん話ができただのもいい思い出です。週末にメルボルンにある加速器施設の見学に行ったのも、自分の専門分野に関わる活動ができてとても楽しかったです。

おわりに

GPPに参加する前は、オーストラリアへの興味もグローバル環境で働く意欲もどこか曖昧でしたが、3週間ですっかりメルボルンのファンになり、将来的には外国で働こうという気持ちが強くなりました。また、そのために自分が磨くべきスキルも増えてきたように感じます。いつかまたメルボルンに行けることを楽しみにしています。



モナシュ大学短期研修を終えて

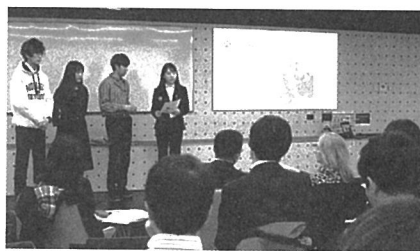
ライフサイエンス専攻 食品栄養化学コース

修士1年 小鳥井 あおい

プログラムについて

8月頭から4週間、オーストラリアのメルボルンにて、モナシュ大学モナシュカレッジの Global Professionals Program (GPP)に参加しました。GPPは「将来グローバルな企業や環境でキャリアを築きたいと考える学生のための短期集中型プログラム」なのですが、これに参加しようと思ったのは学部中に留学を躊躇したことへの後悔・今留学するなら語学+αに挑戦したい・自分の強み弱み及びどんな役割でチームに最大限貢献できるのか国際的なレベルで知りたい・海外勤務に興味がある、等の思いがきっかけでした。

授業は Moodle 教材を用い、グローバル視点・異文化マネジメント・Personal/Company Branding・Employability skills 等について頻繁なワークを交えながら理解を深めました。また、ほぼ毎週プレゼンテーションの機会があったことで授業での学びがインプットだけで終わらず、実践に移したことで得られた気づきも多かったので効率的な授業構成だったと感じます。他にも数回の企業訪問や、ゲストスピーカーとのセッション、在メルボルン日本国総領事の松永様からお話を伺う貴重な機会などを、沢山のアクティビティを用意していただきました。最終週は、これまで学んだことの集大成の1つとして、TV番組”Shark Tank”を模して「日本のモノやコトをオーストラリアへ売り込むための投資家への Pitch を想定したプレゼンテーション」にチームで取り組みました。



過去は文系学生の比率が高かったそうですが、今回日本からは商学部から医学部・農学部まで様々な分野の学生が集まり、中国やマカオの学生も教育やITなど専攻は様々で、国籍と学問分野を越えた交流はGPPならではの贅沢な機会であったと思います。

放課後・週末

授業は大体9時~16時だったので、電車やトラム(路面電車)を活用して学校帰りにも十分観光することができました。滞在中、市内 Queen Victoria Market で毎週水曜日の夜開催される Winter Market や、モナシュ大学の Clayton Campus での Winter Fest、メルボルン市内一大イベントである White Night など、メルボルンの



冬限定

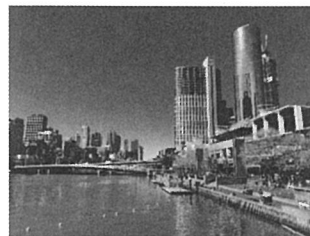
festival を堪能することができたのは一際特別な思い出となりました。他にも朝市、River Cruise、AFL(Australian Football League)、水族館、博物館、州立図書館、Great Ocean Road ツアー、一泊二日の Uluru ツアーなど、体調を崩さない程度に予定を詰め込んだお陰で日々五感

が刺激され、授業とはまた違った側面で自分の人生に影響する学びを得られたと感じています。

生活全般

ホームステイ(3食付き・1人部屋あり)は、モナシュ大学の管理下であるため終始安心でした。私がお世話になったホストファミリーは10年以上前から留学生を受け入れているご夫婦で、留学生への対応に慣れていらっしゃる事も予想以上に過ごしやすかったです。また、「将来こんな生活を送りたい!」と思うほどお二人の生活習慣などが理想的で、英語だけでなく、日々を楽しく豊かに過ごすためのヒントもお二人から学ぶことができました。滞在エリアは学生によって異なっていましたが、家から市内まで1時間前後の人が多い印象でした。

オーストラリアは夏が人気だと耳にしていましたが、オーストラリア(メルボルン)の冬もイベント等が盛沢山で本当に楽しかったです。メルボルンは“1日の中に四季がある”と言われており、朝晩は冷えるものの日中は過ごしやすい気候でした。治安も良く、どのお店もごはんが美味しく、「世界で最も住みやすい都市」の上位に毎年ランクインしている理由が大いに分かりました。また、様々な人種の方々が生活している事が当たり前のせいか英語が多少通じなくても現地の方は慣れていらっしゃるようで、嫌な顔一つせずホスピタリティに溢れた方が多い印象を受けました。



全体を通して

授業内外問わず中国やマカオの学生達から多くを学び、英語のスキルアップのモチベーションに繋がったのは勿論、大学1年生から修士2年生までの幅広いバックグラウンドを持った日本学生との交流によっても自分の特性を客観的に理解するヒントを得られました。各々が個性・特性を發揮しつつも、私が特に価値を置いている「皆がお互いを尊重し合う関係」が学生同士で体現されている場面が多く、感銘を受けた日々でした。時に自分の未熟さに気づく事もできましたし、予想以上に有意義な1ヶ月を過ごせたのは彼らがいたからに他なりません。心から感謝しています。

“Global Professionals…”という単語から、ハードルが高いプログラムだと感じ躊躇する方もいらっしゃるかもしれませんが、私も最初はそうでしたが、結果勇気を出して飛び込んでみて良かったと思っています。少しでも海外で働くことに興味がある人やグローバルな視野を持ちたいと思う人は特に、学部生・院生問わずこのプログラムを活用することで、将来の仕事だけでなく生き方の選択肢が広がり、かつ英語スキルを伸ばすトリガーにもなると思うので是非お勧めしたいです。最後に、国際教育センターの皆様、研修前や現地で大変お世話になったモナシュ大学の櫻木様、ご指導いただいた現地の先生・スタッフの皆様にご挨拶申し上げます。ありがとうございました。





이화여자대학교
EWHA WOMANS UNIVERSITY



梨花女子大学校（韓国）

研修期間：2019年8月6日～8月20日（2週間）

滞在：大学寮

研修内容：韓国語研修、韓国文化学習

梨花女子大学校への短期研修を終えて

生活科学部人間生活学科

1730447 徳丸朱里

今回私が参加した、梨花女子大学校の summer program は、韓国語の授業だけでなく、韓国文化を知る様々な講義やフィールドワークを含む、2週間の研修でした。

韓国語の授業について、その他フィールドワークについて、韓国での生活についての3つについて、報告をまとめたいと思います。

1. 韓国語授業

今回、このサマープログラムには世界各国から70名ほどが参加しており、授業はレベルごとにクラス分けがされました。まず韓国へ出発する前に、オンラインでの文法・語彙のテストを受け、提出します。そして韓国へ渡航後、プログラム開始1日目に教員との一対一での面談方式で会話のテストが行われました。この会話のテストは、とても緊張しましたが、先生はとてもあたたかく迎えてくださり、私の話せる範囲での韓国語も、優しく耳を傾けてくださりました。楽しく会話をしていたら、あっという間に時間が過ぎていきました。他の人に聞いてみると、ハングルが読めるかどうかのチェックのようなものがあった先生もいたようです。

これらの2つのテストの結果、クラスは4つに分けられ、それぞれのクラスで毎日午前中およそ3時間の韓国語の授業を受講しました。本当に自分のレベルに合った内容を学ぶことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

梨花女子大学校の授業のモットーとして、リーディングやライティングよりも、スピーキングを大切にするという方針があるようで、授業の中でもロールプレイングによる会話練習がとても多かったです。このおかげで、街に出かけたときに韓国語で話そうという自信や意欲にも繋がりました。

2. フィールドワーク

午前中の韓国語の授業の後は、梨花女子大学校の教授による講義が行われたほか、韓国の文化に関する施設を訪れるといった活動がありました。講義は、韓国の経済についてや、北朝鮮との歴史に関してなど、英語での講義だったのでとても難しかったです。今まで知らなかったことや考え方が覆されるような多くの学びがありました。

講義以外のフィールドワークでは、国立博物館を訪れ、韓国の歴史的な建造物や貴族の服装、絵画などを見学したり、映画館で韓国映画を英語字幕で観てみたりといった活動をしました。また、K-pop ダンスの体験や、大手事務所のひとつである SM エンターテインメントが運営する SM TOWN の見学をし、K-pop 文化も肌で感じることができました。また、

テレビ局 KBS では、ドラマやニュースなどの世界を体験することもできました。伝統料理を調理する体験もありました。

3. 韓国での生活

日韓関係が悪化していたため、日本人に対して否定的な声をたくさん聞くのではないかと内心不安もありました。しかし、実際に韓国で生活してみると、関係が悪いのはあくまでも政治上の問題であり、韓国の方々が皆さん反日感情を持っているわけではないということが分かり、とてもほっとしました。このような状況だったからか、店員さんがわざわざ「あなた日本人？私、日本大好きだよ。」と優しい言葉をかけてくださることもありました。

国際交流をする上で、政治上の問題が全てではないことを忘れず、人と人としての対話が重要なのだということを学びました。

韓国での2週間の研修を通して学んだことを思い出しながら、さらに韓国語の上達に向けて勉強したいと思います。





Universidad de Valladolid



バリャドリッド大学（スペイン）

研修期間：開始日・期間選択制

滞在：ホームステイ/大学寮

研修内容：スペイン語研修、スペイン文化学習

バリャドリッド大学研修を終えて

生活科学部 人間生活学科
学籍番号 1930401 青木安彌

大学での授業について

5週間の研修中、平日は毎日2～3時間のスペイン語の授業のみを受けた。授業は全て、生徒が私一人だけのマンツーマンレッスンだった。というのも、スペインへ渡航する前に、事前に日本でスペイン語のレベルチェックテストを受けさせられ、その結果をもとに授業のクラス分けを行うという大学のシステムであったが、それまでスペイン語の授業を履修したことが一度もなく、スペイン語に関して全くと言って良いほどの初心者であった私は、そのテストの解答の一つも埋める事が出来ずにそのまま送り返したからだ。しかし、5週間のマンツーマンレッスンは非常に有意義なものであった。

研修は、8月17日～9月21日までの5週間だった。最初の2週間はスペイン語のABCを発音することから始まり、授業は英語で行われた。日本にいて、英語で英語を学ぶことはあっても英語で多言語を学ぶことはなかなかなかったので、英語で行われるスペイン語の授業はなかなか斬新であった。9月からの3週間は授業中英語禁止、オールスパニッシュで授業が行われた。8月と先生も変わり、英語というコミュニケーションツールも絶たれ、最初は物凄く戸惑ったが、この授業形態のおかげで9月に入ってからスペイン語の語学力が少し伸びたような気がする。

スペインに行くとクラスが発表されるまでは、同じクラスで海外の友達がたくさん出来るのではないかととても期待していたため、マンツーマンレッスンだと分かった時は少しショックだったが、今思えばマンツーマンレッスンで本当に良かったと思う。まず、先生との距離が初日から最終日まで物凄く近かった。授業中はわからない事だらけだったが、疑問が出た瞬間に気兼ねなく質問をし、それにすぐさま回答してくださった為、非常に効率の良い有意義な時間を過ごす事が出来た。また、1から本当に丁寧にスペイン語を学ぶ事ができた。毎日課題も出されて、その課題をコツコツこなしているうちに、だんだんと自分の中で使える表現や単語が増えていくのが実感でき、とても嬉しかった。5週間の大学生活は本当に楽しくて毎日学校に行くのが楽しみで仕方なかった。



校外学習と友人

大学が、毎週末に留学生を対象とした校外学習を企画してくれ、私は3回それに参加し、セゴビア、トレド、マドリードへ行った。どれも有名な観光地ではあるがバリャドリッ

ドからは少し離れているので個人では行きにくいと思っていたが、学校の先生のガイド付きの校外学習は非常に楽しかった。また、私は普段の授業がマンツーマンレッスンであったこともあって友達がいなかったが、最初の遠足の時に他クラスのある中国人の女の子と仲良くなる事ができた。私がスペイン語をあまり話せないので共通言語は英語だったが、たくさんコミュニケーションをとることで一気に距離が縮まり、その後その女の子とは休日に2人でショッピングモールへ出かけたり、街のお祭りに参加したり、残りの遠足を一緒に回ったり、授業間の休み時間にお互いの教室へ赴き会話をしたりと、たくさんの思い出ができた。その後、その女の子と同じクラスの別の女の子1人と男の子1人とも仲良くなった。

授業がマンツーマンだと知らされた時は永遠に友達ができず終わってしまうのかと不安だったが、積極的に行事に参加し積極的に周りの人に話しかける事でスペインでもとても良い友人ができたことを嬉しく思う。

ホームステイ

私は、5週間バリャドリッドの一般家庭にホームステイをした。母親と、15歳の女の子が一人の家庭だった。15歳の女の子は日本語を勉強していて日本文化にも興味があり、日本の様々な話題ができて非常に面白かった。ホストマザーはスペイン語しか話せなかったが彼女は、英語も話す事ができた為、食卓やリビング等での会話は彼女を通しての会話が多かった。確かに、それは私にとって非常に楽なコミュニケーションではあったが、私はホストマザーとも直接会話したいと常に思っていた。しかし、スペイン語がまだ全然わからないうちはこちらからホストマザーに話しかける事ができないのはもちろん、簡単な質問等をされてもホストシスターの助けを借りずには理解できない日々が続いて少し悔しかった。

9月に入り、学校の授業のおかげでだんだんとスペイン語が話せるようになって来た頃、ホストシスターが家不在の時にホストマザーに話しかけてみた。というのもホストシスターが家にいるとどうしてもお互い頼ってしまうからだ。自分の力を試してみるという意味でも覚えたスペイン語でたくさん話しかけてみると案外理解してくれて、すごく楽しい会話ができる。その日から、私はホストシスターが食卓にいる時でもホストマザーのいうことに対してスペイン語で返答をしたりするようになり、ホストシスターの通訳に頼る事も徐々に減っていった。それは決してしんどくなく、むしろ自分の力が付いていることを実感できて嬉しかったし、何よりホストマザーとの距離がどんどん近づいている事がわかって楽しかった。

ホストマザーは料理が非常に得意だった。スペインでは3時ごろに食べる昼ごはんが1日のメインで、家族みんなですっかりと食べるのだが、毎日どの料理も非常に豪華で美味しかった。5週間のスペイン滞在中、私は一度も外食でスペイン料理を食べる事がなかった。なぜなら、ホストマザーが毎日違ったスペイン料理を昼食で出してくれたからだ。私にとって毎日の昼食の時間はスペインの生活の中で最も至福な時で



あったといっても過言ではないかもしれない。

最後に

多くの不安を抱えて一人スペインへ飛び立ったが、向こうでの5週間はかけがえない経験となった。初日からスペイン語が喋れないことによって引き起こされたトラブルもたくさんあったが、これらも今となっては良い思い出となっている。今回の研修で、チャレンジすることの大切さ、一人でも、例え言葉が通じなくてもどうにかなるという自信、そして一生忘れることのない思い出を手に入れた。



グルノーブル大学（フランス）

研修期間：2019年9月2日～9月27日（4週間）

滞在：大学寮

研修内容：フランス語研修、フランス文化学習

グルノーブル大学短期研修を終えて

理学部 情報科学科
1920532 中野 由加子

授業内容

私は今年の4月からフランス語を習い始めたので、フランス語初心者として申し込みました。授業はABCの読み方や数字から始まり、その後食べ物や職業などの名前、文法、簡単な会話の仕方を学びました。週に2回くらい小テストがありました。最後の週の後半に、学んだことをゲームなどで確認しました。授業は基本フランス語で行われましたが、具体例が多く提示され理解しやすかったです。先生が生徒に質問しながら授業が進むので、生徒が主体となって授業が進みました。リスニングとスピーキングの時間が毎日1時間弱ありました。スピーキングは録音して、最後に復習として聞くことができました。授業の流れは、教室で授業→休み時間（20分）→リスニングとスピーキング→教室で授業、計4時間でした。

授業後

授業は基本午前中に終わったので午後は友達と観光に行きました。グルノーブルは山に囲まれ、治安が良く街も綺麗でした。街にはトラムが走っているので移動に便利でした。平日には美術館・お城・教会などに行き、週末にはアヌシーやジュネーブなど少し遠くの観光地に行きました。基本自分たちで切符などの手配をしなければならなかったので大変でしたが、今回の留学の目標の一つは自立することだったので良い機会でした。自分たちで行く場所を決め、計画を立てるのは楽しかったです。



食事

私はホームステイをしていたので朝と夜はホームステイ先で食べて、昼は学校のカフェで食べました。カフェでは現金が使えなかったのが驚きました。学校のカフェは安く、サンドウィッチが約2.2€、ピザ半ホールが2€、ケーキが1.6€でした。バリエーションが豊富で多くの人がカフェを利用していました。フランスは果物や野菜が安くて美味しかったので、時々スーパーなどで買って食べました。量り売りだったので自分が好きな量だ

け買うことができたので良かったです。日本ではあまり見かけないものもあり、見るだけでも楽しかったです。日本の食材を扱う店もあり、日本に帰る前日にはホストファミリーと巻き寿司を作りました。日本食はとても喜ばれました。

おわりに

今回が初めての海外であるにも関わらず一人でフランスまで行き、いきなり4週間フランスで過ごすことに初めは不安もありました。けれど無事にフランスに着くことができ、またステイ先の方が優しく、現地では友達ができ充実した4週間を過ごすことができました。本当に貴重な経験に恵まれたと思います。

編集後記

本報告書は、2019年度夏季短期研修に参加した学生53名が、それぞれ学んだことや経験したことを振り返り、また同じくこれから短期研修に参加する学生へのメッセージとして執筆し、それらを取りまとめた報告書です。

学生の皆さんの報告を通じて、決して観光では見ることのできない光景、交わることのできない人々との出会い、そして何にもかえがたい経験があったことがわかり、留学することの意義を如実に伝えてくれています。また、単にその国の言語や文化を学ぶことに留まらず、想定外の出来事に対処する力や、見知らぬ環境で生活していく力、他者とのかかわり共生する力などが留学を通して生まれ、自己成長につながっていったことが、読み取れたかと思いません。

かつてないほどにグローバル化が進む現代社会では、インターネットやSNSを通じた「世界」や「他者」が身近にあります。そのような中で、留学に行くことにどれほどの価値があるのか、疑問に思うこともあるかもしれません。

その疑問の応えは、学生たちが記した言葉一つひとつから導き出すことができるのではないかと思います。多くの学生が「留学をしてよかった」と報告書を結びました。もちろんその「よかった」という振り返りには、語学力が伸びたこと、生活力があがったこと、多様な文化に触れたことなど、様々な経験が含意されているでしょう。一方で、共通して述べられていたのは、現地での「出会い」の尊さと「感謝」でした。留学したからこそ出会えた人々がいて、そうした人々に支えられ、助けられたことへの感謝。この短期研修の間に培われた「かかわり」が帰国後も続いていき、またそのことが学生の皆さんの新たな学習の動機として記されていたことに、何にもかえがたい留学の意義が感じられました。

本報告書が、以上のような研修参加者の振り返りの機会としての役割を果たすとともに、留学を検討している未来の研修参加者の皆さんの背中を押す一助となることを願っております。

国際教育センター アソシエイトフェロー
鈴木芽以

2019 年度夏季 海外短期研修報告書

発行日 2020 年 2 月
発行 お茶の水女子大学 国際教育センター
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1
TEL: 03-5978-5913

研修・編集担当 国際教育センター
アソシエイトフェロー 鈴木芽以

